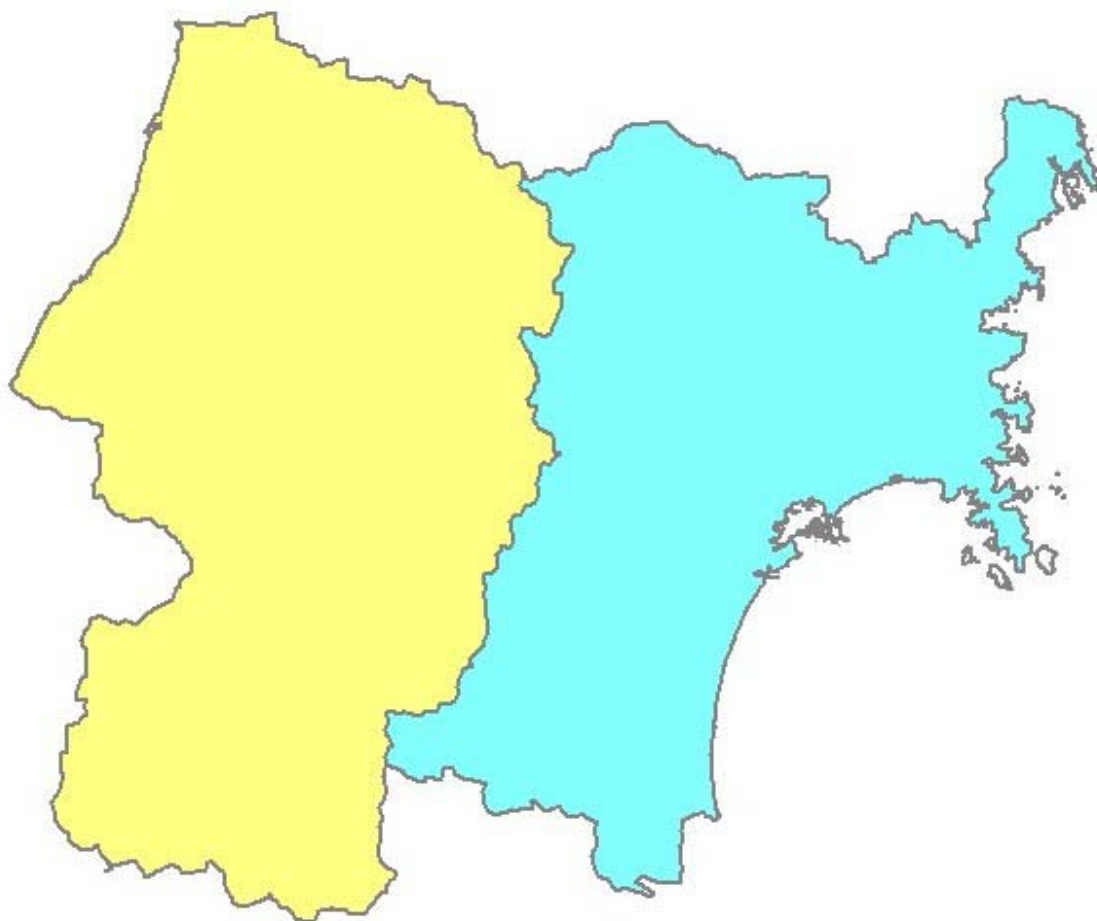


『宮城・山形の連携に関する基本構想』

## 【みらい創造！MYハーモニープラン】

～未来を拓く東北の中核圏域「宮城・山形」の形成を目指して～



平成19年3月  
宮城県・山形県

## 目 次

### 「宮城・山形の連携に関する基本構想」策定の趣旨

1 . 策定の背景と目的 . . . . .	1
2 . 構想の性格 . . . . .	3
3 . 構想の期間 . . . . .	3
4 . 構想の対象区域 . . . . .	3
5 . 構想の推進方策 . . . . .	3

### 構想の基本的方向性

1 . 宮城・山形が目指す圏域の将来像 . . . . .	4
2 . 圏域形成の基本方向 . . . . .	9

### 将来像の実現に向けた取組の方向性と具体的方策

1 . 広域環境・生活圏の形成 . . . . .	15
2 . 広域経済圏の形成 . . . . .	18
3 . 広域交流圏の形成 . . . . .	22

構想の実現に向けて . . . . .	26
---------------------	----

< 参考資料 > 宮城・山形両県の現況 . . . . .	27
-------------------------------	----

# 「宮城・山形の連携に関する基本構想」策定の趣旨

---

## 1. 策定の背景と目的

### (1) 宮城・山形の交流・連携をめぐるこれまでの動き

平成10年に、「新・全国総合開発計画～21世紀の国土のグランドデザイン～」が策定され、一極一軸集中型から多軸型の国土構造への転換を進めるための戦略的な施策として、「地域連携軸の展開」が示されました。

宮城・山形両県では、東北横断自動車道酒田線の整備進展を背景に、県境を越えた住民の日常的な交流や経済活動などが着実に拡大し、仙台市を中心とする仙台都市圏と山形市を中心とする山形都市圏による一体的な都市圏（以下「仙台・山形都市圏」という。）の形成が進んできました。

これらの動きに対応して、平成8年度には、両県の官民による宮城・山形地域連携推進会議が設置され、シンポジウムの開催をはじめ、両県の連携促進に向けた機運の醸成などの取組が進められてきました。

近年では、自動車関連産業や情報通信産業の集積促進、広域観光の推進、県境地域の交流促進など、さまざまな分野での交流・連携が活発に展開されています。

### (2) 宮城・山形を取り巻く環境の変化

こうした中で、両県を取り巻く環境は大きく変化しています。

#### 人口減少社会の到来

我が国が本格的な人口減少社会へ移行し、宮城・山形両県においても今後さらに人口減少が進行すると見込まれます。

労働力人口の減少や国内市場の縮小による経済成長力の低下に相まって、地域社会の活力減退が懸念される中で、自律的な発展を可能とする新しい社会経済システムを構築することが求められています。

#### 大競争時代の到来

社会経済のグローバル化が一層進展するなかで、経済的な自立と活性化を図っていくため、スケールメリットを発揮して国内外との競争で優位に立てる、広域的な経済圏域を新たに形成していくことが求められています。

#### 環境の時代の幕開け

環境問題の深刻化や資源・エネルギーの制約、人々の自然志向・健康志向の高まりを背景に、自然との調和や資源の循環を重視した持続的に発展する社会の構築が求められています。

こうした中で、豊かな自然環境や良好な生活環境を保全・創造するとともに、責任を持って次の世代に継承していくことが求められています。

#### 地方分権の進展

地方分権の進展や道州制の本格的な検討の開始、国と地方の協働による新しい国土計画制度の導入などにみられるように、分権型社会の形成に向けた動きは着実に進展しています。

真の地方自治、あるべき分権型社会の実現に向けた国への働きかけなどを行いつつ、自立した地域づくりに向けて地域自らの選択と責任に基づく主体的な取組を進めていくことが求められています。

一方で、地方財政を取り巻く環境は一段と厳しさを増し、従来のように全ての分野に行政投資を行うことが難しくなっていることから、両県が持つ地域特性や地域資源の効果的かつ効率的な活用を図るために、両県間においては、協力・協働にとどまらず、さらに補完や分担といった観点からも、より一層の連携を進めていく必要があります。

#### 両県間の交流・連携の拡大

高速交通網の発達等に伴い住民の生活行動範囲がますます拡大しており、特に仙台・山形都市圏では通勤・通学を含めた生活圏の一体化がさらに進んでいます。

こうした中で、両県民の暮らしの安全・安心の確保や良好な生活環境づくりなど、県境にとらわれない広域的な視点に立った取組を進めていくことがますます重要になっています。

### (3) 宮城・山形の交流・連携を新たなステージへ

「宮城・山形の連携に関する基本構想」は、宮城・山形両県を取り巻くこのような環境変化を踏まえつつ、分権型社会にふさわしい真に自立した地域社会の形成に向けて両県が目指すべき圏域の将来像とその実現に向けた取組の方向性を共有化するために策定するものです。

両県は、本構想に基づき、事業の共同実施や役割分担・機能分担によって行政投資の効率化を図りつつ、それぞれの有する地域資源やポテンシャルを磨き合い、相互に補完・共有化し、圏域の発展を図ります。

また、両県の異なる魅力や資源を融合して新たな価値を生み出すなど、多様で実効性の高い連携を進めていきます。

さらには、両県はもとより、新潟県を含む東北7県で構成される広域ブロックとしての東北圏域が、国内他圏域や東アジアをはじめとする世界において確固たる存在を示すことができるよう、両県の連携強化を核として、高次の都市機能や学術研究機能、国際機能、交流基盤機能などの中枢機能の集積・強化を進め、東北圏域全体の発展を牽引する役割を果たしていきます。

## 2．構想の性格

本構想は、宮城・山形両県が共に目指す圏域の将来像を明らかにし、さらにその将来像の実現に向けた取組の方向性と具体策を共有するため、「宮城の将来ビジョン」(平成19年3月策定)と「やまがた総合発展計画」(平成18年3月策定)を踏まえて策定するものです。

## 3．構想の期間

平成19年度から概ね10年間とします。

## 4．構想の対象区域

本構想の対象区域は、宮城県及び山形県の全域(以下「圏域」と表記する。)とします。

## 5．構想の推進方策

本構想を推進するための組織において、両県が連携して取り組む施策・事業を毎年度とりまとめ、着実に推進していきます。

また、本構想の推進にあたっては、宮城・山形両県行政のみならず、地域住民をはじめ、市町村、企業、NPOなど幅広い主体との協働や情報共有を図り、その意見を十分に踏まえながら、多様な主体の参画と相互の連携のもとで施策・事業の展開に取り組めます。

## 構想の基本的方向性

---

### 1. 宮城・山形が目指す圏域の将来像

#### (1) 圏域の課題

##### くらしの安全・安心を支える仕組みづくり

少子・高齢化や人口減少が進む中で、未来を担う次世代の育成や安全・安心な生活を確保するためのセーフティネットの構築を図り、住民が日々の生活や将来に対する不安を感じる事のない、暮らしやすい地域づくりを進めていく必要があります。

さらに、近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震をはじめとする大規模災害等に備え、相互に協力する体制を構築することも重要です。

また、資源やエネルギー制約の高まりや地球温暖化などの環境問題が深刻化するなか、これまでの社会経済のあり方や個人個人のライフスタイルの見直しが求められており、住民の生活の基盤となる自然環境を良好な状態で次世代に引き継ぐとともに、住民の日常生活や企業活動を通じて、持続可能な社会経済の形成に向けた新しい価値観によるライフスタイルを創造していく必要があります。

こうした様々な不安や制約を乗り越え、誰もが安心して質の高い暮らしを営む圏域を形成するためには、そこに生きる人々の多様な能力発揮が不可欠です。

これからの圏域づくりの源泉である人材の力を高め、能力が存分に発揮できる環境を整えていくことが何よりも重要です。

##### 強い産業経済の確立

社会経済のグローバル化が進展し国内外との競争が厳しさを増していく中で、圏域の活力を維持・向上させていくためには、産業経済の競争力を高め、優位性を確立していくことが重要です。

そのため、東アジアをはじめ世界においても明確な存在感を示し得る強い経済力と自律性の高い産業構造を確立するとともに、多様なビジネスの創出を通じて圏域内における就労機会の確保に結び付けていく必要があります。

##### 国内外とのさらなる交流促進に向けた基盤整備及び拠点機能の強化

人口減少に伴い地域社会の活力減退が懸念されるなか、圏域内外との交流を促進することがこれまで以上に重要です。

そのため、太平洋と日本海に面している圏域の多様で個性豊かな地域資源を存分に活用し、その魅力を広く発信し、国内外における認知度を高めていく必要があります。

また、交流を支える交通ネットワークの整備や、東北全体の交流拠点としての機能の強化・向上などに積極的に取り組む必要があります。

## (2) 圏域発展のポテンシャル

### 多様性を尊重しながら一体化する圏域

本圏域は、政令指定都市である仙台市と特例市である山形市が奥羽山脈を挟んで隣接しているほか、歴史的・文化的なまとまりのある中小都市と周辺地域による生活圏がバランスよく配置された多極分散型の特色ある圏域をかたちづくっています。

圏域内では、それぞれの風土のもと特色のある文化がはぐくまれており、近年、両県間の交流が急激に拡大し、生活・経済面での圏域の一体化が進むなかにあっても、相互の個性ある文化を尊重し、まとまりの中に多様性が生きる圏域として発展しています。

こうした多様で特色ある文化が息づく本圏域においては、都市と農山漁村それぞれの魅力を一体的に享受することが可能であり、豊かな自然や温泉、多様な食文化などの魅力とも相まって、最近ではスローライフなど多様なライフスタイルが展開できる地域として注目を集めています。

### 共生と互助・互恵の精神が根付く圏域

圏域内では、多様な文化が現代に息づいているとともに、自然の恩恵だけではなくその厳しさをも受け入れていた縄文時代から受け継がれた東北ならではの精神風土が根付いています。

また、全国的に都市化が進み、地域社会における人と人との関係が希薄になるなかにあって、本圏域では、かつての農村での共同作業などを母体として現在まで引き継がれてきた地域コミュニティのつながりなど、互助・互恵の精神が現在においても大切にされています。

こうした圏域に根付く精神風土は、人と環境との新たな関係づくりや人口減少社会における地域社会の活性化など、時代の波を前向きに乗り越えていくための大きな力となるものです。

### 食の魅力が生きる圏域

豊かな自然や冷涼な気候、太平洋と日本海という2つの海に面した地理的特性は、四季折々の農産物や畜産物、特色ある水産物など多彩な農林水産品を生み出しています。

それらは、国内食料の供給・確保を支える第一次産業の基盤を形成するに止まらず、質の高い食材を活かした特色ある食文化や食関連産業の発展を支え、食の一大拠点としての魅力に結びついています。

経済成長が著しい東アジア諸国・地域が新しい市場としてこれから大きく拡大していく中で、圏域の食の魅力は、我が国のみならず、東アジア諸国の人々をも惹きつけるものと期待されています。

## 新たな価値を創造する産業シーズが根付く圏域

圏域には、東北大学金属材料研究所の研究成果を活かした材料加工系の先端産業や水産加工品を中心とした食品製造業、米沢織物や山形鋳物などの伝統産業を基に発達してきた機械加工業や農産加工を中心とした食品加工業、家具製作業、繊維産業など、高い技術力を持つ伝統的な地場産業が形づくられています。

また、最近では、東北大学の機械・電子・電機や医療分野での先端的な技術、山形大学の高分子関連技術、東北芸術工科大学のコンテンツ・デザイン技術、慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ関連技術など世界に冠たる事業化シーズが次々と生み出されています。

こうした伝統的な地場産業や先進的な事業化シーズは、新たな価値を創造するための基盤となり、東北全体の経済発展を牽引する原動力となることが期待されています。

## 内外を惹きつける魅力ある資源を活かす圏域

圏域においては、約400年前に、米沢に生まれ仙台を興した伊達政宗が、欧州との交流などを通じて世界を展望し、江戸時代には、東廻り航路、西廻り航路の重要な寄港地となった酒田や東廻り航路随一の拠点港となった石巻などで上方や江戸との交易が盛んに行われるなど、内外との交流を重視し、交流を通じて独自の文化を開花させてきました。

最近では、雪や温泉、多様で奥行きのある文化などを求めて、台湾、韓国をはじめ東アジア諸国・地域から毎年、多くの人々が本圏域を訪れ、地域との新たな交流が生まれ始めています。

これまでの多様な交流により創出された文化的、歴史的資源は、自然や地理的特性が生み出す多種多様な資源とともに、体験、癒し、健康など新たな観光ニーズにも対応し、圏域内外から人を惹きつける魅力を持っています。

## 東北の中核機能の集積が進む圏域

圏域には、県都が隣接する仙台・山形都市圏を中心に、学術研究、国際交流、産業経済、高次医療・サービス等の拠点機能の集積が進んでいます。

近年の交通基盤の整備などを背景に、住民の生活や産業活動空間は拡大傾向にあり、こうした拠点機能の県境を越えた利活用が活発化しています。

行政の広域化や地方分権が進展する一方、これまで以上の財政制約の強まりが見込まれるなかで、本圏域が、地域の自律的な発展を目指して、圏域内のみならず東北全体としてその中核機能を形成し、共有するとともに、東北全体の発展を牽引する役割を果たしていくことが期待されています。

### (3) 目指す圏域の将来像

宮城・山形両県の連携により目指す圏域の将来像を次のとおり示します。

< 目指す圏域の将来像 >

## 未来を拓く東北の中核圏域「宮城・山形」の形成

宮城・山形両県が持つ輝く個性をお互いに尊重しつつ、圏域の多様な資源を共有し、それらの融合や相乗により無限の可能性を活かしながら新しい価値の創出を図り、未来に向けて新たに国内外に誇りうる活力と魅力にあふれた東北の中核圏域の形成を目指します。

両県の特色ある魅力が共有され、それらの補完・相乗による効果が最大限に発揮されて、以下のように多面的に発展する圏域がかたちづくられています。

美しい自然や豊かな風土、個性的な文化や多様な農林水産物や海・山・大地の恵みを存分に享受でき、安全・安心で質の高い暮らしが確保された地域社会が形成されています。

高い技術力を有する伝統産業・地場産業の高付加価値化、高度な学術研究機能や知的財産の活用、さらには公設試験研究機関や民間との連携による基盤技術の高度化や先端技術の定着などにより、競争力のある地域産業の振興・集積が進んでいます。

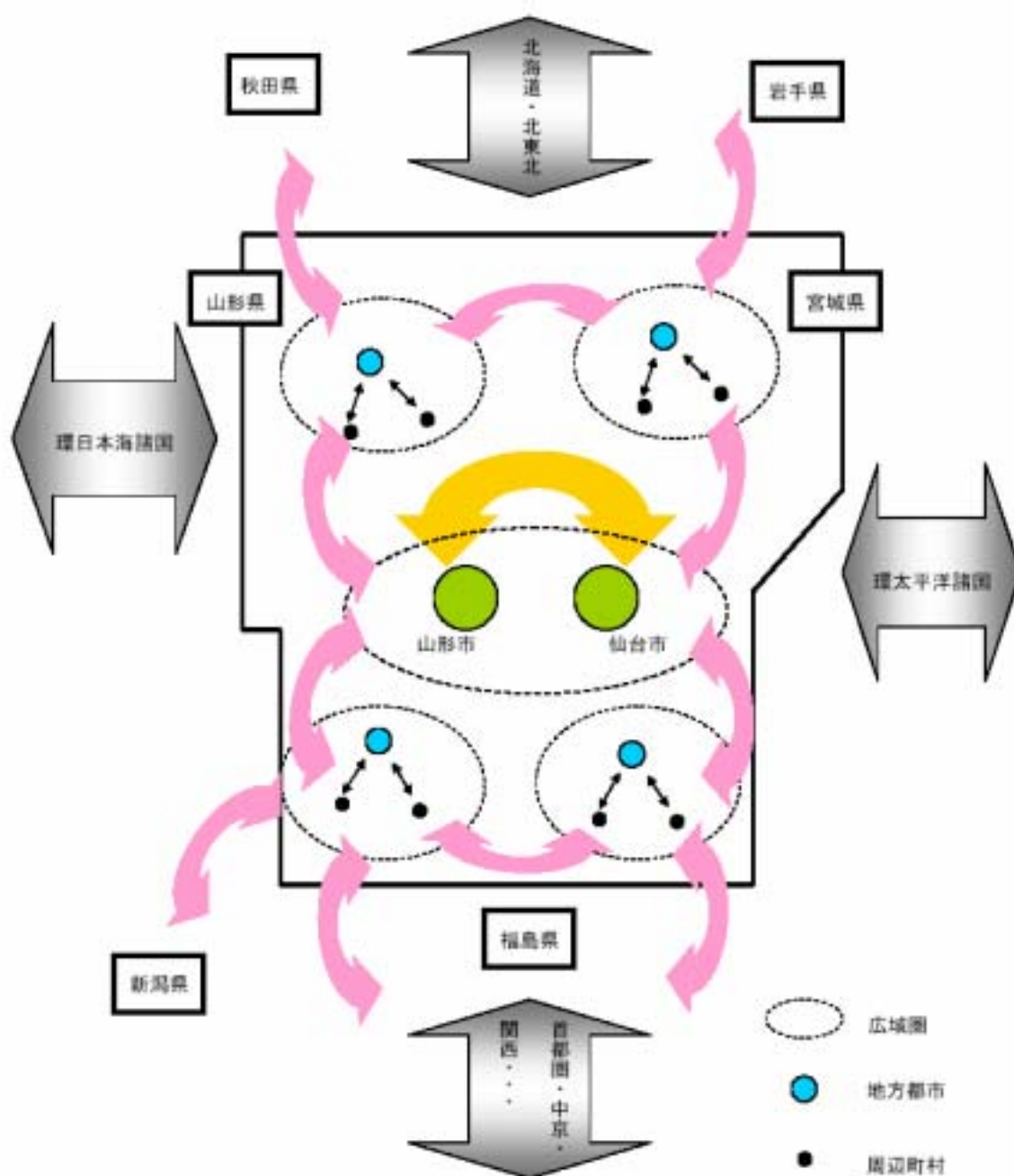
太平洋と日本海に面し、2つの海が約150kmという近距離で結ばれている圏域の特性を存分に活かし、両県の異なる魅力を共有し、それらの補完・相乗による効果を最大限に発揮するとともに、歴史や伝統ある文化・技を尊重しながら、さらに新しい感性との融合による新たな価値創造に取り組む地域が形成されています。

高度な学術研究機能、国際交流機能、産業支援機能等が集積している仙台・山形都市圏が圏域の中核地域としてその機能を最大限に発揮しています。また、圏域内においては、都市部と農山漁村との交流が進むとともに、中核地域である仙台・山形都市圏の資源を積極的に活用しながら、それぞれの地域特性を活かした自律的で独自性に富んだ地域づくりが進んでいます。

東北各県等との連携や国内及び東アジアをはじめとする海外との交流を通じた広域的なネットワークの形成によるスケールメリットを発揮し、国内外で確固たる存在感を示し、世界に開かれた東北の中核圏域として東北全体の発展を牽引しています。

以上を踏まえ、宮城・山形両県の連携により目指す圏域の将来像としては、宮城・山形両県が持つ輝く個性を相互に尊重しつつ、圏域の多様な資源を共有し、それらの融合や相乗により無限の可能性を活かしながら新しい価値の創出を図り、未来に向けて新たに国内外に誇りうる活力と魅力にあふれた東北の中核圏域の形成を目指すものとします。

<交流イメージ>



## 2. 圏域形成の基本方向

宮城・山形両県は連携して以下の圏域づくりに取り組みます。

### (1) 広域環境・生活圏の形成 ～安全・安心な質の高い生活を共有する～

安全・安心な生活の基盤となる保健，医療，福祉，防災などの広域的な取組を進めるとともに，環境との調和や資源の循環を共通の価値基準とする新たな地域社会のかたちを具現化し，持続可能な社会経済の形成に向けたあるべきライフスタイルを広く内外に発信し続ける「広域環境・生活圏」を形成します。

#### 環境と調和する圏域づくり

陸中海岸，磐梯朝日の2つの国立公園，南三陸金華山，蔵王，栗駒，鳥海の4つの国定公園や県立自然公園，ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼や蕪栗沼・周辺水田，北上川・阿武隈川・最上川などの雄大な河川など圏域内の豊かな自然環境，澄んだ空気や清浄な水をはじめとした良好な生活環境は，圏域内住民の暮らしの安心と充実を支える基盤となり，生活の質の向上に寄与します。

環境の世紀において全国・世界のモデルともなり得る，環境との調和と循環を基調とした社会を築くための取組を共同で進めていきます。

#### 互助・互恵が息づく安全・安心な圏域づくり

少子・高齢化が進展する中で，社会全体で子育てを支援する機運を醸成するとともに，学校，家庭，地域，職場，専門機関の連携を進めることにより，安心して子どもを育てることができ，未来を担う子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを進めていきます。

また，高齢者や障害者を含む誰もが不便を感じずに，生きがいをもって暮らすことができる地域づくりを目指すとともに，宮城県立こども病院の活用等，相互の機能分担や補完による高度で専門的な医療の充実や救急医療における連携体制の整備を図っていきます。

安全・安心な生活の確保に向けて，日頃から相互の信頼関係を築きながら，県境を越えた連携・協力を進めます。特に，近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震をはじめとした大規模災害等に備えた平時からの相互協力体制の充実を図っていきます。

#### 人材の力が発揮される圏域づくり

人口減少下においても活力にあふれる圏域づくりを進めていくため，行政・住民・NPOなど多様な主体による協働を進めるとともに，女性・若者・高齢者・障がい者，在住外国人など誰もがその能力を十分に発揮できる環境づくりに共同で取り組んでいきます。

## (2) 広域経済圏の形成 ~新しい価値を共に創り、発信する~

県境を越えた産学官連携や異業種連携による競争力のある産業の創出・育成、海外との経済交流に積極的に取り組み、グローバル化が進展する中であっても自律的に発展し、東北地方全体の経済活性化を牽引する「広域経済圏」を形成します。

### 圏域の資源や伝承の技を活かす自律内発型産業の振興

圏域において幾代にもわたり培ってきた農の技と豊穡の大地にはぐくまれた米や果物など高品質な農産物や、それらを活かした日本酒やワインなどの醸造品、各種農産加工品、銘柄牛・銘柄豚などの畜産物、太平洋側と日本海側それぞれの特色ある水産物などは、国内はもとより海外においても人々を魅了するものです。

両県の産品等のブランド力を活用し、物産展・展示会等の共同開催・共同参加などを通して国内外に向けた新たな販売ルートの確立を図っていきます。

宮城県については東北大学金属材料研究所の研究成果を活かした材料加工系の先端産業や水産加工品を中心とした食品製造業、山形県については米沢織物や山形鋳物などの伝統産業を基に発達してきた機械加工業や農産加工を中心とした食品加工業、家具製作業、繊維産業など、高い技術力を持つ伝統的な地場産業の振興を図ります。

特に、圏域の伝統的な産業に息づくものづくりの匠の技と現代的デザインとの融合による新たな価値創出など、多様化する市場や消費者のニーズに呼応したより付加価値が高く独創性あふれる商品・サービスの創出・発信を重視して、地域に根付いた産業の活性化に取り組みます。

### 東北地域全体の産業発展を牽引する広域的な産業集積の促進

仙台市、石巻市、山形市、鶴岡市、米沢市などを中心とした高次の学術研究機能、産業、国際交流基盤の集積や地域資源を両県で共有し、独創的な研究開発や新産業の創出、産業の高度化、市場の開拓、産業を支える人材の育成などの取組に活用していきます。

特に、食品製造業や電機・電子部品製造業など両県の主要な産業集積や、東北芸術工科大学のコンテンツ・デザイン技術、慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ関連技術、東北大学の金属・機械・電子・電機や医療分野の先端技術、山形大学の高分子関連技術など、圏域内の事業化シーズの相互活用を推進し、国内外との競争の中で優位性を発揮しうる広域的な産業の集積に連携して取り組んでいきます。

さらに、圏域のみならず、東北の他地域との広域的な連携を積極的に進め、圏域の産業ポテンシャルを東北全体の産業発展へと結びつけます。

## 国内外を魅了する独創的な価値の発信

圏域内で生み出された独創的で高品質な製品・産品を広く国内外に発信し、「食材王国みやぎ」、「おいしいみやぎ」や「おいしい山形」、「山形セレクション」などのお互いのブランド力を活かしながら、東北各県等との連携によるスケールメリットを発揮し、国内外における新たな市場開拓と販路拡大を進め、市場の拡大を図っていきます。

また、圏域内の企業の海外展開や海外取引の拡大を図るとともに、高度の知的集積など圏域の産業シーズを積極的にアピールし、海外の研究開発型企业等の対内直接投資を促進していきます。

### (3) 広域交流圏の形成 ~太平洋と日本海に面した圏域の特性を活かす~

太平洋と日本海に面し、豊かな自然・風土や歴史・文化、食材等の豊富で良質な資源に恵まれた圏域の強みを活かし、さまざまな分野で圏域内外の交流を促進するとともに、仙台都市圏に集積する高次の都市機能の広域活用などを通じて世界に飛躍する東北地方の拠点として備えるべき機能を強化し、国内外から広く人・モノ・情報を呼び込む「広域交流圏」を形成します。

#### 圏域の特性や資源を活かした交流人口の拡大

日本海側と太平洋側の2つの海に面している本圏域には、特色ある風土、雄大な河川や山岳、文化性に溢れた中小の都市や農山漁村、四季折々の農林水産物とそれらを活かした特色ある食文化など多様で魅力的な資源が数多く存在しています。

また、仙台七夕や新庄まつりなど古来受け継がれてきた祭りや習俗などの伝統文化や、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、山形国際ドキュメンタリー映画祭などに代表される現代的な音楽・文化イベント、松尾芭蕉の「奥の細道」に代表されるような歴史・文化的な資源や、イザベラ・バードにより「東洋のアルカディア(桃源郷)」と称された置賜地域の田園風景など、魅力的で特色のある文化的風土が形成されています。

こうした多様多彩な圏域の資源を活用し、仙台都市圏から庄内地域に至る太平洋と日本海を結ぶ新たな文化観光軸の一体的形成などの取組みを通じ、国内外の人々を魅了し、惹きつけ、多様な交流が展開する圏域づくりを進めます。

特に、高い経済成長を背景に交流が拡大している東アジア地域をターゲットとする観光交流、団塊の世代の生活・行動様式や体験型・長期滞在型観光など多様化する旅行スタイルやニーズに対応した観光交流、東北の中核圏域としての国際交流機能・高次学術研究機能等を活かしたビジネス交流などに積極的に取り組み、圏域内外との交流人口を拡大します。

#### 世界に飛躍する東北の中核拠点としての交流基盤や機能の形成・活用

圏域内の各地域は、東北横断自動車道酒田線と5本の一般国道、仙山線や陸羽東線といった交通網で結ばれており、両県の地域資源を相互に活用しやすい環境が整っています。

太平洋側には特定重要港湾仙台塩釜港及び重要港湾石巻港、日本海側には重要港湾酒田港が整備されており、それぞれ環太平洋諸国及び環日本海諸国との交流拠点となっているほか、仙台・山形・庄内の3つの空港が存在しており、特に、仙台空港については、東北の空の玄関として、宮城・山形両県のみならず東北全体における国際交流拠点としての機能を有しています。

このような両県間及び国内外との交流基盤について、東北全体の発展や海外との交流拠点として果たすべき役割を考慮しながら、継続的に整備・機能強化に取り組んでいきます。

また、交流基盤の整備を通じて、多様な地域資源・基盤施設等の広域的なネットワークをかたちづくり、観光・文化・スポーツをはじめとした様々な分野において、圏域内及び国内外との交流を積極的に展開し、両県地域の活性化に結びつけます。

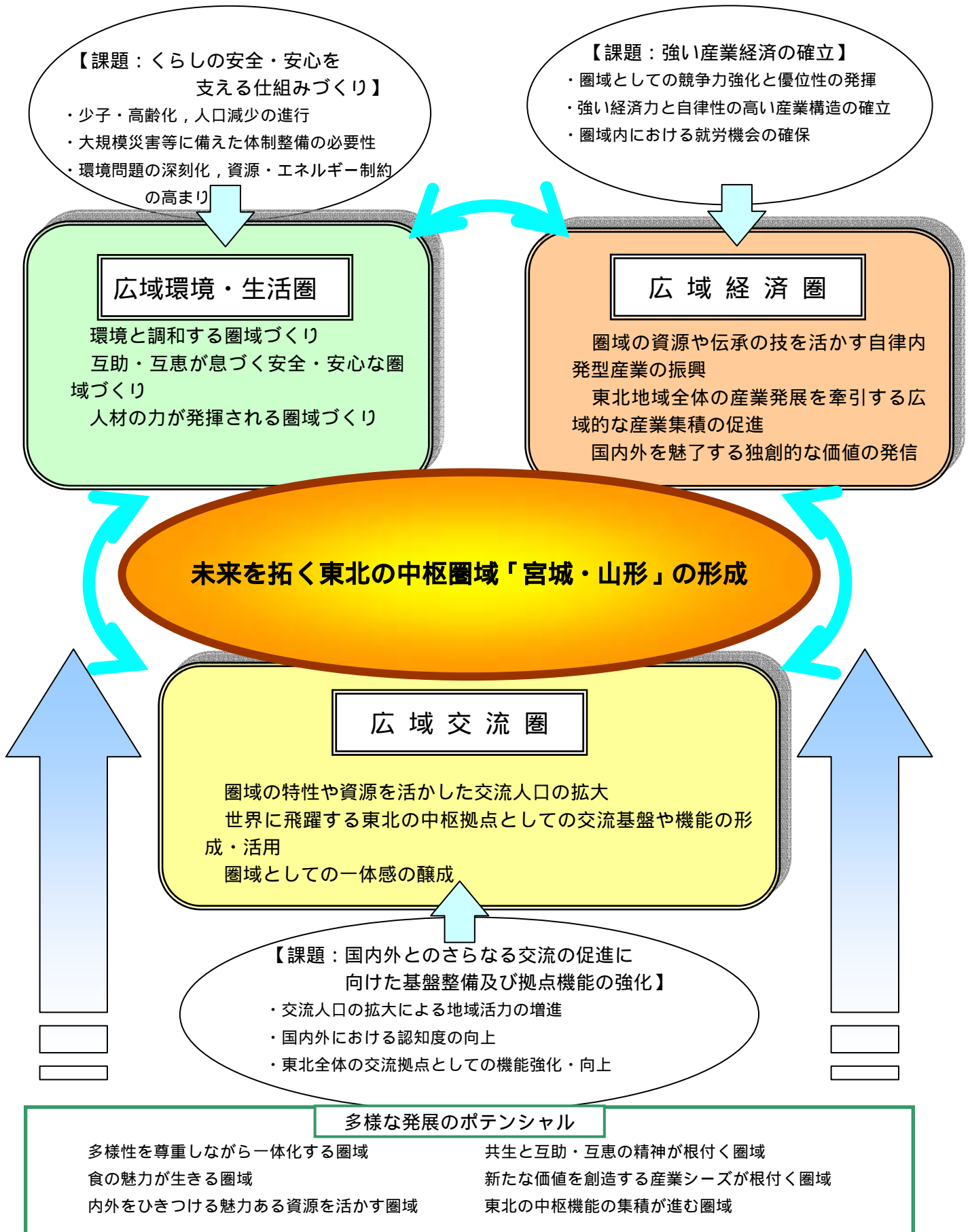
さらには、国際交流拠点機能、高度な学術研究機能、産業支援拠点機能、高次医療・サービス機能などの圏域内における効果的かつ効率的な整備及び利活用を促進するとともに、仙台都市圏に集積する高次都市機能の広域活用を進め、東北の中核圏域として求められる都市的機能の強化・拡充に取り組みます。

#### 圏域としての一体感の醸成

生活や産業、内外との交流などあらゆる分野において、圏域の発展のポテンシャルを存分に発揮していくためには、これまでの県単位の発想を脱却し、東北全体、特にその中核圏域たる本圏域において、行政はもとより住民、企業、NPOなど多様な主体が一体感をもって、連携・協働の取組を進めていくことが大切です。

隣接地域間の日常的な交流など多様な連携・交流を通じて両県民の相互理解を深め、圏域のさらなる発展に結びつけていくために、様々な機会をとらえ圏域としての一体感を醸成します。

【宮城・山形が目指す圏域形成のイメージ】



## 将来像の実現に向けた取組の方向性と具体的方策

### 1. 広域環境・生活圏の形成

#### (1) 環境と調和する圏域づくり

##### 自然環境・生活環境の保全・活用

圏域内の豊かな自然環境や美しい風土の保全・再生を図り、共通の財産として大切に次代に引き継いでいくとともに、地域資源としての適切な活用を図っていきます。また、澄んだ空気や清浄な水など快適な生活を支える良好な生活環境の維持・保全に向けた取組を進めます。

#### 【取組例】

圏域内の自然公園やラムサール条約湿地をはじめとする豊かな自然環境の保全・再生及び活用に向けた共同の取組

エコツーリズムや自然体験活動などを通じた地域資源としての自然環境の適切な活用の促進

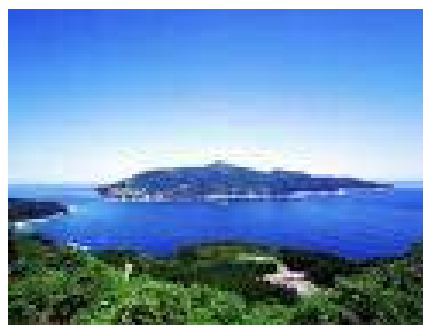
野生動物の適切な保護・管理の推進に向けた共同の取組

多様な主体による環境保全活動の促進及びネットワーク化の促進

大気汚染や水質汚濁などの改善に向けた調査研究・技術開発の推進



蔵王の樹水



牡鹿半島から金華山を望む

##### 環境と調和する地域社会の形成

地球温暖化防止，廃棄物のリサイクルや処理体制の整備，環境教育などの取組を通じて，環境と調和する地域社会の構築を進めます。

#### 【取組例】

地球温暖化防止や3R（Reduce Reuse Recycle）推進等に向けた住民や企業の意識啓発等の共同の取組

バイオマスエネルギーなど環境にやさしいエネルギーの利用促進

広域的な産業廃棄物対策の実施

子どもたちへの環境教育に関する共同の取組

## (2) 互助と互恵が息づく安全・安心な圏域づくり

質の高い生活関連サービスの提供

保健・医療サービスの提供，高齢者・障害者福祉，少子化対策，子どもの教育環境づくりなどの取組を通じて，圏域に暮らす住民の生活の質の向上を図ります。

### 【取組例】

感染症等に対応した広域的な連携体制の整備  
災害発生時における保健や医療分野での相互応援  
公共施設・商業施設・交通機関・商店街等におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインの普及  
子育て支援キャンペーンの共同実施等による子育て機運の醸成  
中小企業における仕事と育児の両立支援対策の促進  
文化やスポーツ，地域活動などを通じた子どもたちの相互交流・体験学習機会の充実

大規模災害等に備えた相互支援体制の構築

近い将来の発生が確実視される宮城県沖地震をはじめとした大規模災害時に備えて，「大規模災害時の北海道・東北8道県相互応援に関する協定」及び平成18年12月に宮城・山形両県が締結した「防災上の連携・協力に関する協定」に基づき，広域的な連携による応援体制の確立を図ります。

### 【取組例】

常時連絡体制の整備等による円滑な応援調整体制の整備  
防災情報の共有化の推進  
合同訓練の開催や図上訓練への相互参加など相互交流の推進  
大規模災害時における物資・資機材等の迅速な供給体制の整備

## (3) 人材の力が発揮される圏域づくり

多様な主体の参画による地域づくりの推進

市町村合併の進展等に伴う基礎自治体の広域化と相まって，地域の身近な課題解決に向けた住民の主体的な参画が重要になってきています。行政，住民，NPOなど多様な主体の連携による県境を越えた地域活動を支援する取組を進めます。

【取組例】

地域リーダーの県境を越えた交流の場づくり  
地域づくり団体やNPOなどの広域的なネットワークの形成促進  
地域づくり団体に対する活動支援  
圏域内の高等教育機関相互の連携による地域貢献活動等の促進

女性・高齢者・若者等の活躍機会の創出

人口減少下においても圏域の活力を維持・増進し続けていくため、就労や起業、地域活動などに意欲のある若者や女性、団塊世代、高齢者、障がい者、在住外国人などがその能力を十分に発揮できる機会の創出を図るとともに、活動しやすい環境づくりを進めていきます。また、フリーターやニートが増大する中で、若者の自立や社会参加に向けた取組を進めます。

【取組例】

起業や地域活動に取り組む女性の広域的な支援ネットワークの形成促進  
女性や高齢者等の能力開発の促進に向けた広域的な支援体制の整備促進  
地域活動・市民活動への参加促進等を通じた団塊世代の有する様々な能力の地域社会における発揮促進に向けた取組  
圏域内大学等への留学生をはじめとする在住外国人の高度な専門知識や技術力の活用促進  
若者の就労支援に向けたジョブカフェ等の連携体制の整備促進

## 2. 広域経済圏の形成

### (1) 圏域内の資源や伝承の技を活かす自律内発型産業の振興

太平洋と日本海に面した地域特性を活かした食関連産業の振興

各種の農林産物や畜産物，太平洋側と日本海側の水産物など多種多様かつ良質な食材に恵まれた地域特性を活かし，圏域内の農林水産業と食品加工・製造業，卸小売業，外食産業，観光産業等の連携により，「食」を起点とした産業振興を進めます。

#### 【取組例】

圏域内の食に関する情報の整理・共有と相互活用  
地域の伝統料理など両県の食文化の掘り起こしと再評価及び活用  
生産者と食品製造・加工業との広域的なマッチング促進  
東北大学・山形大学の医学部などの連携による圏域内の食材を活用した現代版医食同源メニュー「ドクターズフード」や機能性食品の開発・提供  
外食産業，百貨店，旅館・ホテル等との連携による多様な流通チャンネルの開拓

伝統の技術と新たな感性の融合による新しいものづくり産業の振興

圏域内で培われてきた確かな技術と伝統に裏打ちされた地場産業や伝統産業を地域の宝として大切に守り育てていくとともに，現代の生活様式や感性にマッチした商品づくりを進めるなど，市場やニーズの多様化に対応した新たな時代にふさわしいものづくり産業の振興に取り組みます。

#### 【取組例】

伝統産業の付加価値向上に向けた取組の共同展開  
東北芸術工科大学や圏域内デザイン専門学校等との連携による商品開発  
新たな技術やコンセプトに基づく付加価値性の高い地場製品の国内外に向けた共同プロモーション

## (2) 東北地域全体の産業発展を牽引する広域的な産業集積の促進

### 得意分野の補完・相乗による競争力の高い産業集積の促進

宮城県の食品製造業，電機・電子部品製造業，山形県の情報通信機械産業，電子産業，機械器具産業，大学等の保有する先端的な技術など，圏域内の事業化シーズを相互に活用し，自動車関連産業などの製造業や情報関連産業の振興など，競争力のある産業集積を広域的に進め，東北全体の産業発展を牽引していきます。

#### 【取組例】

自動車関連産業，電機・電子部品製造業など地域経済の核となる産業の集積・育成

組込みシステム，オープンソースソフトウェアなどをはじめとした情報関連産業の集積促進

航空機産業，光関連産業，生活福祉関連産業，新エネルギー産業，バイオ産業，環境・リサイクル産業など市場拡大が期待される産業の集積・育成

宮城・山形両県の取組を軸として東北の他地域との連携による東北全体への産業発展に向けた取組

### 知的集積ネットワークの形成と活用

圏域内の大学，宮城・山形両県の公設試験研究機関，各種産業支援機関や研究開発支援機関など知的集積拠点相互及び企業とのネットワーク形成により研究成果等を広域的に活用し，地域産業の高度化や競争力のある新たな産業の創出を図ります。

#### 【取組例】

東北の他地域を含めた公設試験研究機関の連携による技術相談・技術改善支援や共同研究の推進

両県地域内の大学間の連携と企業への技術移転の促進に向けた共同の取組

東北芸術工科大学や仙台市等のデザイン専門学校との広域的な連携による両県製品・商品の商品化に際してのデザイン面での質的向上に関する取組支援

圏域内金融機関の共同による企業交流会・商談会など金融機関のチャンネルを活用した企業情報の共有及び相互活用

### 先進的・創造的企業の育成と異業種交流の促進

起業家の育成や創業への支援を進めるとともに，圏域内の大学や宮城・山形両県の公設試験研究機関，産業支援機関などと圏域内の企業による産学官連携や広域的な異業種交流の推進により，地域産業の自律的な発展につながる先進的・創造的な企業活動が生まれやすい環境づくりを進めます。

#### 【取組例】

両県企業の広域的な異業種交流による新たなビジネスマッチングの促進  
ベンチャー育成に向けた協動的取組  
コミュニティビジネスなど新たな価値基準に基づくビジネス展開の支援  
中小企業等による両県地域内の産業支援機関等の相互利用の促進

宮城・山形の産業を支える人材の育成・確保

製造業をはじめとした産業の高度化に対応した人材や，社会情勢が変化の中でビジネスチャンスを的確にとらえ次代の産業を自ら切り拓いていく能力を有する人材育成を進めるとともに，可能性に果敢にチャレンジする人材を支援する仕組みを整備します。また，高い技術や能力を持つ留学生等の外国人や企業OB，首都圏等からのU・J・Iターン希望者や両県出身学卒者の圏域内への定着を図ります。

#### 【取組例】

学校・職業能力開発施設・企業等の広域的な連携による産業人材の育成  
圏域内や首都圏等における就職面接会の共同開催  
団塊世代など首都圏等在住者に対するU・J・Iターン情報の共同提供  
担い手確保・育成に向けた共同の取組  
起業や新分野進出に対する共同支援方策の検討・実施

#### (3) 国内外を魅了する独創的な価値の発信

宮城・山形両県のブランドを活用した産品等の市場開拓

両県で生まれた高品質な産品等について，「食材王国みやぎ」，「おいしいみやぎ」や「おいしい山形」，「山形セレクション」などのブランド力を活かしながら，東北各県等と連携し，両県の産品等の国内外における新たな市場開拓と販路拡大を進め，市場の拡大を図ります。

#### 【取組例】

物産展・展示会等の共同開催・共同参加など国内外におけるプロモーション活動の共同展開  
国内・海外事務所やアンテナショップなど情報受発信拠点の共同化及び相互利用の促進

企業の海外展開の支援及び海外企業による対内直接投資の促進

ソウル事務所などの海外事務所やジェットロなど関係機関との連携により、企業の海外展開や取引機会の拡大を支援するとともに、宮城・山形両県地域が有する高度な研究開発機能をはじめとした優れた投資環境をアピールすることによって、研究開発型企業をはじめとした海外の企業による両県地域内への対内直接投資の促進を図ります。

【取組例】

海外事務所や関係機関の連携による企業の海外展開の総合的な支援

海外の研究開発型企業等の誘致に向けた圏域内の高度な研究開発機能や良好な生活環境をはじめとした優れた投資環境を相互に活用した海外セールスの展開

両県製品の販路拡大や原材料調達等のための商談会開催など海外との取引機会の拡大に向けた支援

### 3. 広域交流圏の形成

#### (1) 圏域の特性や資源を活かした交流人口の拡大

宮城・山形両県の地域資源の連結による広域観光の推進

圏域の豊かな自然や歴史、文化などの多様な資源を組み合わせた広域観光を推進し、両県地域への国内外からの誘客を促進します。

さらに、今後の交通基盤整備等を踏まえ、東北各県と連携したより広域的な観光ルートの開発などの取組を進めます。

#### 【取組例】

香港や韓国など東アジアからの観光客の誘客に向けた共同プロモーションの実施

中部・関西地区をはじめとする国内向け誘客活動の共同展開

圏域のシンボリックな山岳としての蔵王を活用した広域観光の推進

「奥の細道」や歴史街道、自然や食文化などの観光資源の連結によるテーマ性・ストーリー性のある広域観光ルートの創造

仙台市の都市機能と周辺地域の魅力ある観光資源等を活用したイベント・国際コンベンションの誘致促進

空港や駅などからの二次交通や案内板・サイン・標識の整備、観光地・観光施設のバリアフリー・ユニバーサルデザインの普及等による観光者が歩きやすい観光地づくり

新潟県を含む東北各県との連携による共同観光ルートの開発等、外国人観光客の誘致に向けた共同の取組



紅葉の鳴子峡（宮城県）



雪景色の最上川（山形県）

### 多様化するニーズに対応した観光・交流の推進

団塊の世代の生活・行動様式や旅行形態の個別化・少人数化，滞在型・体験型など，多様化する観光ニーズに対応し，両県の多彩な食文化や温泉，農林漁業体験などを有機的に結びつけた新たなツーリズムを創造し，提供していきます。

さらには，都市と農山漁村の交流促進や首都圏住民等をターゲットとした週末滞在・兼居等による圏域への交流居住の促進など，「観光」にとどまらない交流人口の増加に取り組みます。

#### 【取組例】

圏域内の自然や歴史，文化など地域固有の資源を活用したエコツーリズムの推進

農山漁村の暮らしや伝統文化・食文化等を活用したグリーン・ツーリズムなど圏域内の地域資源を活用した滞在型観光・体験型観光の推進

圏域内の大学及び旅行会社等との連携による団塊世代などのシニア世代をターゲットとした滞在型サマーカレッジ商品の開発など新たなツーリズムの創造や観光人材の育成に向けた共同の取組

団塊世代などのシニア世代や首都圏等の住民を対象とした両県地域内への交流居住の促進に向けた情報提供等の取組

新潟県を含む東北各県との連携による教育旅行や団塊世代などシニア世代旅行者の誘致促進に向けた共同の取組

観光に関する調査・分析の共同実施や情報の共有・相互活用の推進

### 国内外における認知度の向上に向けた取組

海外事務所やアンテナショップなどの情報発信拠点，テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などのさまざまなメディア，両県出身者や両県にゆかりのある著名人等の活用等により，圏域の魅力を国内外に向けて強力に発信し，地域イメージの確立と認知度の向上を図り，交流人口の拡大に結びつけていきます。

#### 【取組例】

ソウル事務所や首都圏アンテナショップを活用した観光情報の共同発信  
テレビ，ラジオ，新聞，雑誌，旅行専門誌等，多様な情報媒体の活用とメディアミックスによる国内外への情報発信力の強化

両県出身者や両県にゆかりのある著名人を活用した情報発信

県外企業の東北支社長・東北支店長を活用した情報発信

デスティネーションキャンペーンをはじめとした観光プロモーション活動の共同展開

世界遺産の登録に向けた取組などを通じた圏域内の自然，文化資源の掘り起こしと再評価，保全・活用の促進及び国内外への情報発信

## (2) 世界に飛躍する東北の中核拠点としての交流基盤や機能の形成・活用

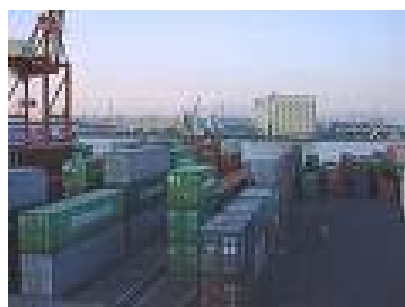
### 広域的な交流基盤の整備と活用促進

圏域の内外との交流を支える基盤となる交通ネットワークについて、利用者の利便性向上や広域的な物流戦略、災害時等におけるリダンダンシー（代替機能）の確保等を念頭に置いた整備を促進します。

また、国内外との交流の玄関口となる空港・港湾や鉄道の機能強化を図るとともに、東北全体の中核圏域としての高次都市機能など拠点機能の強化・拡充に取り組み、東北全体の発展に結びつく戦略的な利活用方を展開します。

### 【取組例】

三陸縦貫自動車道，東北横断自動車道酒田線，常磐自動車道，東北中央自動車道，日本海沿岸自動車道などの高規格幹線道路の整備促進  
地域高規格道路（石巻～大崎～新庄～酒田）の整備促進  
国道47号，国道48号の整備促進  
東北の国際交流拠点である仙台空港や山形空港・庄内空港の機能分担の検討及び各々の役割に応じた機能強化と利活用の促進  
仙台塩釜港・酒田港の機能強化及び利活用促進  
リサイクルポート酒田港を拠点とした広域静脈物流ネットワークの形成  
東北新幹線・山形新幹線を結ぶ仙山線の利活用促進と機能強化及び陸羽東・西線の利活用促進に向けた共同の取組  
仙台空港アクセス鉄道の利活用促進と仙山線の相互乗入れの実現に向けた共同の取組  
新潟県を含む東北地方全体の自律的発展に向けた戦略的シナリオや仙台都市圏の拠点性強化に向けた共同の取組方策の整理・検討



仙台塩釜港高砂コンテナターミナル（宮城県）



リサイクルポート酒田港（山形県）



仙台空港アクセス鉄道 仙台空港駅（宮城県）

### (3) 圏域としての一体感の醸成

#### 両県民の交流による相互理解の促進

県境を接する市町村や集落，地域づくり団体，学校などさまざまな分野・組織を通じた多様な交流を促進することにより両県民の相互理解を深め，圏域としての住民レベルでの一体感の醸成を図ります。

そのため，特に，仙台都市圏と村山地域，大崎地域と最上地域，仙南地域と置賜地域といった隣接する地域間の日常的な交流・連携を拡大・強化します。

#### 【取組例】

隣接地域間における地域間交流の促進など連携拡充に向けた取組の共同展開

総合学習などを活用した両県の学校間交流の促進

文化・芸術・スポーツイベント，レクリエーション等の共同開催や両県民の相互参加

社会教育施設や芸術・文化資源の相互利用の促進

両県をつなぐ「道路」「街道」「鉄道」などをテーマにした地域資源の掘り起こしと活用に向けた取組の促進

圏域内におけるご当地検定への両県民の相互参加

#### 生活関連情報の共有化

高速道路網や情報通信網の発達等に伴う住民の行動範囲や通勤・通学をはじめとする生活圏の拡大に対応し，両県の交通情報や生活関連情報，スポーツ・文化・芸術等のイベント情報などを両県で共有化・相互活用し，住民の利便性を高めます。

#### 【取組例】

両県広報紙（誌），各種啓発資料，携帯サイト，メールマガジン等の相互活用

両県ホームページ間における相互リンクの設置

マスコミ等を通じた両県民へのイベント情報等の相互提供

## 構想の実現に向けて

---

宮城・山形両県は、本構想の実現に向け、連携して取り組むべき課題等について定期的に意見交換を行い、この圏域が東北全体の自律的かつ持続的な発展に大きな役割を發揮すべきことを強く認識し、東北各県や新潟県等との連携を深めながら、広域的な観点に立った施策の企画立案や実施に継続的に取り組みます。

また、民間分野での連携をさらに促進するために、本構想の趣旨等を広く各界に十分に説明するとともに、その意見を幅広く聴取しながら取組を進めていきます。

本構想の実現に向けた推進組織として、宮城・山形両県の官民で構成する「宮城・山形未来創造会議（仮称）」を設立し、両県民の連携機運・一体感の醸成や新たな交流・連携に向けた官民による情報交換・検討の場づくり等、本構想の実現に向けた各種の取組を官民が協力して進めます。

宮城・山形両県においては、相互補完と役割分担による効率的な行政執行を進めるとともに、人事交流の推進や職員同士の情報交換・情報共有の促進、行財政システムの改善や先進的施策等に関する情報交換及び検討等を通じて、両県の緊密な関係づくりや実効性の高い連携を推進します。

## 宮 城 ・ 山 形 両 県 の 現 況

### 目 次

1 . 自然	
( 1 ) 地 勢	2 8
( 2 ) 気 候	3 1
2 . 人口	
( 1 ) 人口及び世帯数	3 2
( 2 ) 将来推計人口及び高齢化率	3 5
( 3 ) 転出入	3 6
3 . 歴史・文化	
( 1 ) 歴史の上での両県の関わり	3 7
( 2 ) 文化	3 7
4 . 交通基盤	
( 1 ) 鉄道	3 9
( 2 ) 主要道路	4 0
( 3 ) 空港・港湾	4 1
5 . 経済・産業	
( 1 ) 主な経済指標	4 4
( 2 ) 産業構造	4 6
( 3 ) 第 1 次産業	5 1
( 4 ) 第 2 次産業	5 3
( 5 ) 第 3 次産業	5 6
( 6 ) 学術・研究	5 9
( 7 ) 雇用状況	6 1
( 8 ) 観光	6 2
6 . 国際化	6 4
7 . 生活環境	6 5
8 . 財政状況	6 7
9 . 交流・連携	
( 1 ) 人・物の動き	6 8
( 2 ) これまでの交流・連携の動き	6 9

# 1. 自然

## (1) 地勢

宮城・山形両県地域の総面積は16,609km<sup>2</sup>で、岩手県とほぼ同規模となっています。また、農用地が16.0%, 森林が65.3%となっており、全国に比較して農用地の比率が高くなっています。

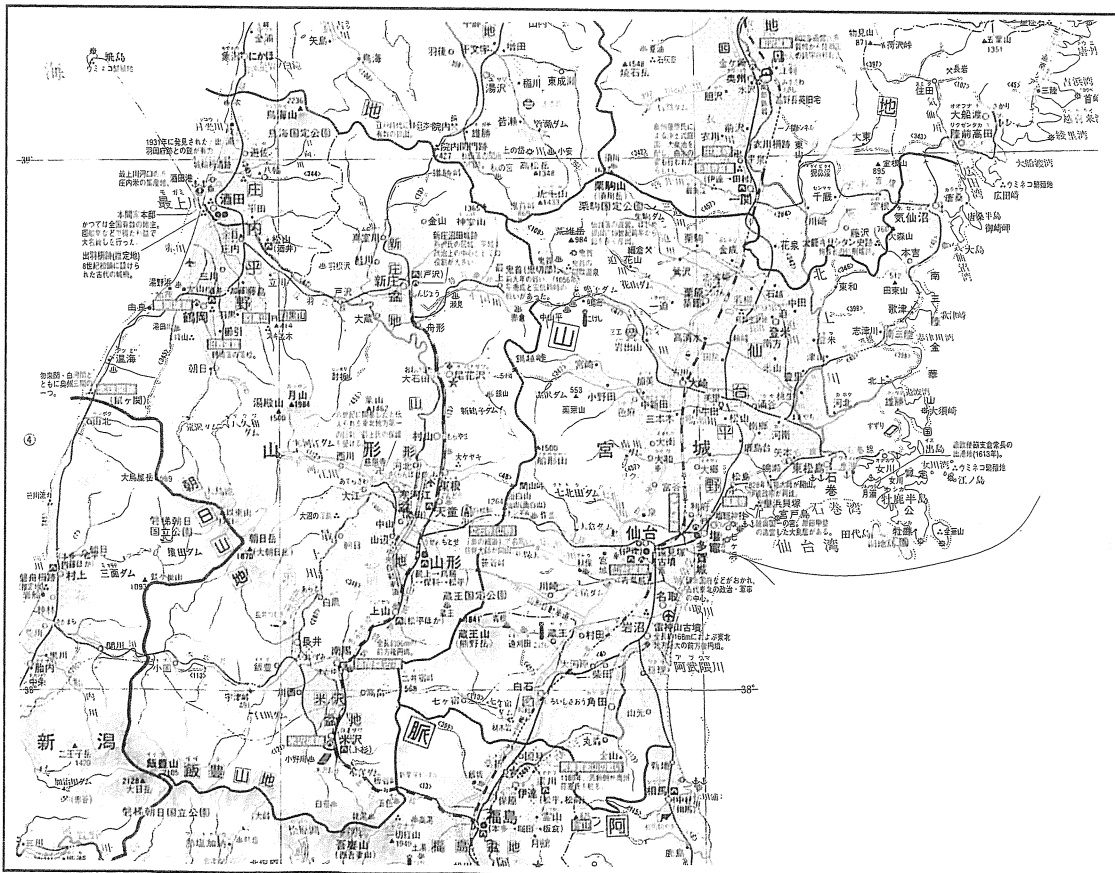
また、両県地域は、陸中海岸、磐梯朝日の2つの国立公園と蔵王、南三陸金華山、栗駒、鳥海の4つの国立公園を有するなど、豊かな自然に恵まれており、県境部には奥羽山脈という東北地方中央部を南北に貫く大きな山脈があり、栗駒の湿原やブナ原生林、紅葉や蔵王の火山風景、渓谷、樹氷など、四季折々の優れた景観を有しています。

奥羽山脈の東には仙台平野があり、西には最上、村山、置賜の盆地、さらに出羽丘陵を挟んで庄内平野が広がり、一大穀倉地帯となっています。

太平洋側の陸中海岸や牡鹿半島は複雑なリアス式海岸となっており、仙台湾の松島は松の緑に彩られた260余りの島々を有し、日本三景の一つとなっています。一方、日本海側の庄内の海岸は保安林と磯海岸・砂丘が織りなす海岸景観が特色となっており、太平洋側と日本海側とで全く異なる魅力を持っています。

また、宮城県県の県庁所在地であり政令指定都市である仙台市は、100万人を超える人口を有し、商業機能、学術研究機能、産業支援機能が集積した東北の中心都市となっているほか、山形県の県庁所在地である山形市と県境を挟んで接しているという全国でも珍しい地域となっています。このほか、宮城県では北上川や阿武隈川、山形県では最上川といった河川に沿って中小の都市が分散的に配置され、それぞれ広域圏の中心的な役割を果たしています。

宮城・山形両県の地勢



土地利用形態別面積

単位：km<sup>2</sup>

	総面積	農用地	森林	原野	水面等	道路	宅地	その他
宮城県	7,286	1,395	4,163	24	326	318	441	617
対総面積比	100.0%	19.1%	57.1%	0.3%	4.5%	4.4%	6.1%	8.5%
山形県	9,323	1,258	6,680	9	248	257	279	592
対総面積比	100.0%	13.5%	71.7%	0.1%	2.7%	2.8%	3.0%	6.3%
宮城・山形両県	16,609	2,653	10,844	33	574	575	720	1,209
対総面積比	100.0%	16.0%	65.3%	0.2%	3.5%	3.5%	4.3%	7.3%
全国	377,900	48,100	250,900	2,700	13,300	13,100	18,300	31,600
対総面積比	100.0%	12.7%	66.4%	0.7%	3.5%	3.5%	4.8%	8.4%

(宮城県・山形県については平成17年, 全国については平成16年の数値)

資料：宮城県企画部土地対策課「宮城県国土利用計画管理運営資料(平成18年)」

山形県調べ

自然公園面積(平成17年3月31日現在)

単位：ha

	国立公園	国定公園	都道府県立自然公園	計	県土に対する割合(%)
宮城県	980	64,175	106,044	171,199	24.9
山形県	71,115	41,241	42,440	154,796	20.9
都道府県別合計	2,065,121	1,344,453	1,961,287	5,370,861	14.6

注1) 県別自然公園面積は再測定面積であるため、公園別合計面積と一致しない場合がある。

注2) 県土面積は、国土地理院発行の平成16年全国都道府県市町村別面積調による。

資料：環境省自然環境局国立公園課調べ

自然公園・自然環境保全地域・里山環境保全地域等分布図



資料：平成18年宮城県環境白書



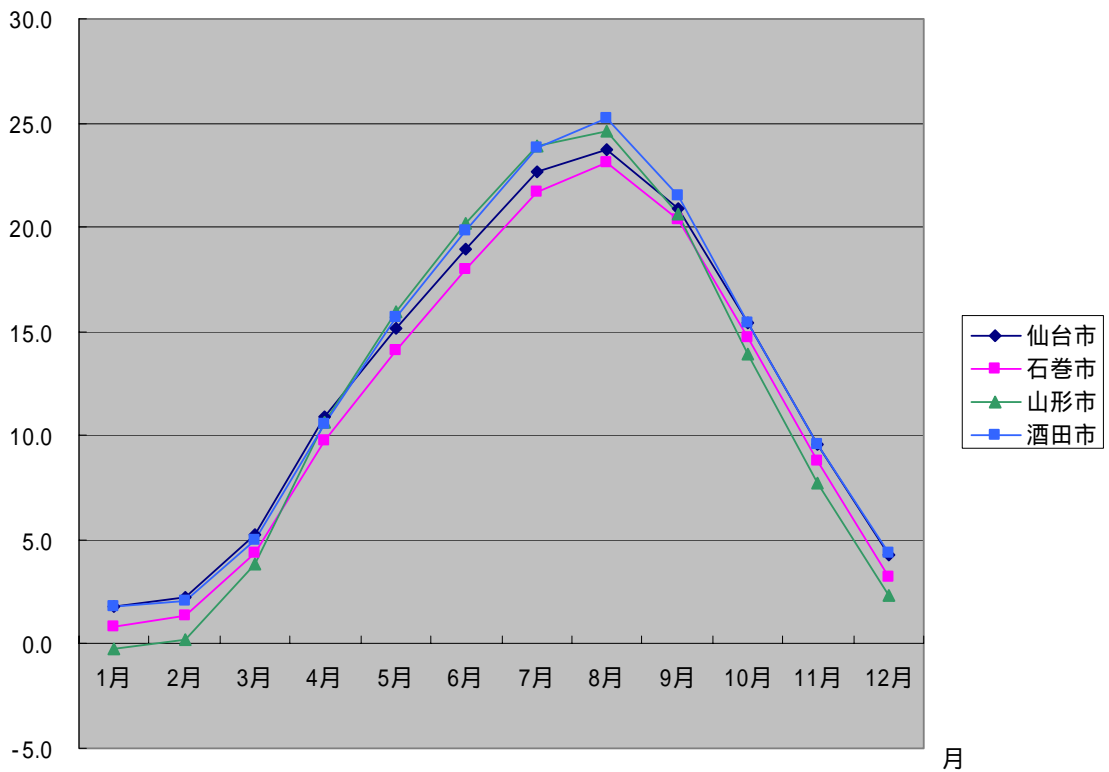
資料：平成18年山形県環境白書

(2) 気候

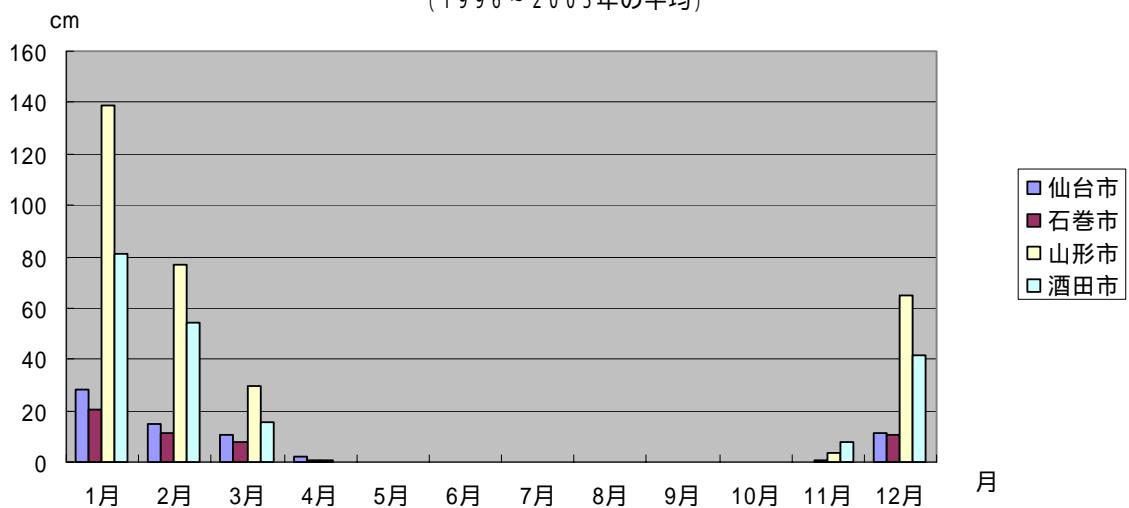
宮城県の太平洋側は、三陸沖まで北上する黒潮の影響で比較的温暖な気候となっており、冬季においても降雪量が少ない地域となっています。一方、県境部を中心とした山間部は降雪量が多く、山形県の内陸部の盆地では冬季は寒く夏季は暑い典型的な内陸性気候となっています。また、山形県の日本海側の庄内地域は、対馬海流の影響で積雪も少なく山形県内で最も温暖な地域となっていますが、冬季は強い北風が吹くのが特徴となっています。

なお、両県地域は、台風や干ばつによる水不足などの自然災害が比較的少ない地域となっています。

宮城県・山形県の主要都市の月別平均気温(1996～2005年の平均)



宮城県・山形県の主要都市の降雪の深さの月合計値 (1996～2005年の平均)



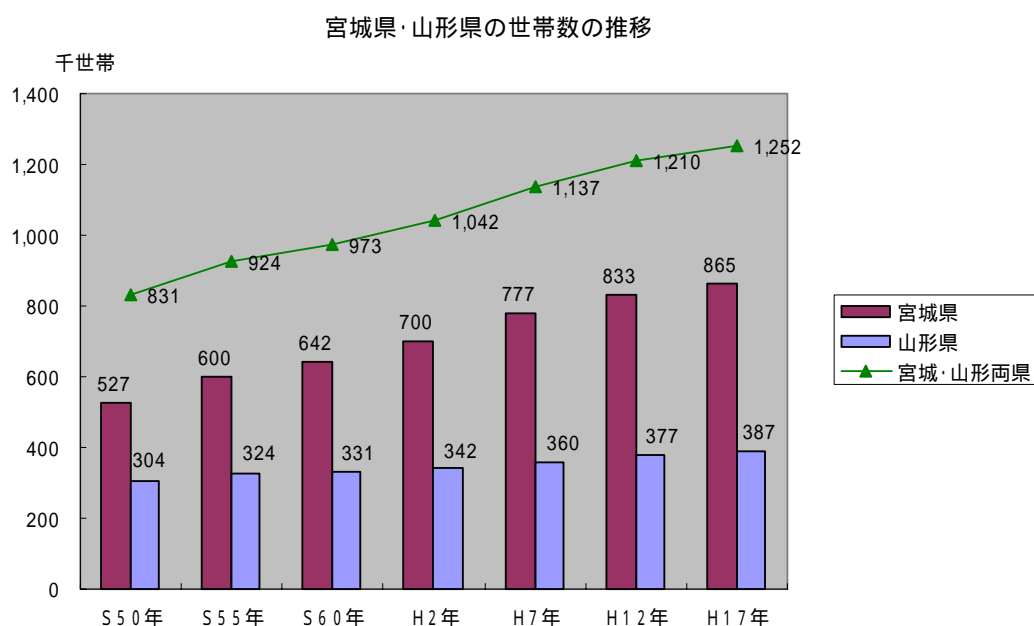
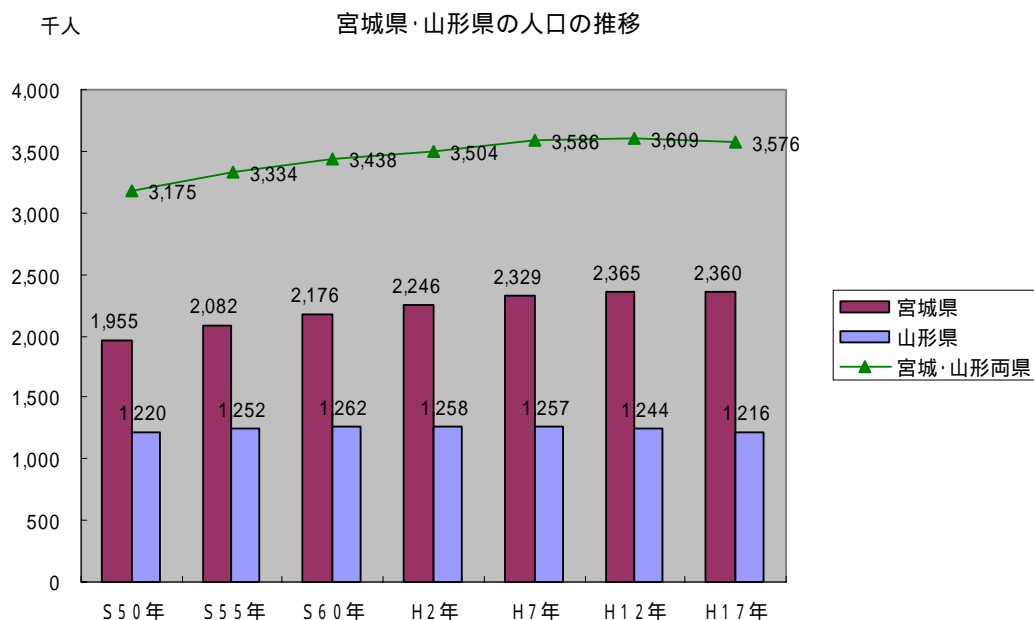
資料：気象庁ホームページ「気象観測（電子閲覧室）」

## 2. 人口

### (1) 人口及び世帯数

平成17年国勢調査（調査時点：平成17年10月1日）によると、宮城県の人口は約236万人、山形県の人口は約121万6千人となっており、両県の総人口は約358万人で、静岡県とほぼ同規模となっています。また、山形県の人口は昭和60年の調査をピークに減少を続けており、宮城県においても平成17年の国勢調査で調査開始以来初めての人口減となり、両県の合計では、前回（平成12年）調査より約3万3千人の減少となっています。また、なお、世帯数は一貫して増加傾向にあり、前回調査より約4万2千世帯の増加となっています。

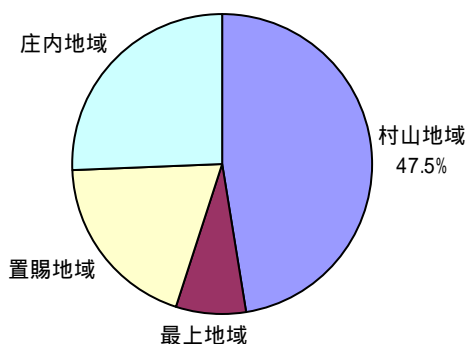
なお、宮城・山形両県の広域圏ごとの人口をみると、宮城県では県人口の6割強が仙台都市圏、山形県では県人口の5割弱が村山地域の人口となっています。また、両県の総人口の約3割が仙台市の人口となっています。



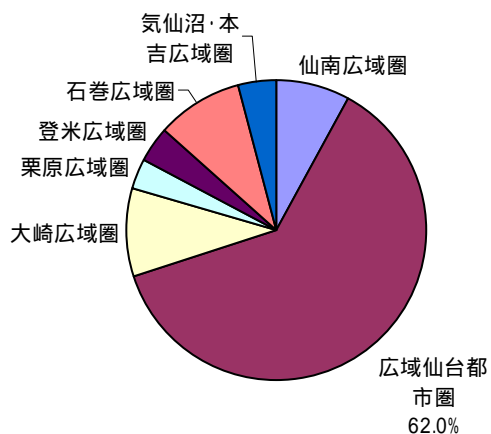
資料：H17年国勢調査



地域別人口構成比(山形県 H17)



地域別人口構成比(宮城県 H17)



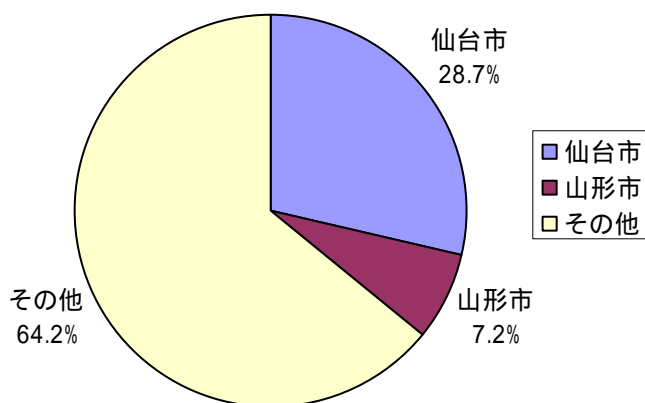
山形県

	人口(人)	構成比
村山地域	577,160	47.5%
最上地域	90,740	7.5%
置賜地域	238,788	19.6%
庄内地域	309,493	25.4%

宮城県

	人口(人)	構成比
広域仙南圏	191,139	8.1%
広域仙台都市圏	1,463,279	62.0%
広域大崎圏	218,298	9.2%
広域栗原圏	80,248	3.4%
広域登米圏	89,316	3.8%
広域石巻圏	221,282	9.4%
広域気仙沼・本吉圏	96,656	4.1%

仙台市・山形市の両県人口に占める割合(H17年)

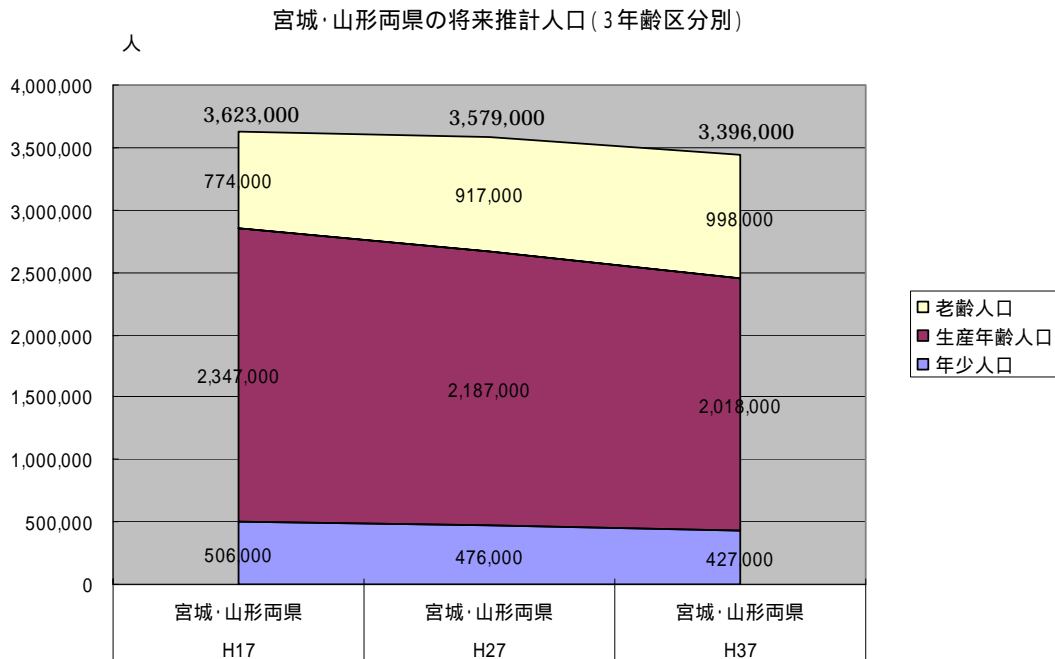


資料：H17年国勢調査

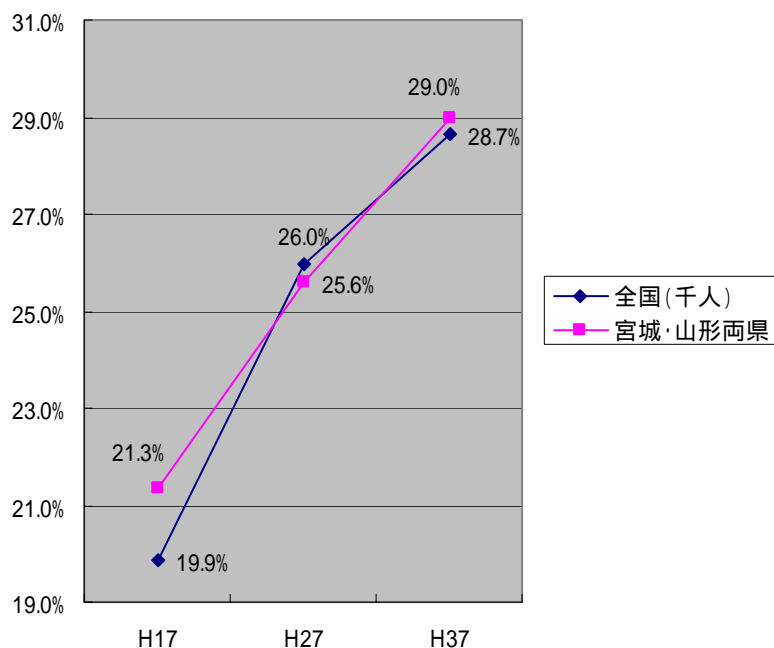
(2) 将来推計人口及び高齢化率

国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口(平成14年3月推計)」によると、宮城・山形両県地域の総人口は、平成17年から平成27年までの間に4万4千人、平成37年までの間に22万7千人減少することが見込まれています。

また、宮城・山形両県の高齢化率は、宮城県が19.5%で全国平均(19.9%)程度ですが、山形県は25.0%で特に高齢化が進んでおり、両県地域を合わせた高齢化率は、平成27年には25.6%、平成37年には29.0%と、今後一層の高齢化が進むことが見込まれます。



宮城・山形両県の高齢化率(将来推計)

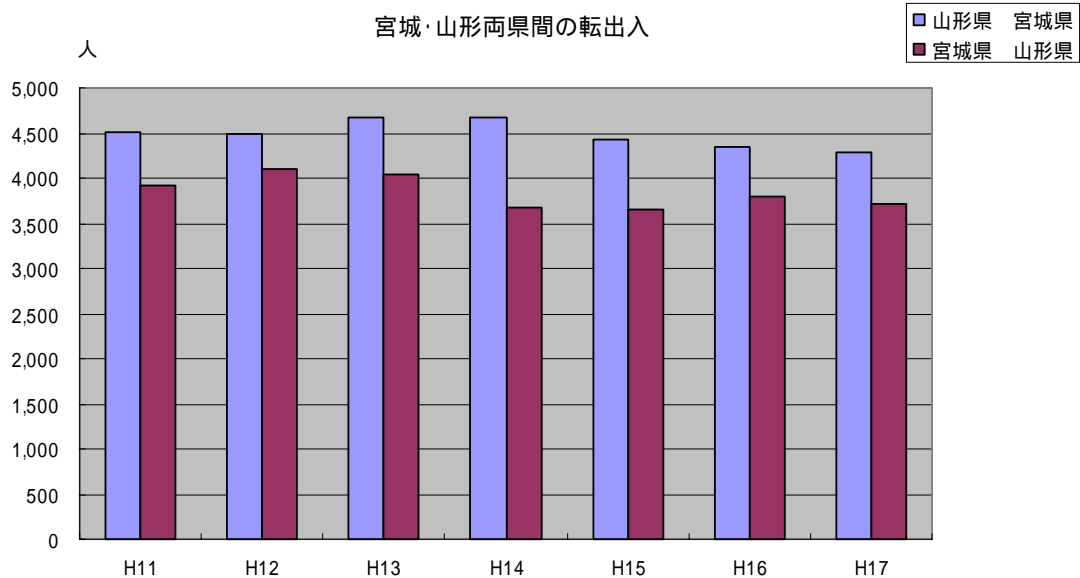


資料：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(平成14年3月推計)

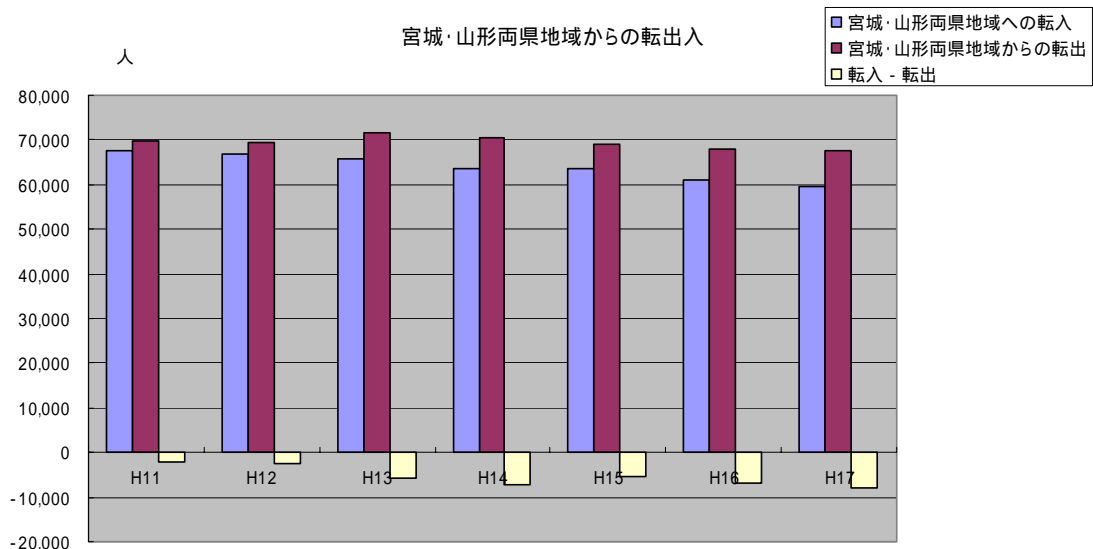
(3) 転出入

宮城・山形両県間の転出入の状況を見ると、宮城県から山形県への転出よりも、山形県から宮城県への転出が多くなっています。

また、宮城・山形両県地域から他都道府県への転出入状況を見ると、両県地域からの転出が両県地域への転入を上回っており、さらにここ数年で両県地域からの人口流出が進んでいます。



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
山形県 宮城県	4,516	4,485	4,674	4,680	4,423	4,346	4,276
宮城県 山形県	3,922	4,100	4,036	3,673	3,655	3,797	3,715



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
宮城・山形両県地域への転入	67,677	66,942	65,828	63,458	63,509	60,912	59,594
宮城・山形両県地域からの転出	69,903	69,407	71,592	70,620	69,077	67,813	67,559
転入 - 転出	-2,226	-2,465	-5,764	-7,162	-5,568	-6,901	-7,965

資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告調査結果」

### 3. 歴史・文化

#### (1) 歴史の上での両県の関わり

宮城・山形の両県は、歴史的にみても深い関わりのある地域です。

古くは奈良時代に幹線道路の一つである東山道の整備として、大野東人の奏上により、多賀城から出羽に至る全長160里の道路が完成しています。この道路の整備には兵数千人が動員されたと言われ、陸奥国府（こくふ）である多賀城から出羽国府である城輪に至る道路が律令国家体制にとっていかに重要であったかが偲ばれます。

また、戦国時代の雄、伊達氏の祖は、文治5年（1189年）地頭として陸奥国伊達郡に配され、ここを本拠として勢力を拡大し、後の南北朝の内乱に乗じて置賜に侵入し、その後本拠を米沢に移して、以来天正19年（1591年）豊臣秀吉の命により岩出山（宮城県）に移るまで米沢を本拠として置賜地方を領有しました。

一方、最上氏は、斯波家兼の庶子兼頼を羽州探題として延文元年（1356年）山形に入府させ、後に兼頼の子孫は最上氏を称し、村山地方から最上地方、庄内地方、秋田県の一部にも及ぶ大領国を形成しました。

米沢を本拠とした伊達氏と山形を本拠とした最上氏は、姻戚関係を結んでいたため、緊密な関係であるとともに、対立関係にもありました。最上氏中興の祖と言われる最上義光は、伊達輝宗の支援を受けた弟の中野義時と家督を争い、また、伊達輝宗の妻は最上義光の妹の義姫であり、後に伊達政宗の母親となりました。その後も両家の間では抗争が頻発し、豊臣秀吉の全国統一まで続きました。

江戸時代、幕藩体制が確立すると、藩と藩との交流は幕府の厳しい監視下に置かれ、大名家の姻戚関係などは厳しく制限されましたが、街道の発達には物資の流れ、人の流れを生み出し、庶民レベルでの交流が生まれました。現在の山形県から宮城県に通じる羽州街道は奥州各藩の参勤交代に使われる重要な街道となるとともに、物資の流れ、人の流れが多く、重要な交流の道でもありました。また、宮城と山形に跨る奥羽山脈の峠越えの各街道は最上街道とも呼ばれ、それぞれの地域の人や物資の交流が盛んに行われました。

明治に入ると、山形県令三島通庸の命により関山トンネルが開削され、昭和に入っては仙山線全通、笹谷トンネルの開通、さらには平成の東北横断自動車道酒田線開通と両県を結ぶ交通基盤が整備されるに伴って、両県間の交流がさらに活発化してきました。

#### (2) 文化

宮城県内には、縄文文化を伝える遺跡として松島湾周辺に数多くの貝塚が存在し、海とともに暮らした当時の生活文化を伝えており、大木岡貝塚、沼津貝塚、西の浜貝塚は国指定の史跡となっています。

多賀城は、古代律令政府により陸奥国府が置かれたところで、奈良・平安時代の東北地方の政治・軍事・文化の中心地でした。その遺跡は多賀城市北西部の丘陵上にあり、多賀城跡の南東約1キロには多賀城の付属寺院である多賀城廃寺跡、多賀城跡の南前面には計画的に配置された当時の街並みの跡があります。

多賀城跡と多賀城廃寺跡は国の特別史跡に指定されており、奈良の平城宮跡、九州の太宰府跡とともに日本三大史跡に数えられています。また、特別史跡内には奈良時代に造られた多賀城碑があり、平成10年6月に重要文化財に指定されています。

また、宮城県内各地では、平家の落人が始めたと言われ伝えられ国の重要民俗無形文化財に指定されている秋保の田植踊りをはじめ、伝統ある踊りや神楽などの民俗芸能が受け継がれています。

建造物としては、慶長12年（1607年）伊達政宗によって創建された国宝大崎八幡宮や国宝松島瑞巖寺，陸奥国分寺薬師堂など，桃山建築を取り入れた建造物が今に残されています。

山形県内では，尾花沢市の袖原遺跡から約30万年前のものとみられる石器が出土しています。南陽市の白竜湖東方の丘陵地帯には，日向洞窟など多くの縄文期の洞穴・岩陰遺跡が散在しており，さらに舟形町の西ノ前遺跡からは，八頭身のフォルムを持つ日本最大の縄文土偶が出土しています。

また，山形県内には，古代から信仰の対象となった神仏も多く残されており，特に月山，湯殿山，羽黒山を総称する出羽三山は，中世以来山岳信仰の霊山とされ，修験道場として東北・関東各地からの行者でにぎわっていました。

寒河江市には，東北地方第一の古刹慈恩寺が，山形市には山寺の呼称で有名な立石寺があり，往時の仏教文化の隆盛を今に伝えています。

北前船の寄港地であり，最上川水運の起点であった日本海側の酒田は，山形と遠方を結ぶ物産と文化の中継点として大いに栄えました。上方からは，仏像，陶磁器，香道，雅楽などが伝えられ，山形から京に運ばれた紅花は京友禅や西陣織の発展に貢献し，紅花貿易の帰り荷として紅染めの衣装やひな人形などが持ち帰られ，河北町谷地にはひな人形，京文化を受けた鶴岡市の黒川能や河北町の林家舞楽の装束には紅染めが残されています。松山大寒能，黒森歌舞伎も京文化が独自に発展したものです。

なお，古より中央から入った文化を独自に発展させてきた宮城・山形両県地域は，歌枕となった史跡も数多く残されており，風光明媚な景観と相まって，数多くの和歌や俳句に詠まれています。その中でも，江戸時代に門弟曾良とともにみちのくを旅した俳聖松尾芭蕉は，当地域の歌枕を訪ね歩いて多くの句を残し，旅先での交流を「奥の細道」に記しています。



山寺立石寺



国宝大崎八幡宮

## 4. 交通基盤

### (1) 鉄道

東北新幹線については、平成3年に東京駅への乗入れを実現し、東北と首都圏を結ぶ大動脈となっています。山形新幹線については、平成4年に東京～山形間で運行を開始し、さらに平成11年には新庄までの延伸が実現しています。また、在来線の仙山線、陸羽東・西線、石巻線については、宮城・山形両県を結ぶ交流の手段として利用されており、特に仙台市と山形市を結ぶ仙山線については一層の高速化や輸送力の強化が課題となっています。

なお、仙台空港とJR仙台駅を最速17分で結ぶ仙台空港アクセス鉄道が平成19年3月に開業し、仙山線との相互乗入れが今後の課題となっています。

鉄道路線網及び主な鉄道プロジェクト



資料：図で見る東北の運輸 2006 (国土交通省東北運輸局 HP)

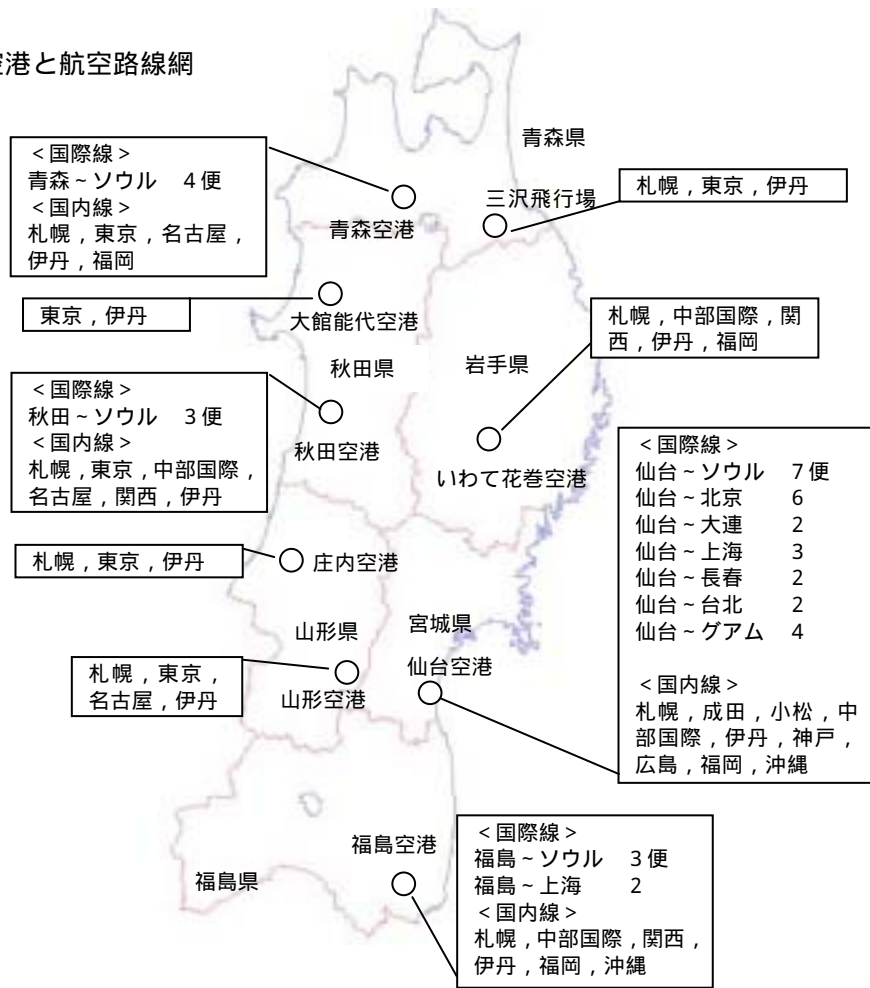


(3) 空港・港湾

空港

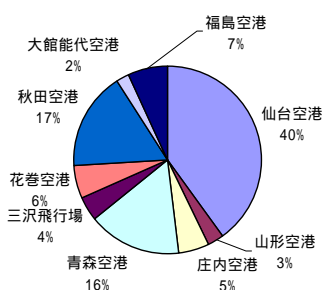
宮城・山形両県地域内には、第2種空港（主要な国内航空路線に必要な空港）である仙台空港と山形空港、第3種空港（地方的な航空輸送を確保するために必要な空港）である庄内空港の3つの空港があり、国内については東京、名古屋、神戸、大阪、札幌、成田、広島、小松、福岡、沖縄と結ばれています。仙台空港からは、ソウル線、グアム線、北京線、上海線、大連線、長春線、台北線の7つの国際定期路線が定期運航され、東北における空の玄関となっており、平成19年3月には、定時性・高速性・大量輸送性に優れた仙台空港アクセス鉄道（仙台駅から最速約17分）が開業しています。山形空港、庄内空港についても国際化に向けた検討が進められています。

東北の空港と航空路線網



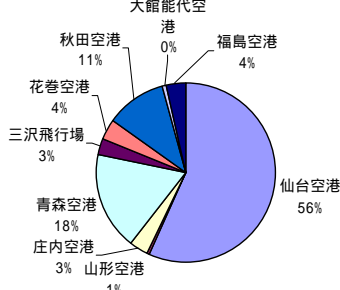
資料：図で見る東北の運輸2006（国土交通省東北運輸局 HP）

東北の空港の乗降客数の構成比（H16年）

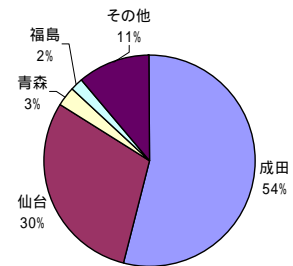


資料：国土交通省「空港管理状況調査」

東北の空港の貨物取扱量の構成比（H16年）



東北に居住する日本人出国者の利用空港内訳



資料：国土交通省「国際航空旅客動態調査」

港湾

両県地域内には、太平洋側に特定重要港湾仙台塩釜港，重要港湾石巻港，日本海側に重要港湾酒田港があります。

仙台塩釜港（仙台港区）については、国際コンテナ航路として東南アジア航路，北米西岸・中国，中国・韓国，韓国の各航路が開設されているほか，国内各港との幅広い内航フィーダー航路網により，世界各国と結ばれています。また，仙台塩釜港（仙台港区）の背後地には仙台港国際ビジネスサポートセンター（アクセル）や東北最大級の展示施設であるみやぎ産業交流センター（夢メッセみやぎ）が立地しています。

酒田港については、国際コンテナ航路として釜山航路が開設され，釜山港経由で北米，オセアニア，東南アジア，中国などの対岸諸国と結ばれています。また，平成4年に中国黒龍江省ハルビンから，松花江，黒龍江，アムール川，間宮海峡，日本海を経て酒田港に至る新航路「東方水上シルクロード」が開設され，環日本海の拠点港として，特に北東アジアとの国際交流拠点としての役割が期待されているほか，平成15年には総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定され，全国21ヶ所の静脈物流ネットワーク拠点に位置づけられており，北港地区へのリサイクル系企業，新エネルギー系企業の集積が進められています。



仙台塩釜港 コンテナ定期航路

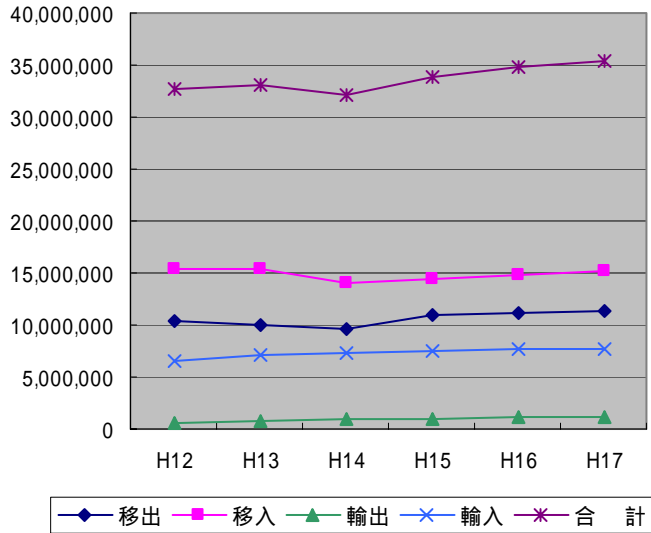


酒田港 コンテナ定期航路

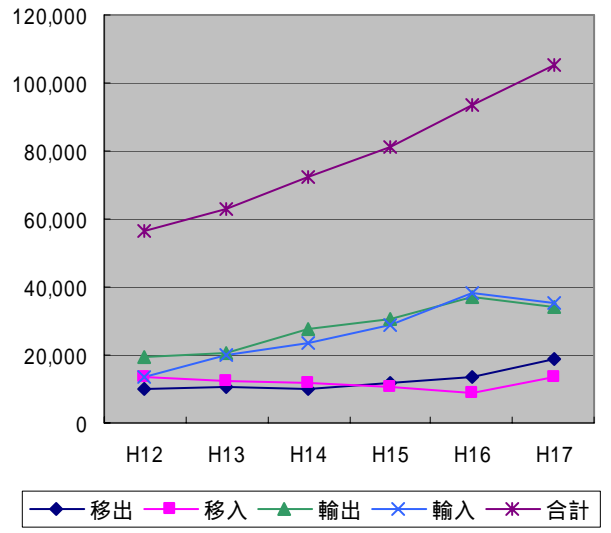
仙台塩釜港と酒田港の港湾貨物取扱量の推移をみると、両港で取扱貨物量が増加しており、特にコンテナ貨物については、仙台塩釜港では移輸出入ともに、酒田港では輸出を中心に取扱量が急増しています。

また、酒田港においては、リサイクルポートの指定を受けた平成15年以降、リサイクル貨物の取扱量も順調な伸びを示しています。

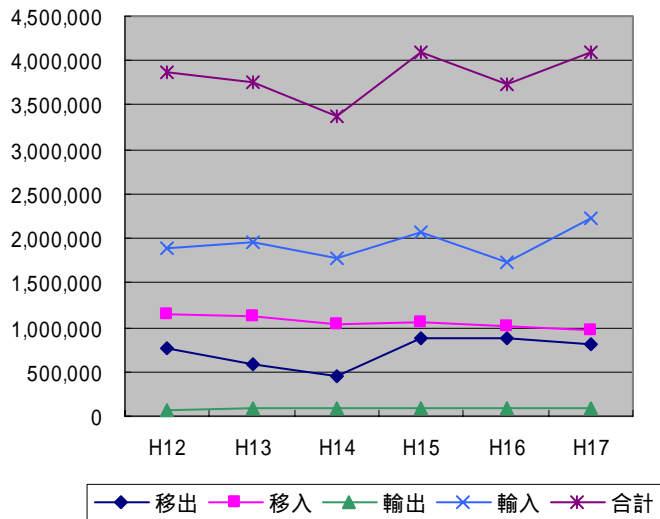
トン 仙台塩釜港(仙台港区) 取扱貨物量



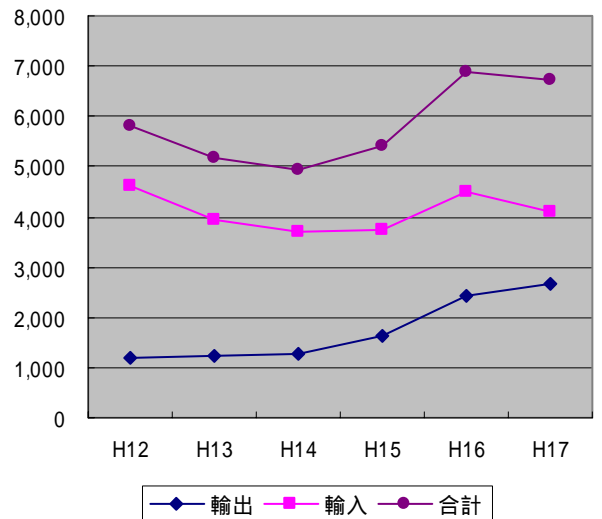
TEU 仙台塩釜港 コンテナ貨物取扱数



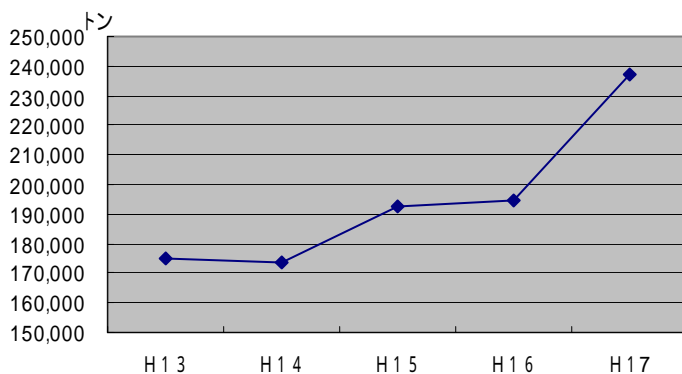
トン 酒田港 取扱貨物量



TEU 酒田港 釜山港定期コンテナ貨物取扱数



酒田港 リサイクル貨物取扱量



(注)コンテナ貨物取扱量には空コンテナを含まない。

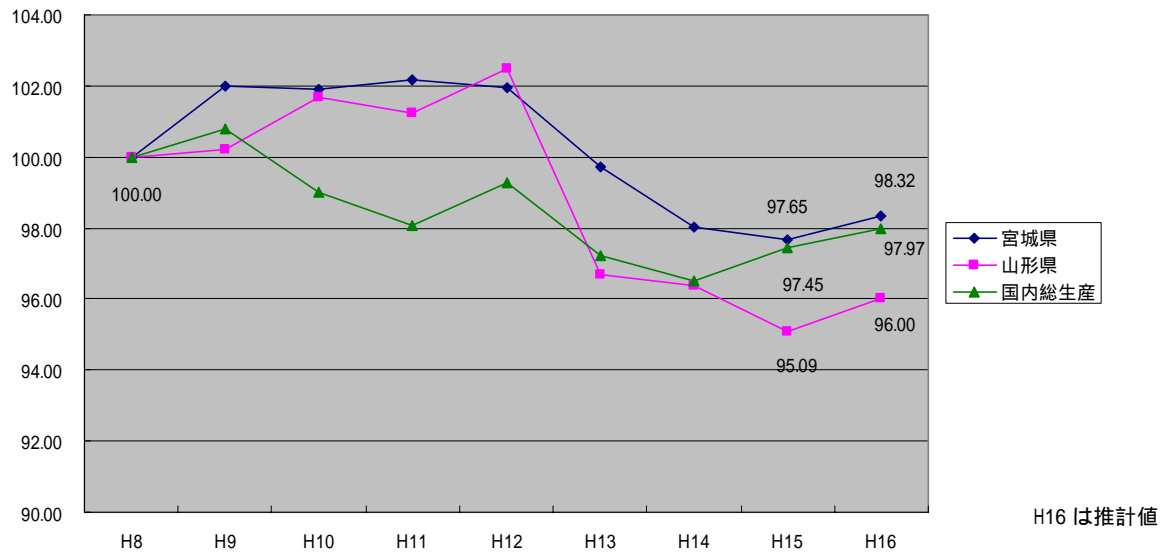
資料：港湾統計

## 5. 経済・産業

### (1) 主な経済指標

県内総生産額は、宮城県では平成11年以降、山形県では平成12年以降、減少し続けていましたが、平成16年では両県ともに前年を上回っており、経済の回復のきざしが見られます。しかし、一人あたり県民所得は、平成16年では、宮城県が252万1千円、山形県が237万7千円で、ともに減少傾向にあり、全国に比べても低位に止まっています。

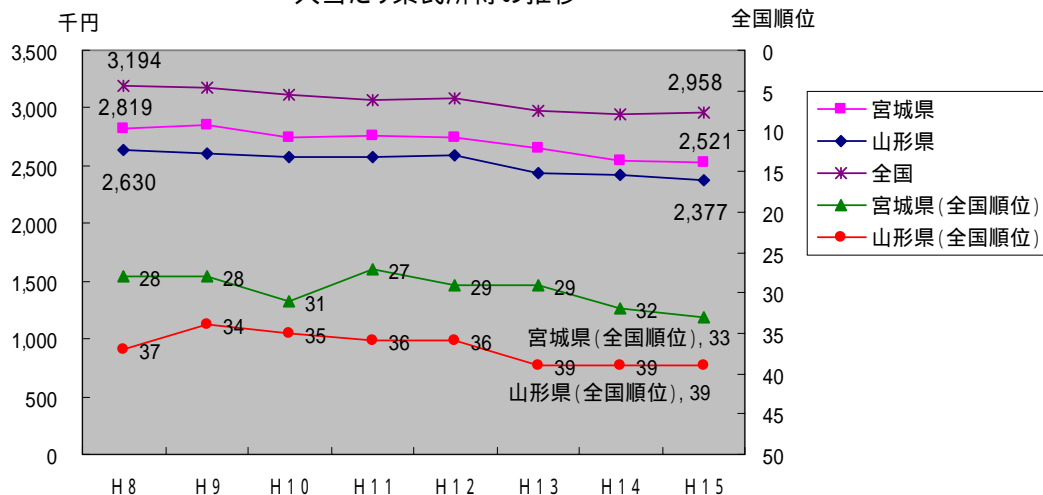
県内総生産の推移(平成8年度=100)



単位:百万円

	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16(推計値)
宮城県	8,629,486	8,801,112	8,794,102	8,817,806	8,795,794	8,604,170	8,460,843	8,426,720	8,484,270
(H8=100)	100.00	101.99	101.91	102.18	101.93	99.71	98.05	97.65	98.32
(対全国比%)	1.70	1.72	1.75	1.78	1.75	1.75	1.73	1.71	1.71
山形県	4,209,033	4,218,023	4,279,312	4,261,274	4,313,915	4,070,252	4,055,910	4,002,340	4,040,700
(H8=100)	100.00	100.21	101.67	101.24	102.49	96.70	96.36	95.09	96.00
(対全国比%)	0.83	0.83	0.85	0.86	0.86	0.83	0.83	0.81	0.81
宮城・山形両県	12,838,519	13,019,135	13,073,414	13,079,080	13,109,709	12,674,422	12,516,753	12,429,060	12,524,970
(対全国比%)	2.53	2.55	2.61	2.63	2.61	2.57	2.56	2.52	2.52

一人あたり県民所得の推移



資料：県民経済計算，国民経済計算

なお、宮城・山形両県に関する主要な経済指標をみると、両県地域の面積は東北全体の24.8%であるのに対し、人口は37.1%であり、特に仙台都市圏を中心に人口が集中しています。両県の県内総生産は合わせて約1.2兆円で、東北全体の38.3%となっており、特に第二次産業総生産については約3兆円で東北全体の39.6%を占めているほか、漁業生産額は約850億円と東北全体の40.9%を占めています。また、両県を合わせた商品販売額は約10億円で東北全体の47.7%と非常に高い比率を占めています。

宮城・山形両県の主な経済指標(東北・日本に占める位置)

区分	単位	宮城県	山形県	宮城・山形両県	東北	全国	対東北比	対全国比
1 総面積	km <sup>2</sup>	7,286	9,323	16,609	66,889	377,915	24.8%	4.4%
2 人口	人	2,360,218	1,216,181	3,576,399	9,634,917	127,767,994	37.1%	2.8%
3 世帯数	世帯	865,200	386,728	1,251,928	3,349,315	49,566,305	37.4%	2.5%
4 年少人口(0～14歳)	人	325,829	166,653	492,482	1,331,820	17,521,234	37.0%	2.8%
5 生産年齢人口(15～64歳)	人	1,558,087	739,030	2,297,117	6,060,248	84,092,414	37.9%	2.7%
6 老年人口(65歳～)	人	470,512	309,913	780,425	2,229,997	25,672,005	35.0%	3.0%
7 就業者数	人	1,107,773	612,089	1,719,862	4,653,991	61,505,973	37.0%	2.8%
8 雇用者数	人	880,802	448,751	1,329,553	3,517,527	48,333,630	37.8%	2.8%
9 第一次産業就業者数	人	68,985	66,700	135,685	479,694	2,965,791	28.3%	4.6%
10 第二次産業就業者数	人	260,754	185,752	446,506	1,227,935	16,065,188	36.4%	2.8%
11 第三次産業就業者数	人	765,734	356,207	1,121,941	2,910,181	41,328,993	38.6%	2.7%
12 事業所数	箇所	107,565	64,589	172,154	463,763	5,920,400	37.1%	2.9%
13 従業者数	人	934,680	482,235	1,416,915	3,702,535	52,067,396	38.3%	2.7%
14 県内総生産	百万円	8,426,720	4,002,340	12,429,060	32,419,998	495,772,222	38.3%	2.5%
15 第1次産業総生産	百万円	154,988	131,011	285,999	913,983	6,027,720	31.3%	4.7%
16 第2次産業総生産	百万円	1,811,389	1,112,708	2,924,097	8,226,943	133,542,574	35.5%	2.2%
17 第3次産業総生産	百万円	6,747,518	2,907,334	9,654,852	24,399,912	381,038,929	39.6%	2.5%
18 県民所得	百万円	5,981,436	2,923,694	8,905,130	23,749,819	377,512,364	37.5%	2.4%
19 一人当たり県民所得	千円	2,521	2,377	-	-	2,889	-	-
20 雇用者報酬	百万円	4,414,402	2,045,273	6,459,675	16,674,087	269,755,458	38.7%	2.4%
21 民間法人企業所得	百万円	556,847	270,206	827,053	2,986,333	41,282,990	27.7%	2.0%
22 個人企業所得	百万円	742,734	558,655	1,301,389	3,258,688	49,735,121	39.9%	2.6%
23 総農家数	戸	77,855	61,567	139,422	463,460	2,848,166	30.1%	4.9%
24 販売農家数	戸	62,731	49,013	111,744	370,786	1,963,424	30.1%	5.7%
25 農業産出額	百万円	210,100	214,000	424,100	1,416,900	8,914,300	29.9%	4.8%
26 林業産出額	千万円	794	629	1,423	6,478	43,461	22.0%	3.3%
27 漁業生産額(海面)	百万円	81,700	2,900	84,600	207,000	1,499,800	40.9%	5.6%
28 製造品出荷額等	百万円	3,513,591	2,940,137	6,453,728	17,016,941	284,418,266	37.9%	2.3%
29 工業事業所数	箇所	3,626	3,414	7,040	19,322	270,906	36.4%	2.6%
30 工業従業者数	人	125,867	113,249	239,116	652,746	8,113,676	36.6%	2.9%
31 工業現金給与額	百万円	465,585	388,080	853,665	2,294,772	35,491,208	37.2%	2.4%
32 商店数	箇所	31,706	18,592	50,298	136,193	1,613,318	36.9%	3.1%
33 商業従事者数	人	227,982	105,549	333,531	845,215	11,565,953	39.5%	2.9%
34 商品販売額	百万円	10,236,543	2,833,161	13,069,704	27,377,571	538,775,810	47.7%	2.4%
35 高速自動車国道	km	158.1	137.5	296	1,164	7,363	25.4%	4.0%

資料 1: H18全国市町村要覧, 2～11: H17国勢調査, 12～13: H16事業所・企業統計調査, 14～22: H15年度県民経済計算, 23～24: 2005年農林業センサス, 25: H16年農業産出額, 26: H16年林業産出額, 27: H16年漁業生産額, 28～31: H16年工業統計調査, 32～34: H16年商業統計表, 35: 東日本高速道路(株)東北支社資料

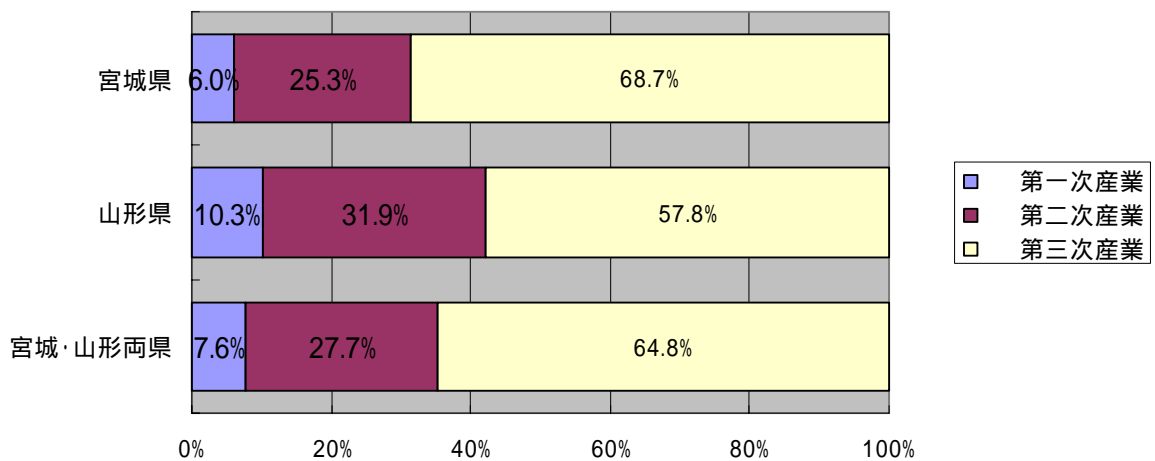
## (2) 産業構造

### 産業別従業者数

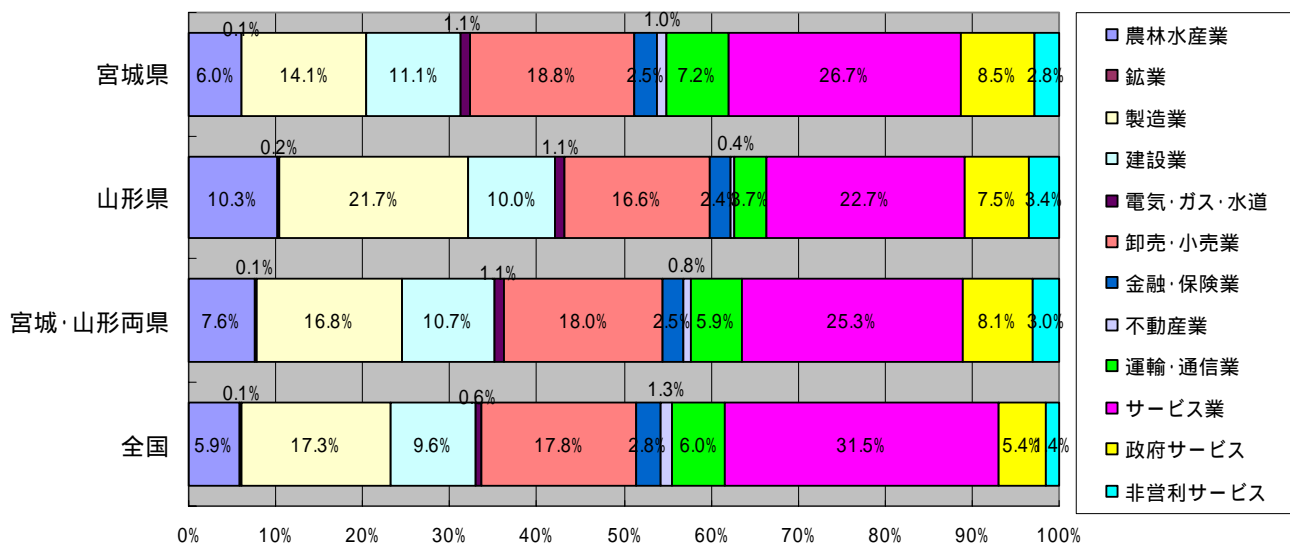
産業別の従業者数をみると、宮城県は山形県よりも第3次産業の比率が高く、山形県は宮城県よりも第1次産業、第2次産業の比率が高くなっています。

さらに、経済活動別の従業者数の構成比を全国と比較してみると、農林水産業、建設業、政府サービスなどについては両県ともに全国より比率が高いほか、山形県では製造業、宮城県では卸・小売業、運輸・通信業の比率が全国より高くなっています。

宮城・山形両県の産業別就業者数構成



宮城・山形両県の経済活動別就業者構成



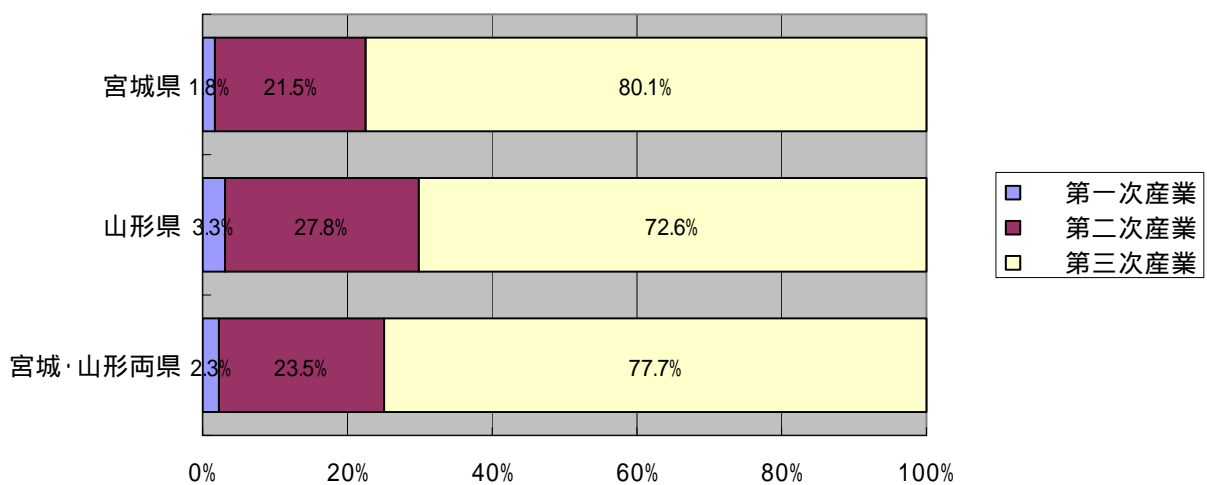
資料：平成15年度県民経済計算

### 産業別県内総生産

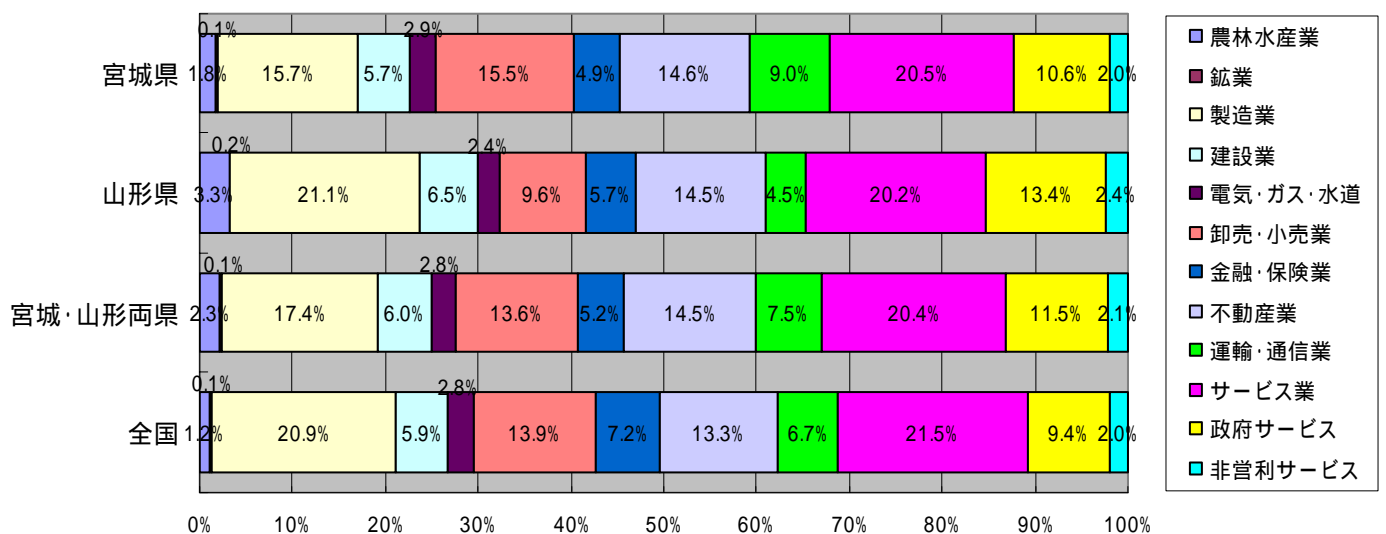
産業別に県内総生産に占める割合をみると、宮城・山形両県ともに第3次産業が最も多くなっていますが、宮城県では山形県よりも第3次産業の比率が高く、山形県は宮城県よりも第1次産業及び第2次産業の比率が高くなっています。

さらに、経済活動別の県内総生産に占める割合を全国と比較してみると、農業、建設業、不動産業、政府サービスについては両県ともに全国より比率が高いほか、山形県では製造業、宮城県では卸・小売業、運輸・通信業の比率が全国より高くなっています。

### 宮城・山形両県の産業別県内総生産構成比



### 宮城・山形両県の経済活動別県内総生産構成比



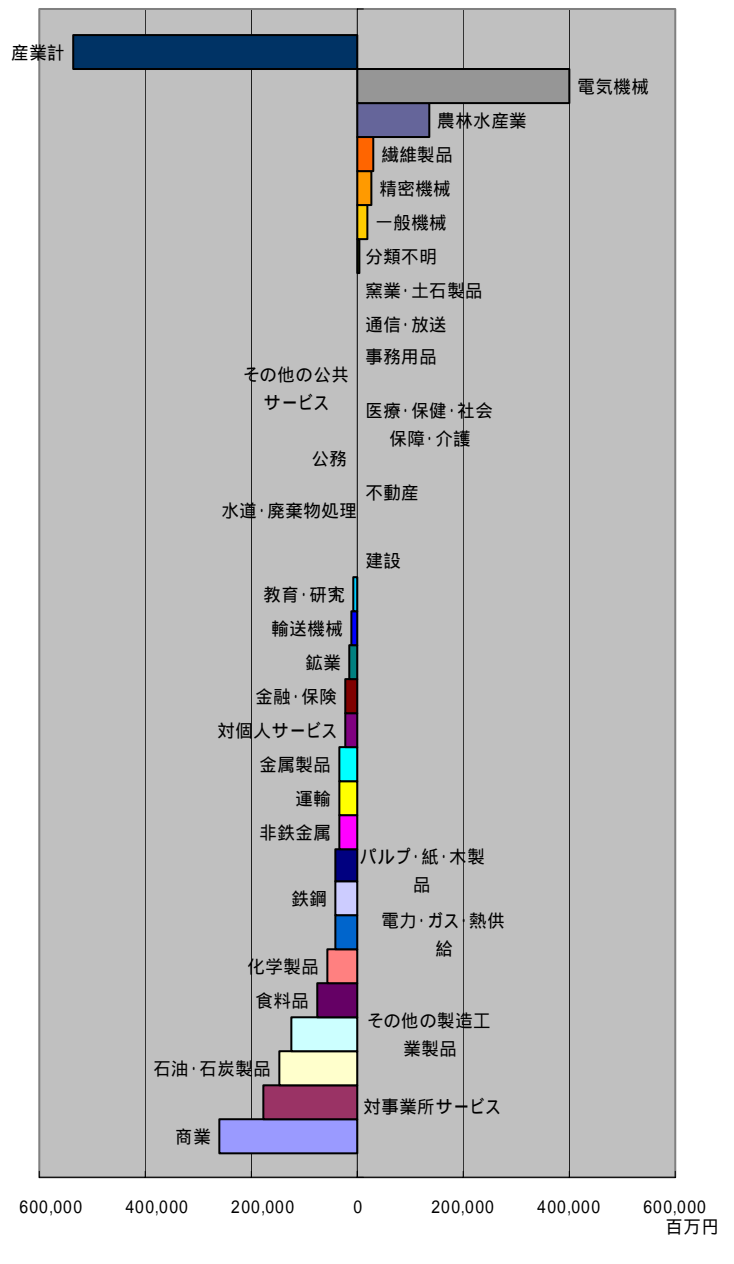
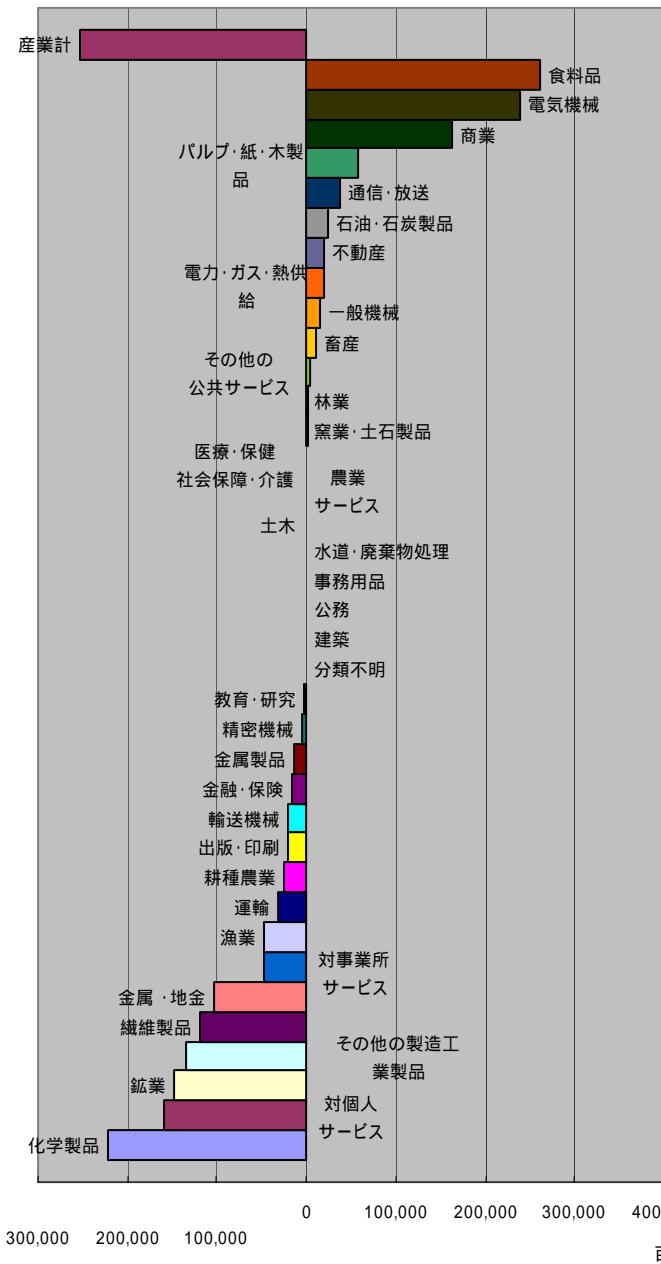
資料：平成15年度県民経済計算

### 県際構造

宮城・山形両県における部門別の県際収支をみると、輸移出額が輸移入額を上回っている業種は、宮城県では食料品、電気機械、商業、パルプ・紙・木製品などで、山形県では電気機械、農林水産業、繊維製品、精密機械などとなっています。逆に輸移入額が輸移出額を上回っている業種は、宮城県では、化学製品、対個人サービスなどで、山形県では商業、対事業所サービスなどとなっています。

宮城県の部門別県際収支(H12)

山形県の部門別県際収支(H12)



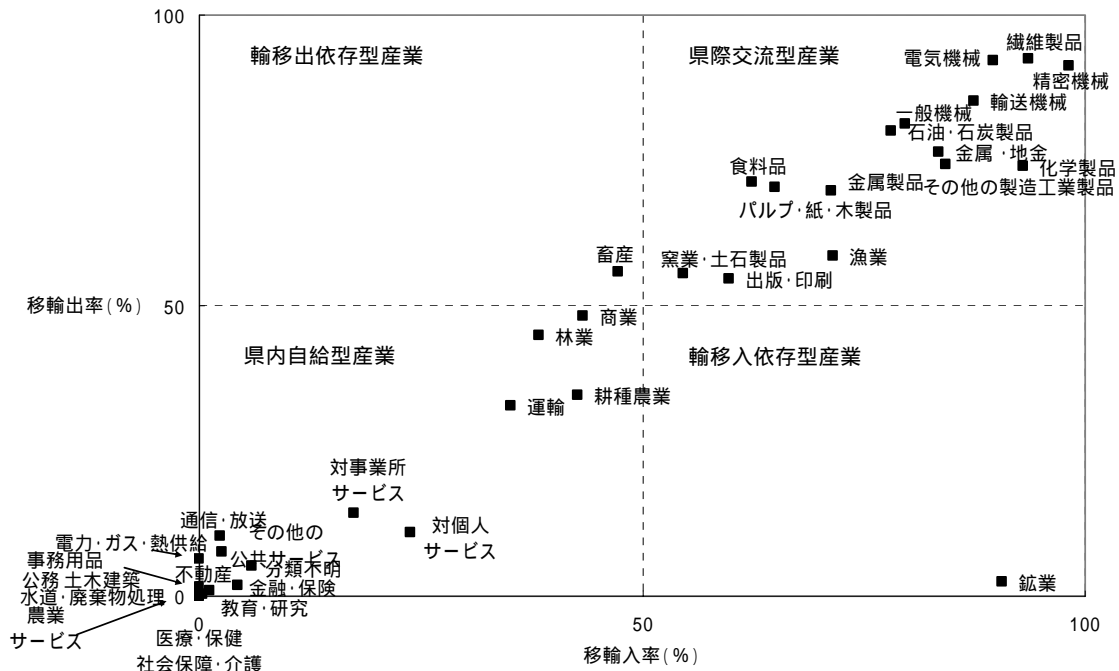
資料：宮城県産業連関表(37分類)

資料：山形県産業連関表(32分類)

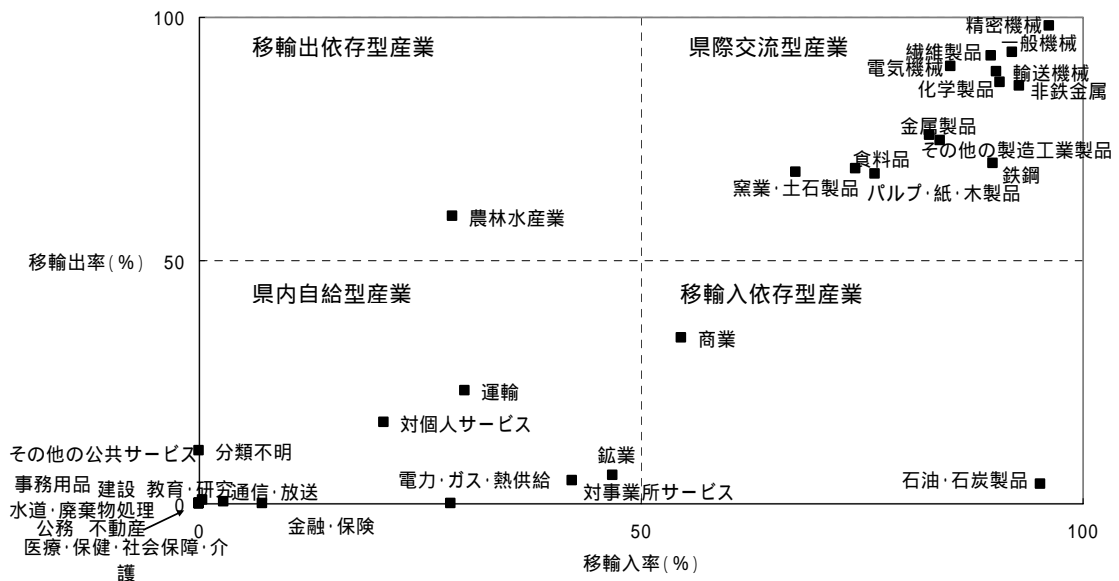
県際収支 = 移輸出額 - 移輸入額

また、産業部門別の県際収支から宮城・山形両県の産業を類型化すると、宮城県では畜産，山形県では農林水産業が県内需要を賅った上で他地域への移輸出も多い移輸出依存型の産業となっており、製造業については両県ともに移輸出・移輸入ともに多い県際交流形産業となっています。また、商業については、宮城県では県内自給型産業となっているのに対し、山形県では県内需要を他地域から賅っている移輸入型産業となっています。

県際収支からみた産業類型(宮城県)



県際収支からみた産業類型(山形県)



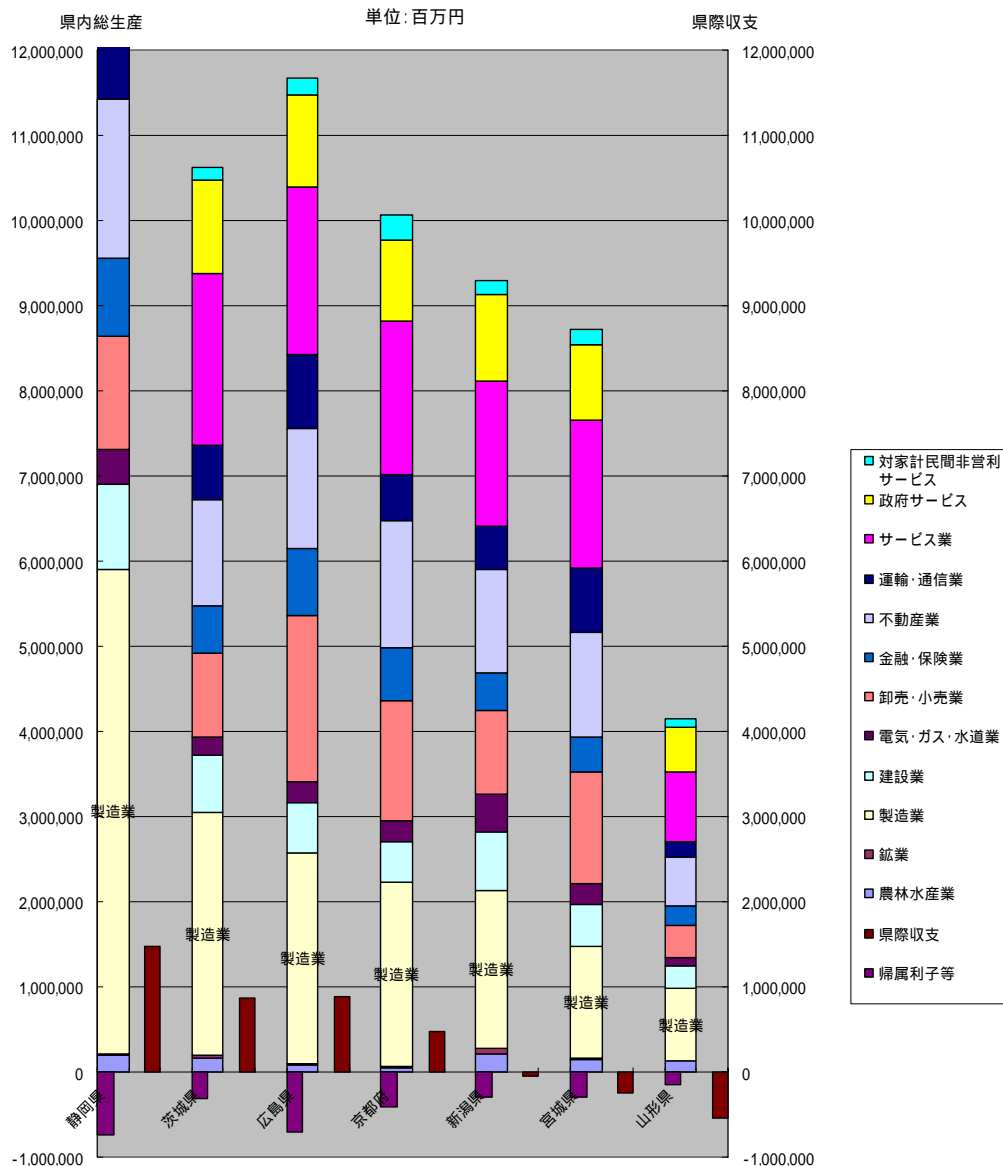
- 県際交流型産業: 県内で生産された商品の多くが県外に移輸出され、県内で使用する商品の多くが県外からの移輸入によってまかなわれる産業
- 移輸出依存型産業: 県内の需要を十分に賅った上で、移輸出も多い産業
- 県内自給型産業: 県内の需要は県内で賅われるという傾向の強い産業
- 移輸入依存型産業: 県内の需要を賅うために、移輸入に多くを依存する産業

なお、宮城・山形両県と人口の類似した都道府県で、かつ、両県よりも県内総生産額が高い府県と比較すると、いずれも宮城・山形両県よりも製造業の比率が高く、県際収支が大きいという点が共通しています。

人口類似府県との県内総生産額の比較

都道府県	人口 H16.10.1 千人	県内総生産 H15 百万円	県内総生産の全国順位
静岡県	3,795	15,747,582	10
茨城県	2,989	11,150,388	11
広島県	2,878	10,960,658	12
京都府	2,638	9,653,245	13
新潟県	2,452	9,009,212	14
宮城県	2,371	8,426,720	15
山形県	1,223	4,002,340	34
宮城・山形両県	3,594	12,429,060	

県内総生産の部門別構成比(人口同規模県との比較)



資料：H15 県民経済計算，H12 産業連関表

(3) 第1次産業

平成15年度の食料自給率をみると、カロリーベースでは、宮城県が64%、山形県が131%、生産額ベースでは、宮城県が97%、山形県が171%となっており、我が国の食料生産における両県の役割の重要性を示しています。

また、品目別の産出額等をみると、米については両県ともに全国で10位以内となっているほか、宮城県は、まぐろ、かじき、さんま、かきなどの水産物、山形県は、えだまめ、メロン、すいかなどの野菜や、おうとう、西洋なしなどの果樹について、全国でトップクラスとなっています。

食料自給率(H15年度)

単位:%

	カロリーベース	生産額ベース
全国	40	70
宮城県	64	97
山形県	131	171

資料:農林水産省HP

H17農業産出額(市町村別推計値)

単位:億円

	宮城県			山形県			全国 産出額
	産出額	全国順位	全国シェア(%)	産出額	全国順位	全国シェア(%)	
米	920	7	4.5	951	5	4.7	20,234
肉用牛	194	7	3.6	89	18	1.6	5,428
生乳	127	9	1.9	87	18	1.3	6,664

H16野菜生産出荷統計

単位:トン

	宮城県			山形県			全国 収穫量
	収穫量	全国順位	全国シェア(%)	収穫量	全国順位	全国シェア(%)	
えだまめ	1,600	15	2.2	6,110	2	8.3	73,300
いちご	6,440	10	3.2	776	33	0.4	198,200
メロン	235	41	0.1	14,300	8	5.8	248,600
かぶ	1,160	29	0.7	4,610	8	2.7	167,800
きゅうり	19,200	9	2.9	16,000	12	2.4	673,000
しゅんぎく	1,130	10	2.7	250	33	0.6	41,200
すいか	291	45	0.1	33,500	3	7.4	454,000
セルリー	39	24	0.1	414	9	1.1	36,100
そらまめ	966	5	4.1			0.0	23,300

H16果樹生産出荷統計

単位:トン

	宮城県			山形県			全国
	収穫量	全国順位	全国シェア(%)	収穫量	全国順位	全国シェア(%)	収穫量
おうとう	13	11	0.1	10,800	1	65.9	16,400
かき	1,350	26	0.6	7,490	10	3.2	232,400
すもも	289	14	1.1	1,650	4	6.1	27,100
ぶどう	126	45	0.1	20,900	3	10.2	205,600
もも	430	21	0.3	8,650	5	5.7	151,900
りんご	4,530	9	0.6	47,000	4	6.2	754,400
西洋なし	93	9	0.4	14,700	1	61.5	23,900

H17年漁業・養殖業生産統計(概数)

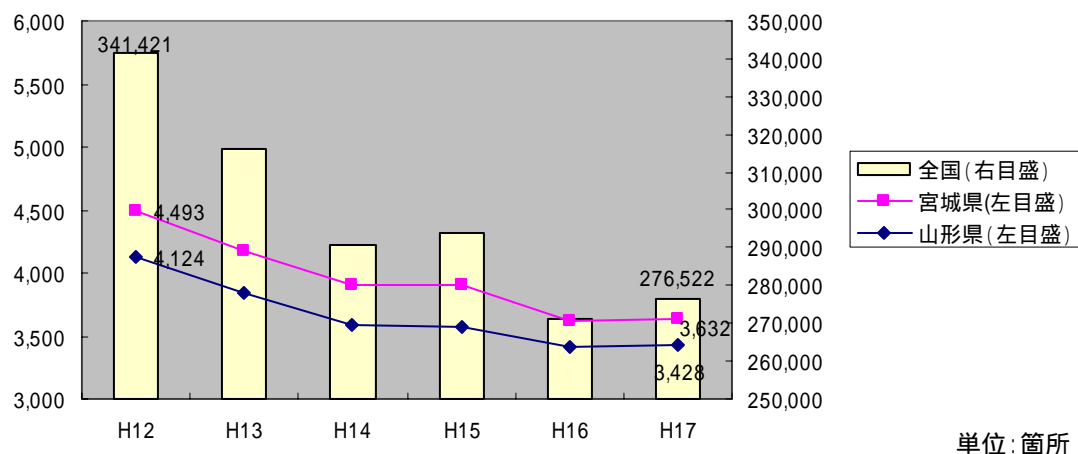
単位:百トン

		宮城県			山形県			全国
		漁獲量・生産量	全国順位	全国シェア(%)	漁獲量・生産量	全国順位	全国シェア(%)	漁獲量・生産量
海面漁業	いかなご	87	3	12.9%				674
	さんま	322	2	13.7%				2,356
	ひらめ・かれい類	31	3	5.2%	3	26	0.5%	600
	たら類	144	2	6.0%	10	10	0.4%	2,417
	まぐろ類	300	1	13.0%	100	29	4.3%	2,314
	かじき類	60	1	30.0%				200
	かつお	450	3	12.3%				3,669
	さけ類	59	3	2.6%	4	9	0.2%	2,292
	おきあみ類	201	2	43.9%				458
	するめいか	39	8	1.8%	22	13	1.0%	2,127
	たこ類	11	10	2.0%	2	26	0.4%	547
	うに類	9	5	7.5%				120
海面養殖業	ほたてがい	128	3	6.3%				2,032
	かき類	549	2	25.3%				2,169
	わかめ類	195	2	30.6%				637
	くろのり	285	5	7.4%				3,871

(4) 第2次産業

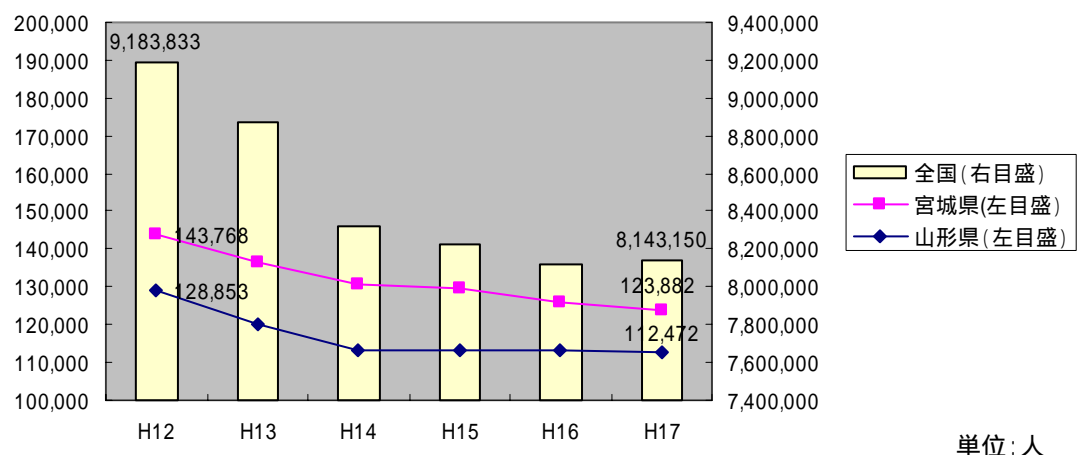
工業に関する各種指標の推移をみると、事業所数・従業者数については、宮城・山形両県とも全国と同様にここ5年間減少傾向にあります。また、製造品出荷額・付加価値額については、全国及び宮城・山形両県ともに平成12年から平成14年まで減少傾向にあったものの、平成15年以降は増加傾向にあります。

事業所数の推移(単位:箇所)



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
宮城県	4,493	4,174	3,904	3,897	3,626	3,632
(全国比)	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
山形県	4,124	3,844	3,585	3,576	3,414	3,428
(全国比)	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.3%	1.2%
全国計	341,421	316,267	290,848	293,911	271,088	276,522

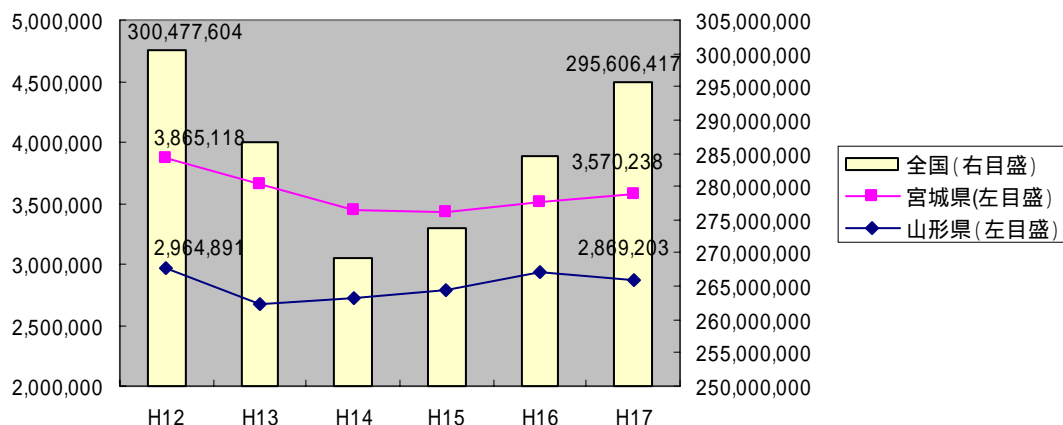
従業者数(単位:人)



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
宮城県	143,768	136,565	130,784	129,523	125,867	123,882
(全国比)	1.6%	1.5%	1.6%	1.6%	1.6%	1.5%
山形県	128,853	119,855	113,266	113,169	113,249	112,472
(全国比)	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%
全国計	9,183,833	8,866,220	8,323,589	8,228,150	8,117,805	8,143,150

資料：工業統計調査（従業員4人以上の事業所）(H17は速報値)

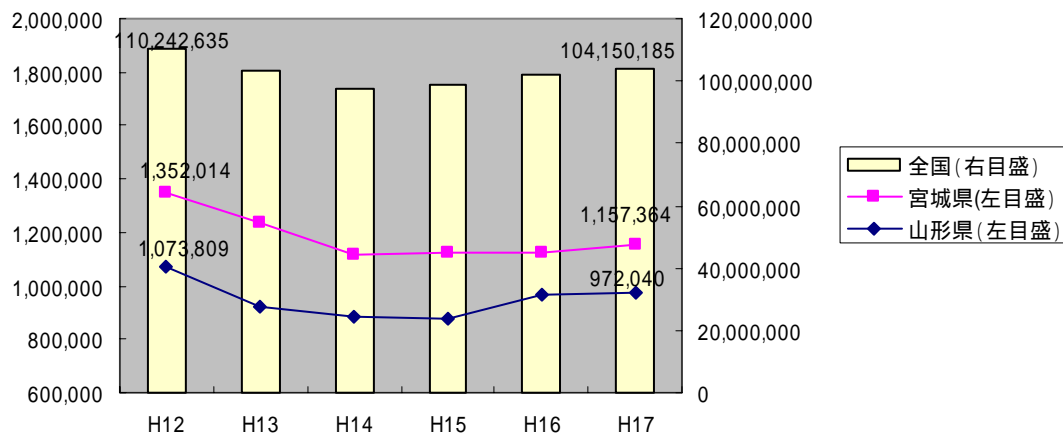
製造品出荷額(単位:百万円)



単位:百万円

	H12	H13	H14	H15	H16	H17
宮城県	3,865,118	3,658,847	3,436,282	3,430,038	3,513,591	3,570,238
(全国比)	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.2%	1.2%
山形県	2,964,891	2,670,806	2,717,818	2,787,789	2,940,137	2,869,203
(全国比)	1.0%	0.9%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%
全国計	300,477,604	286,667,406	269,361,805	273,734,436	284,472,147	295,606,417

付加価値額(単位:百万円)



単位:百万円

	H12	H13	H14	H15	H16	H17
宮城県	1,352,014	1,234,414	1,115,986	1,120,759	1,123,967	1,157,364
(全国比)	1.2%	1.2%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%
山形県	1,073,809	923,181	885,320	879,755	968,826	972,040
(全国比)	1.0%	0.9%	0.9%	0.9%	1.0%	0.9%
全国計	110,242,635	103,305,132	97,458,726	98,657,777	101,817,087	104,150,185

資料:工業統計調査(従業員4人以上の事業所)(H17は速報値)

宮城・山形両県のそれぞれの県内における製造品出荷額を業種別にみると、宮城県については、食料品、電子部品・デバイス、電気機械器具などが上位となっており、山形県については、情報通信機械器具、電子部品・デバイス、一般機械器具などが上位となっています。

また、付加価値額については、宮城県では食料品、電子部品・デバイス、パルプ・紙・紙加工品などが上位となっており、山形県では電子部品、一般機械器具、食料品などが上位となっています。

なお、宮城・山形両県ともに、全国と比較すると全般的に労働生産性が低くなっています。

#### 製造品出荷額上位10業種(H16年)

##### 宮城県

	業種	従業者数 (人)	出荷額 (百万円)	従業者一人あたり		付加価値額 (百万円)	従業者一人あたり	
				宮城県	全国		宮城県	全国
第1位	食料品	31,279	603,479	19.3	20.6	203,263	6.5	7.8
第2位	電子部品・デバイス	16,001	402,092	25.1	37.5	163,355	10.2	14.5
第3位	電気機械器具	8,318	337,608	40.6	33.1	67,680	8.1	11.3
第4位	石油製品・石炭製品	492	329,558	669.8	434.2	21,424	43.5	29.4
第5位	一般機械器具	8,926	222,738	25.0	30.4	90,191	10.1	11.8
第6位	パルプ・紙・紙加工品	3,484	199,404	57.2	33.7	91,876	26.4	12.7
第7位	飲料・たばこ・飼料	1,904	171,318	90.0	101.0	42,096	22.1	29.7
第8位	金属製品	8,262	161,848	19.6	20.8	67,000	8.1	9.2
第9位	鉄鋼	2,098	147,455	70.3	68.1	35,822	17.1	23.5
第10位	輸送用機械器具	6,522	139,424	21.4	56.3	40,027	6.1	15.8

##### 山形県

	業種	従業者数 (人)	出荷額 (百万円)	労働生産性		付加価値額 (百万円)	労働生産性	
				山形県	全国		山形県	全国
第1位	情報通信機械器具	8,208	675,706	82.3	58.0	79,198	9.6	14.7
第2位	電子部品・デバイス	14,973	466,311	31.1	37.5	174,002	11.6	14.5
第3位	一般機械器具	13,963	282,199	20.2	30.4	115,149	8.2	11.8
第4位	食料品	15,460	270,544	17.5	20.6	95,327	6.2	7.8
第5位	電気機械器具	8,216	203,751	24.8	33.1	65,442	8.0	11.3
第6位	化学工業	2,941	152,073	51.7	70.8	85,189	29.0	33.5
第7位	輸送用機械器具	5,392	114,563	21.2	56.3	46,166	8.6	15.8
第8位	窯業・土石製品	4,243	113,457	26.7	25.0	45,433	10.7	12.7
第9位	その他の製造品	2,177	99,345	45.6	23.2	22,827	10.5	10.0
第10位	金属製品	5,481	91,209	16.6	20.8	42,300	7.7	9.2

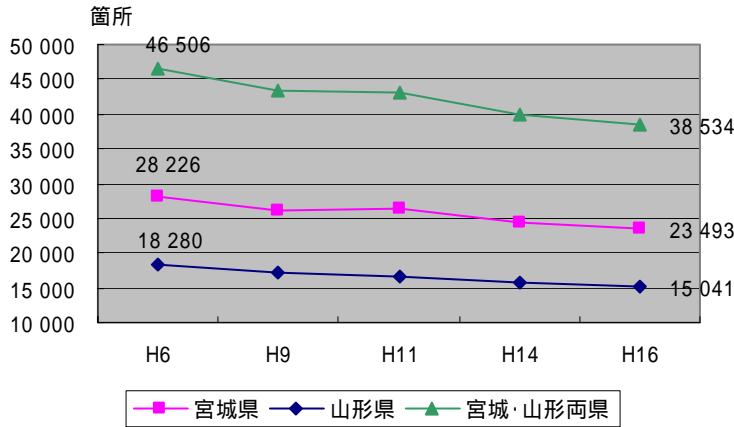
資料：H16 工業統計調査（従業員数4人以上の事業所）

(5) 第3次産業

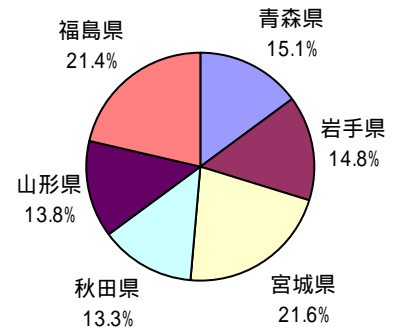
小売業

宮城・山形両県の小売業の状況を見ると、この10年間で事業所数・年間商品販売額は減少傾向となっており、従業者数は横ばいとなっています。また、東北全体との比較では、事業所数・従業者数・年間商品販売額ともに宮城県が最も高い割合を占めています。

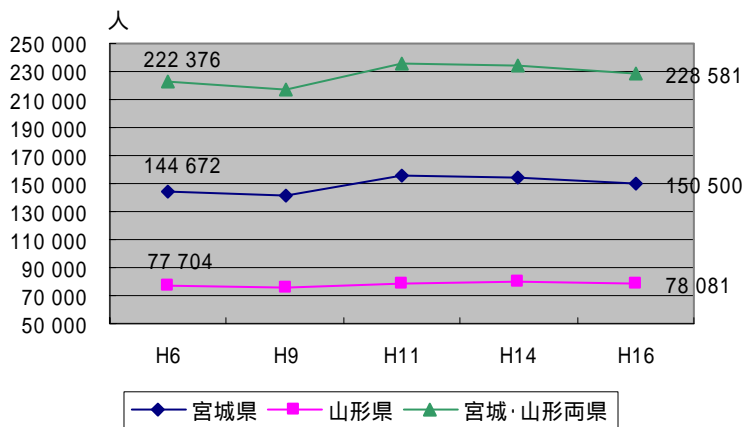
事業所数の推移(小売業)



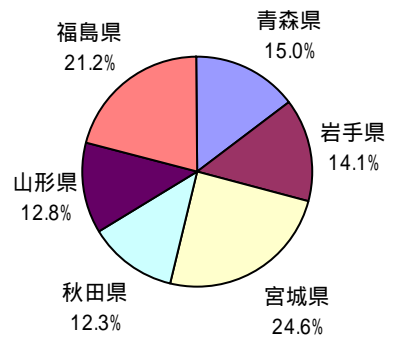
小売業における事業所数の構成比(東北)



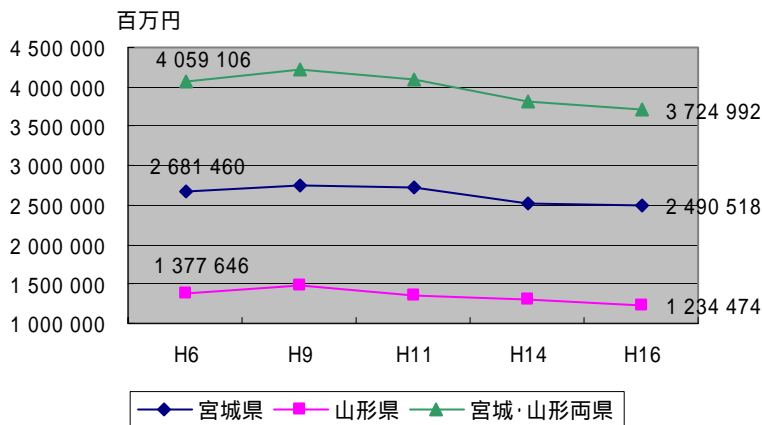
従業者数の推移(小売業)



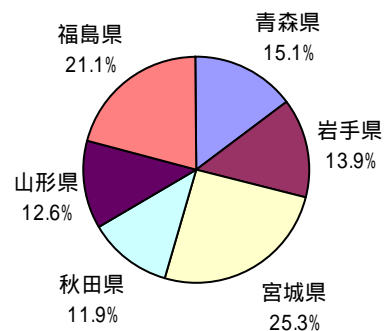
小売業における従業者数の構成比(東北)



年間商品販売額の推移(小売業)



小売業における年間商品販売額の構成比(東北)

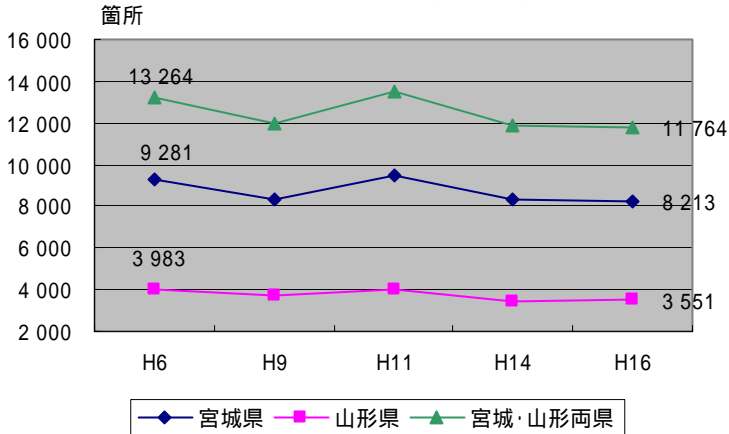


資料：H16 商業統計

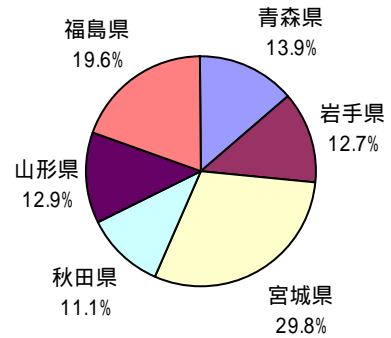
## 卸売業

宮城・山形両県の卸売業の状況を見ると、この10年間で事業所数・年間商品販売額・従業者数ともに減少傾向となっています。また、東北全体との比較では、事業所数・従業者数・年間商品販売額ともに宮城県が特に高い割合を占めています。

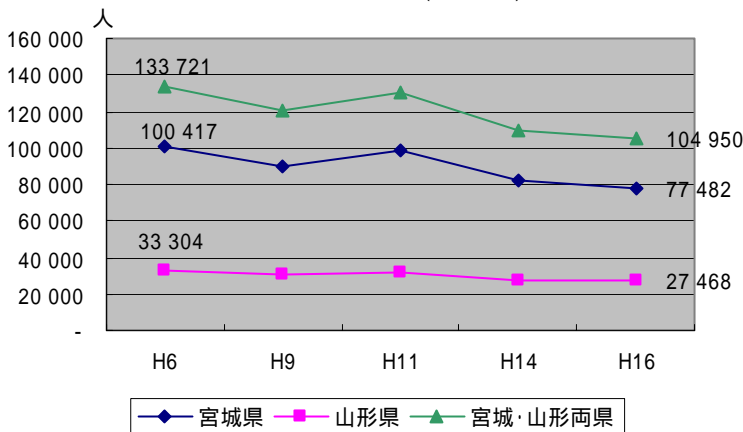
### 事業所数の推移(卸売業)



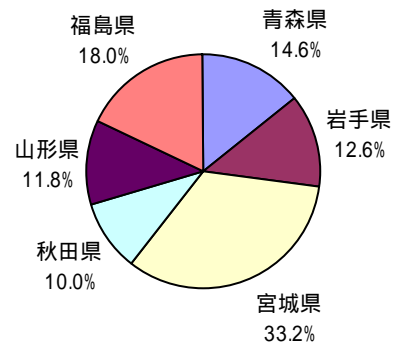
### 卸売業における事業所数の構成比(東北)



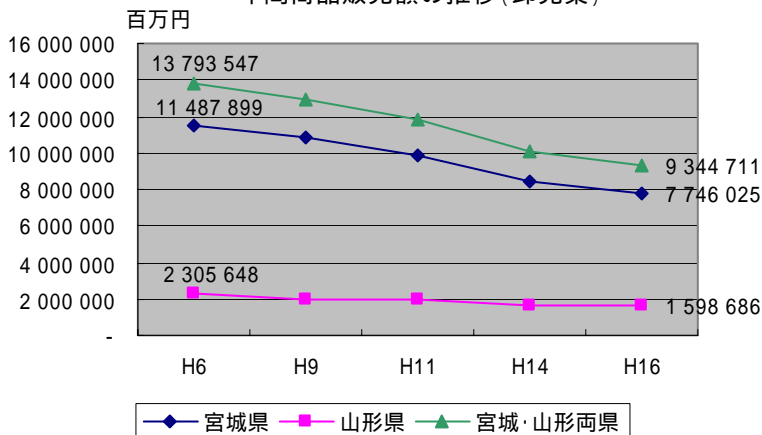
### 従業者数の推移(卸売業)



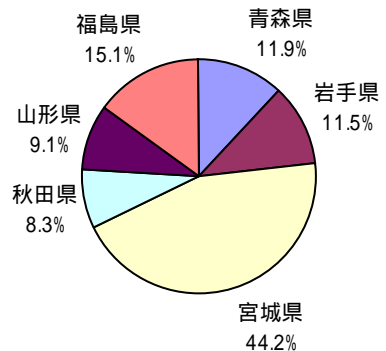
### 卸売業における従業者数の構成比(東北)



### 年間商品販売額の推移(卸売業)



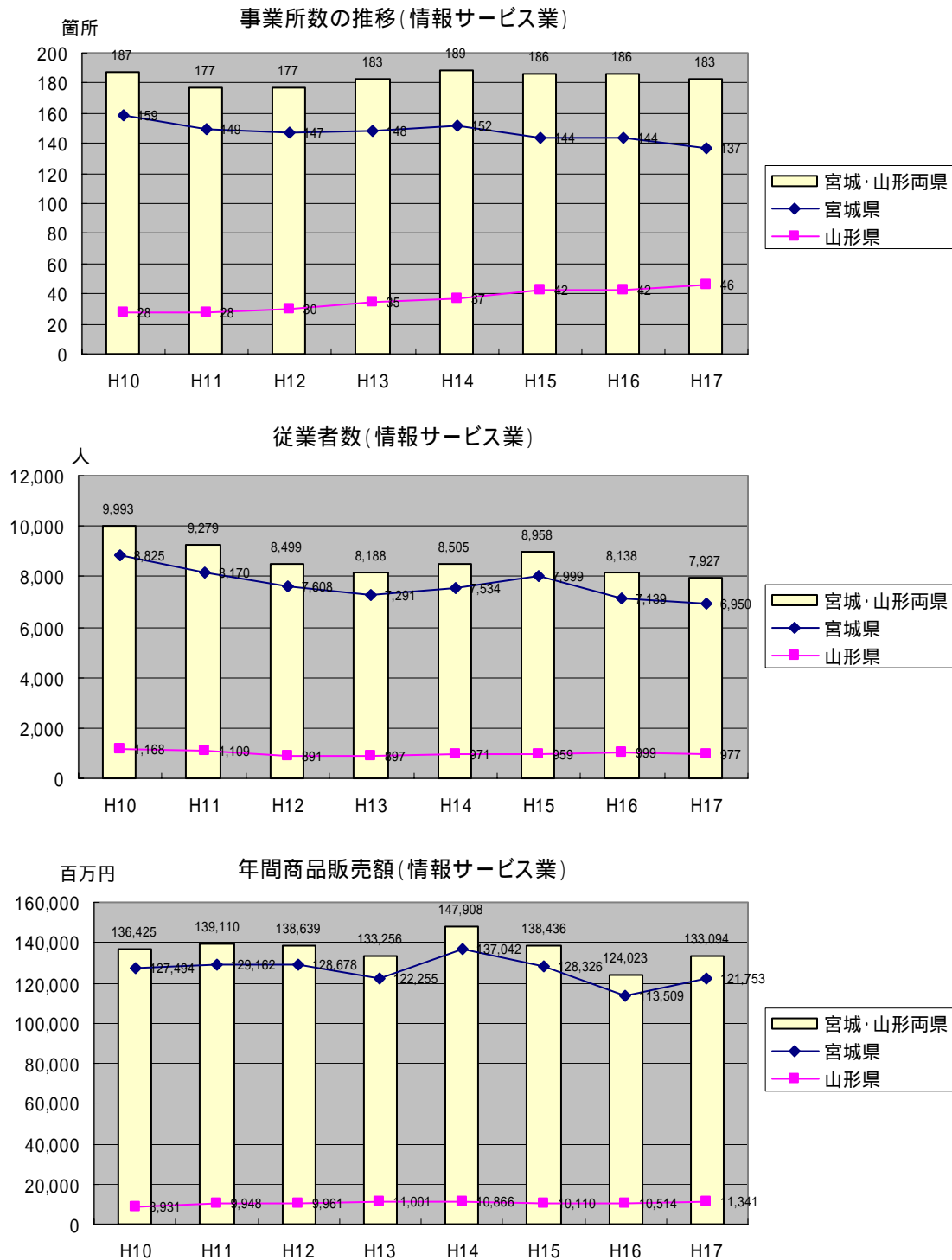
### 卸売業における年間商品販売額の構成比(東北)



資料：H16 商業統計

## 情報サービス業

宮城・山形両県の情報サービス業（ ）の状況をみると、事業所数については、宮城県では減少傾向にあり、山形県では増加傾向にあります。従業者数については、宮城県では減少傾向にあり、山形県では横ばいとなっています。また、年間商品販売額については、両県ともに伸び悩んでいます。



コンピュータ(電子計算機)のプログラムの作成及びその作成に関する調査・分析・助言等のサービス、コンピュータを用いて委託された計算を行うサービス、コンピュータ処理用にデータを電子媒体等にかき込むサービス、各種のデータを収集・加工・蓄積し、情報として提供するサービス、ユーザーの情報処理システム、コンピュータ室などの管理運営サービス、市場調査やシンクタンク業務などの情報サービス業務を営む事業所

資料：経済産業省「特定サービス産業実態調査報告書(情報サービス業編)」

(6) 学術・研究

宮城・山形両県地域内には、大学、試験研究機関、産業支援機関、インキュベーション施設などが多数存在し、特に仙台市への集積が顕著となっています。また、知的財産権の出願・登録状況については、宮城県が東北で最も多い件数となっていますが、全国に占める割合はまだ低い状況となっています。

**試験研究機関**

宮城県		山形県	
東北大学金属材料研究所	仙台市	独立行政法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター新庄支所	新庄市
東北大学加齢医学研究所	仙台市	独立行政法人 材木育種センター 東北育種場 奥羽増殖保存園	東根市
東北大学流体科学研究所	仙台市	慶應義塾大学先端生命科学研究所	鶴岡市
東北大学電気通信研究所	仙台市	山形県環境科学センター	村山市
東北大学多元物質科学研究所	仙台市	山形県衛生研究所	山形市
財団法人 半導体研究振興会	仙台市	山形県農業総合研究センター	山形市
財団法人 電気磁気材料研究所	仙台市	" 農業生産技術試験場	寒河江市
独立行政法人 理化学研究所テラヘルツ光研究プログラム	仙台市	" " 庄内支場	鶴岡市
独立行政法人 産業技術総合研究所東北センター	仙台市	" 畜産試験場	新庄市
独立行政法人 水産総合研究センター 東北水産研究所	塩竈市	" " 養豚支場	酒田市
宮城県農業・園芸総合研究所(本所)	名取市	山形県村山総合支庁農業技術普及課産地研究室	山形市
" バイオテクノロジー開発部原種苗担当	岩沼市	山形県最上総合支庁農業技術普及課産地研究室	新庄市
宮城県古川農業試験場	大崎市	山形県置賜総合支庁農業技術普及課産地研究室	南陽市
宮城県畜産試験場	大崎市	山形県庄内総合支庁農業技術普及課産地研究室	鶴岡市
宮城県林業試験場	大衡村	山形県森林研究研修センター	寒河江市
宮城県水産研究開発センター	石巻市	山形県水産試験場	鶴岡市
宮城県気仙沼水産試験場	気仙沼市	山形県内水面水産試験場	米沢市
宮城県内水面水産試験場	大和町	山形県工業技術センター	山形市
宮城県水産加工研究所	石巻市	" 庄内試験場	三川町
宮城県栽培漁業センター	石巻市	" 置賜試験場	米沢市
宮城県産業技術総合センター	仙台市		

**主な産業支援機関**

宮城県	
(財)みやぎ産業振興機構	仙台市
(財)仙台市産業振興事業団	仙台市
株式会社東北テクノアーチ	仙台市
研究成果活用プラザ宮城(イノベーションプラザ宮城)	仙台市
株式会社インテリジェント・コスモス研究機構(ICR)	仙台市
株式会社テクノプラザみやぎ	仙台市
東北イノベーション キャピタル株式会社	仙台市
山形県	
(財)山形県企業振興公社	山形市
山形県産業創造支援センター	山形市
山形県高度技術研究開発センター	山形市
(財)山形県産業技術振興機構	山形市
(財)山形大学産業研究所	米沢市

**インキュベーション施設**

宮城県	
あおばインキュベーションスクエア	仙台市
青葉山研究会館	仙台市
ガレージファクトリー名取	名取市
仙台市情報・産業プラザ 起業育成室	仙台市
仙台市新規創業支援室 Nestせんだい	仙台市
21世紀プラザ研究センター	仙台市
東北大学ハッチェリースクエア	仙台市
東北大学連携ビジネスインキュベータ(T-Biz)	仙台市
ICRビル研究棟	仙台市
山形県	
特定非営利活動法人山形アイビジネスネットワーク:YAN(デジタルときわ荘)	山形市
特定非営利活動法人創業支援シーズネット	山形市
山形大学インキュベート施設	米沢市
米沢商工会議所地域産業支援センター	米沢市
財団法人庄内地域産業振興センター(鶴岡市起業家育成施設)	鶴岡市

平成19年夏完成予定

宮城・山形両県の4年制大学

	所在地	人文科学	社会科学	教育学	医学	薬学	保健・医療・福祉・看護	理学・工学	農学	その他
宮城県	東北大学	仙台市								
	宮城教育大学	仙台市								
	宮城大学	大和町								食産業、事業構想
	東北学院大学	仙台市								
	東北福祉大学	仙台市								
	石巻専修大学	石巻市								
	尚絅学院大学	名取市								
	仙台大学	柴田町								体育
	仙台白百合女子大学	仙台市								
	東北工業大学	仙台市								
	東北生活文化大学	仙台市								
	東北文化学園大学	仙台市								
山形県	宮城学院女子大学	仙台市								
	東北薬科大学	仙台市								
	山形大学	山形市								
	山形県立保健医療大学	山形市								
	東北芸術工科大学	山形市								芸術
東北公益文科大学	酒田市									

知的財産権の出願・登録状況（日本人によるもの）

（単位：件）

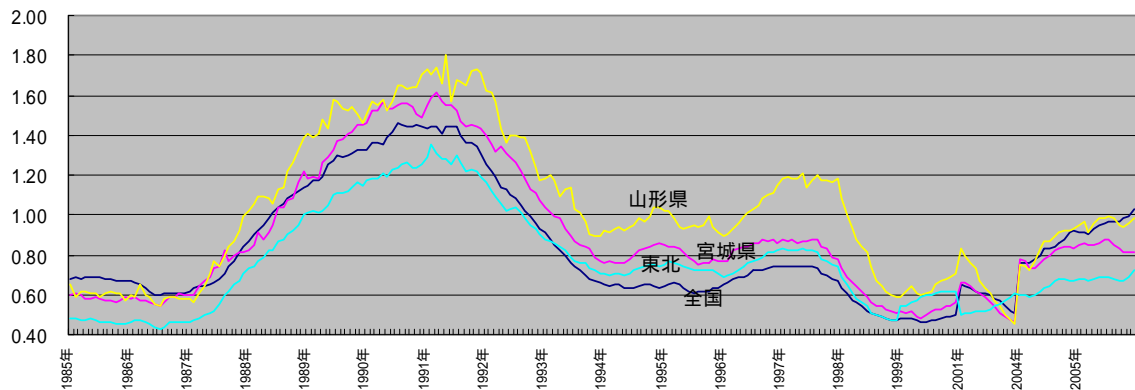
		出願件数			登録件数		
		H15	H16	H17	H15	H16	H17
特許	全 国	362,711	368,416	359,382	110,835	112,527	111,088
	青森県	234	266	209	47	40	49
	岩手県	280	274	299	92	82	88
	宮城県	1,412	1,381	1,542	409	368	339
	(全国比%)	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
	秋田県	196	196	222	35	37	55
	山形県	534	467	440	138	109	115
	(全国比%)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
実用新案	福島県	344	328	311	109	108	100
	全 国	6,381	6,337	9,420	5,932	5,718	8,467
	青森県	16	20	36	19	14	34
	岩手県	31	24	33	18	27	35
	宮城県	83	61	143	71	67	134
	(全国比%)	1.3	1.0	1.5	1.2	1.2	1.6
	秋田県	24	32	44	33	27	51
	山形県	42	42	40	36	46	33
(全国比%)	0.7	0.7	0.4	0.6	0.8	0.4	
意匠	福島県	41	55	77	39	61	70
	全 国	36,574	37,565	35,746	29,284	30,485	29,971
	青森県	42	28	47	31	23	21
	岩手県	23	44	22	18	20	29
	宮城県	377	277	154	342	284	195
	(全国比%)	1.0	0.7	0.4	1.2	0.9	0.7
	秋田県	18	21	88	21	13	10
	山形県	112	71	92	84	78	66
(全国比%)	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	
商標	福島県	40	50	53	31	34	33
	全 国	106,957	110,270	114,015	92,891	82,995	80,955
	青森県	231	307	318	179	175	200
	岩手県	212	264	356	161	189	223
	宮城県	685	571	655	407	459	379
	(全国比%)	0.6	0.5	0.6	0.4	0.6	0.5
	秋田県	190	218	181	125	140	124
	山形県	242	357	316	244	178	213
(全国比%)	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	
福島県	432	381	431	278	310	280	

資料：出願等統計

(7) 雇用状況

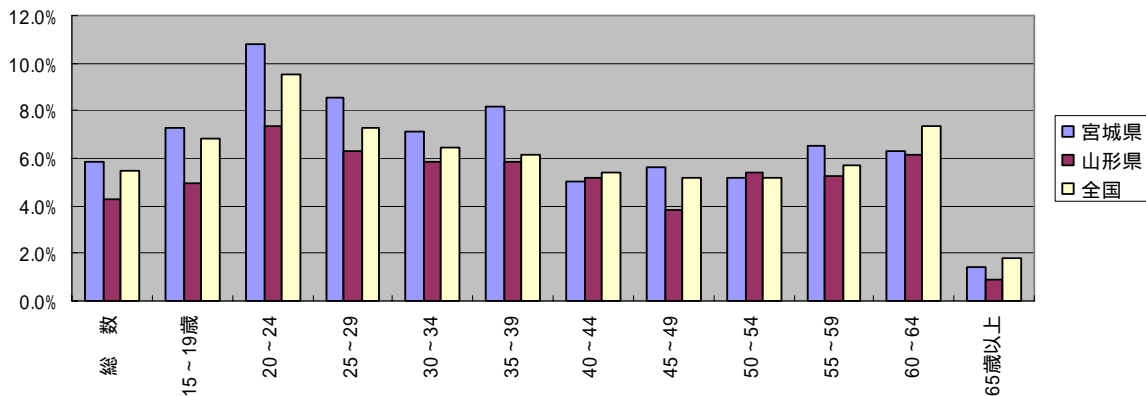
雇用状況をみてみると、1991年(平成3年)をピークとして下降傾向にあった有効求人倍率は、2004年(平成16年)以降持ち直してきており、山形県については全国にほぼ追いついていますが、宮城県では回復が遅れています。また、完全失業率については、山形県では全国よりも低くなっていますが、宮城県では全国よりも高くなっています。年齢別にみると、両県ともに特に20代の完全失業率が他の年代より高く、また、フリーターや若年無業者数も増加しているなど、全国と同様の傾向が見られ、若年者の雇用状況の改善が課題となっています。

有効求人倍率の推移(季節調整値,パート含む)



年齢別完全失業率(H14)

資料：厚生労働省ホームページ



フリーター数・割合の推移(男女計)

		平成4年	9年	14年
宮城県	フリーター数(人)	17,500	30,800	56,000
	フリーターの割合(%)	2.7	4.6	8.5
山形県	フリーター数(人)			22,000
	フリーターの割合(%)			8.0
全国	フリーター数(万人)	101	151	208
	フリーターの割合(%)	2.9	4.3	6.1

割合(%) = 該当数 ÷ 15~34歳の人口 × 100として算出

フリーター

= 15~34歳(卒業者で女性は無婚者)

現在就業している者 勤め先の呼称が「アルバイト」「パート」である者

現在無業者 家事も通学もしておらず、「アルバイト」「パート」の仕事希望する者

宮城県 若年無業者数割合の推移(男女計)

		平成4年	9年	14年
若年無業者数(人)		6,600	11,100	12,700
若年無業者の割合(%)		1.0	1.7	1.9

若年無業者

宮城県：15~34歳、非労働力人口(求職していない無業者)のうち家事も通学もしていない者

山形県：15~34歳、無業者のうち家事も通学もしていない者

山形県 若年無業者数・割合の推移(男女計)

		平成4年	9年	14年
若年無業者数(人)		5,000	8,000	12,700
若年無業者の割合(%)		1.8	2.8	4.6

割合(%) = 該当数 ÷ 15~34歳の人口 × 100として算出

資料：就業構造基本調査

## (8) 観光

宮城・山形両県地域には、鳴子、秋保、作並、天童、上山をはじめとする温泉が多数湧出しているほか、日本三景として知名度の高い松島や世界文化遺産への登録を目指す出羽三山、最上川をはじめ、優れた観光資源が多数存在しており、両県の観光客数については、ともに増加傾向となっています。

また、宮城県の主要観光地への入込数の推移をみると、仙台市、蔵王などは順調に増加していますが、松島についてはやや伸び悩んでいます。

山形県の観光地類型別の観光者数の推移をみると、温泉、スキー場、観光道路などへの観光者数が減少する一方、資料館、記念館、観光果樹園といった「その他」の観光地への観光者数が近年著しく増加しています。

なお、外国人観光客数を国別でみると、台湾や韓国からの観光客が特に多くなっています。

主な観光地と名所・旧跡

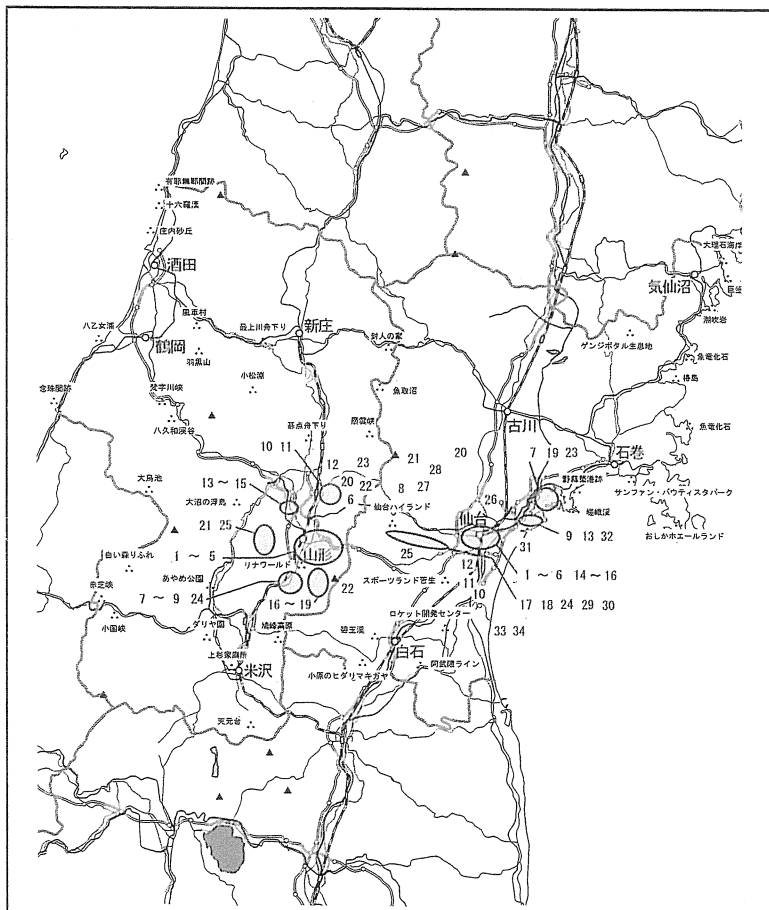
### 山形県

#### 主な観光地

⑬蔵王スキー場、⑭野草園、⑮蔵王国定公園、⑯蔵王坊平高原、⑰天童高原県立自然公園、⑱県民の森、⑲面白山コスモスベルグ、⑳黒伏高原スノーパークジャングルジャングル、㉑上山競馬場、㉒玉虫湖畔自然休養村

#### 主な名所・旧跡

①霞城公園、②専称寺、③万松寺、④光禅寺、⑤唐松観音、⑥山寺立石寺、⑦上山城、⑧春雨庵、⑨楯下宿、⑩若松寺、⑪舞鶴山、⑫東根の大ケヤキ、⑬お達磨の桜、⑭柏倉家住宅、⑮楯の大銀杏



### 宮城県

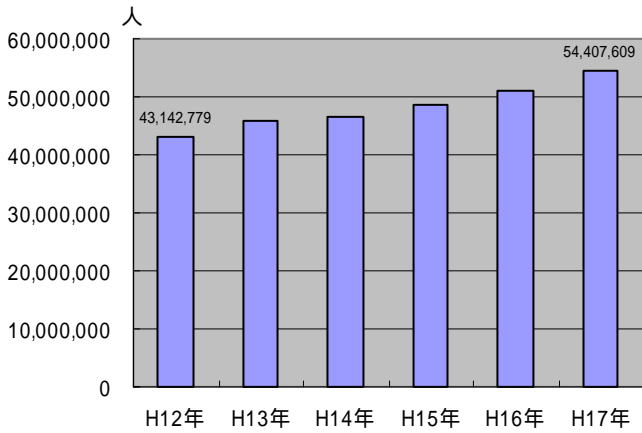
#### 主な観光地

⑬八木山動物公園、⑭野草園、⑮東北大学附属植物園、⑯秋保大滝植物園、⑰秋保工芸の里、⑱松島水族館、⑲昭和万葉の森、⑳県立自然公園船形連峰、㉑蔵王国定公園、㉒県立自然公園松島、㉓県立自然公園二口峡谷、㉔国営みちのく杜の湖畔公園、㉕県民の森、㉖泉ヶ岳スキー場、㉗泉高原スプリングパレースキー場、㉘秋保大滝、㉙轟々峡、㉚深沼海水浴場、㉛菖蒲田浜海水浴場、㉜荒浜海水浴場、㉝鳥の海

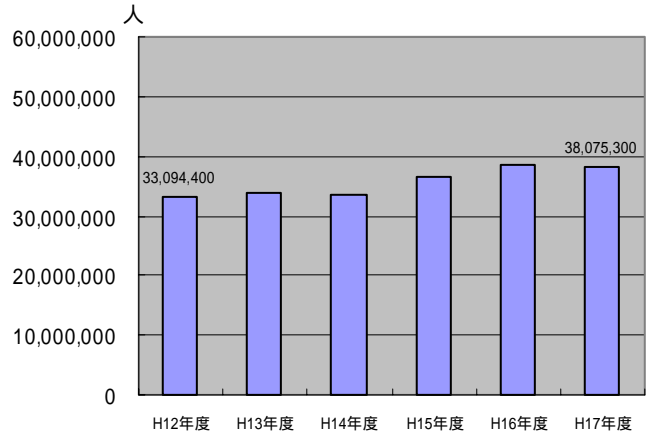
#### 主な名所・旧跡

①青葉城址、②瑞鳳殿、③大崎八幡宮、④輪王寺、⑤東照宮、⑥陸奥国分寺、⑦松島(瑞巖寺、五大堂など)、⑧定義如来、⑨鹽竈神社、⑩竹駒神社、⑪金蛇水神社、⑫熊野那智神社、⑬多賀城跡

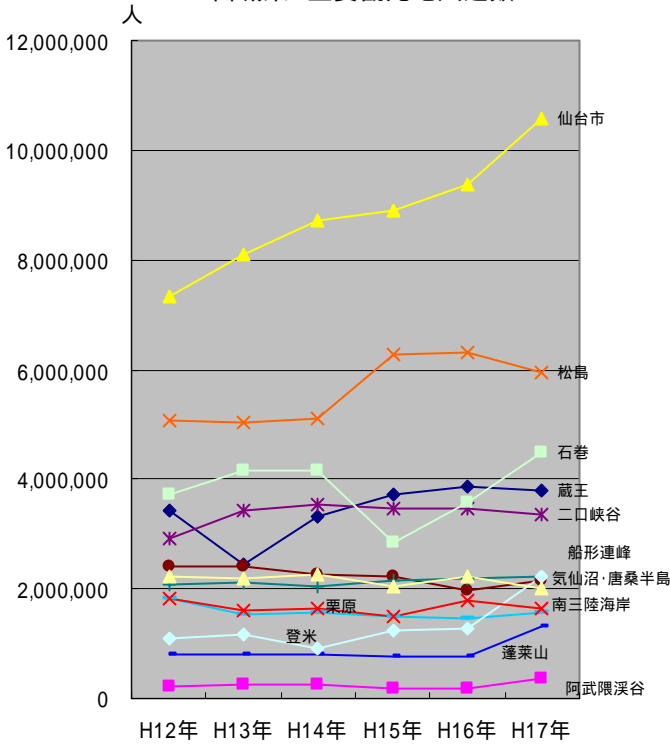
宮城県 観光客入込数



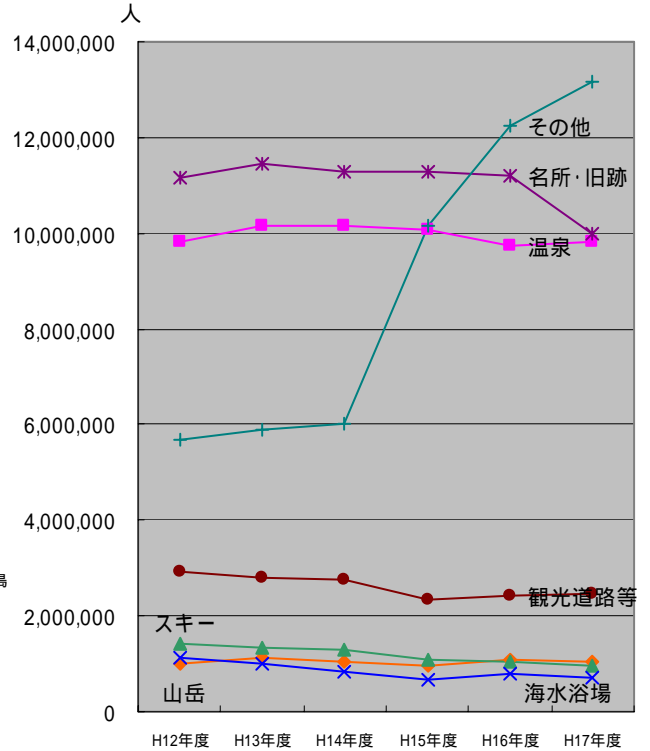
山形県 観光者数



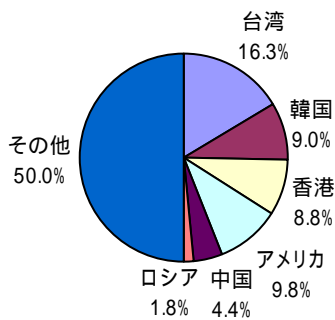
宮城県 主要観光地入込数



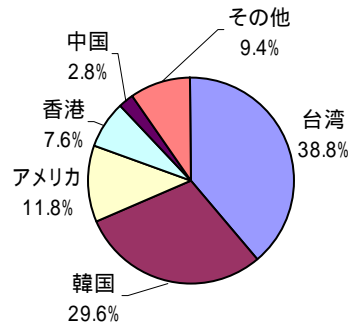
山形県 観光地類型別 観光者数



外国人宿泊者の国別構成 (宮城県: H17)



外国人宿泊者の国別構成 (山形県: H17)



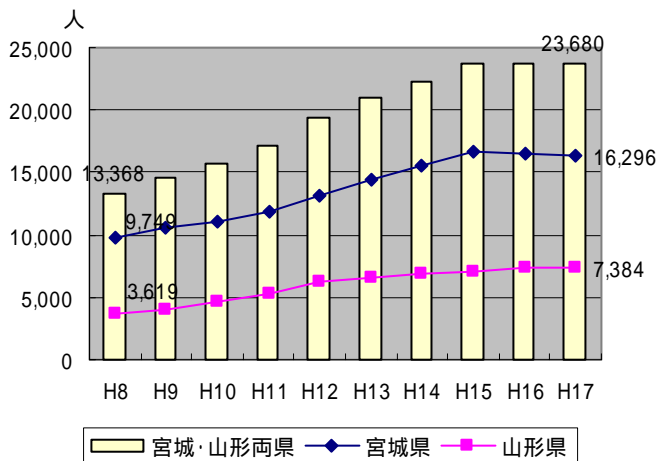
資料: 宮城県観光統計概要, 山形県観光者数調査結果

## 6. 国際化

宮城・山形両県における国際化の状況を見てみると、外国人登録者数、外国人留学生数については、この10年間で両県合わせて2倍近くに増加しています。

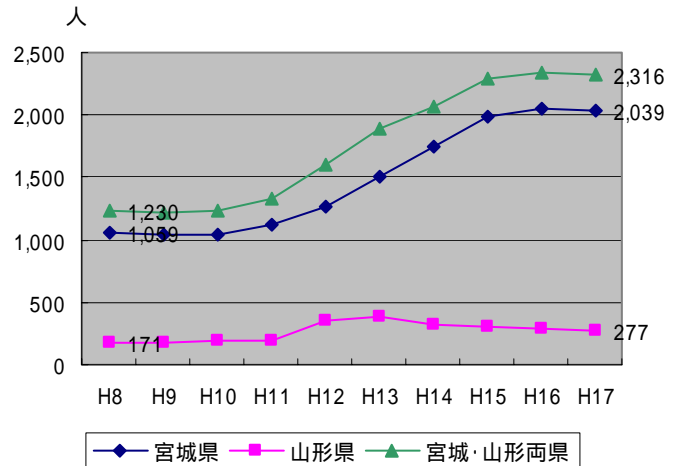
また、貿易については、両県で輸出・輸入ともに増加しており、特に輸入の伸びが著しくなっています。

外国人登録者数の推移



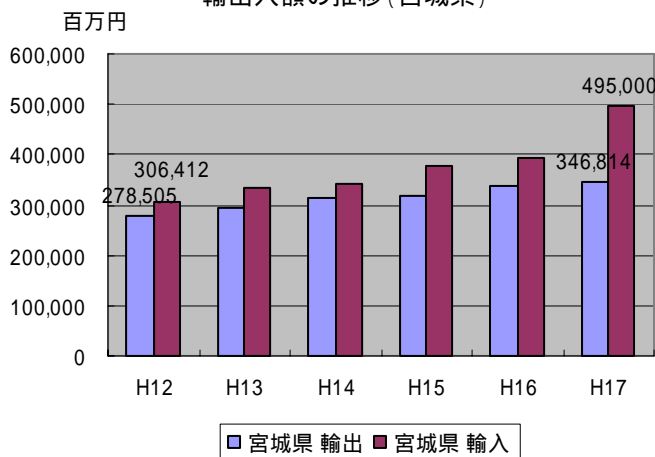
資料：法務省「出入国管理統計年報」

外国人留学生数の推移



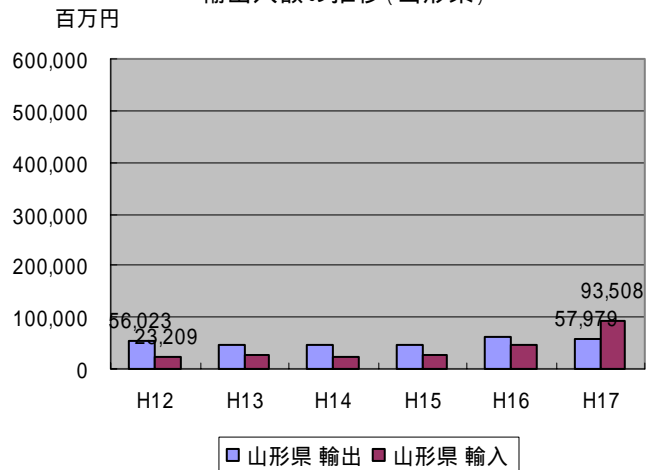
資料：法務省「出入国管理統計年報」

輸出入額の推移 (宮城県)



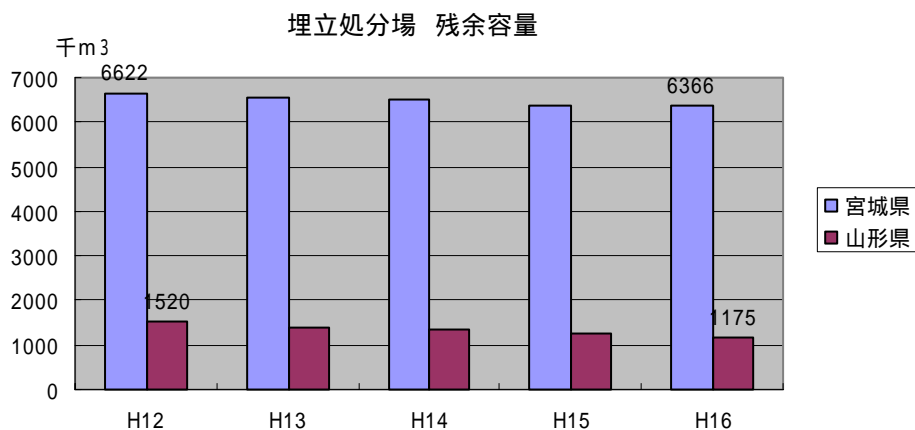
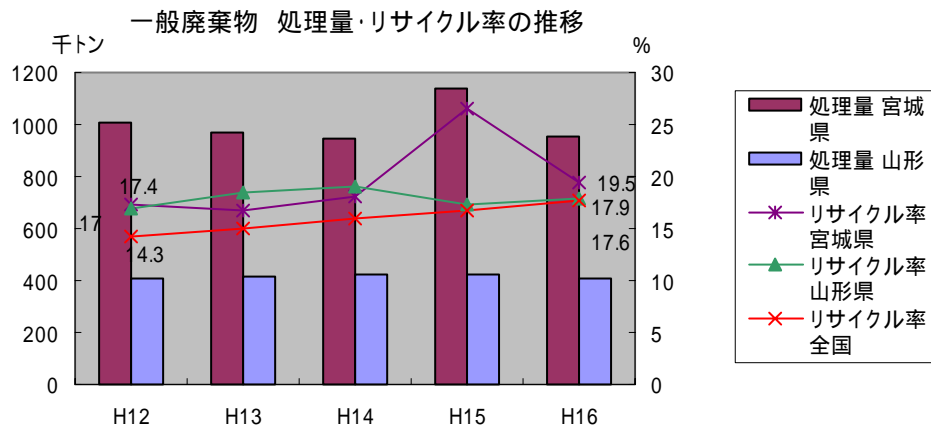
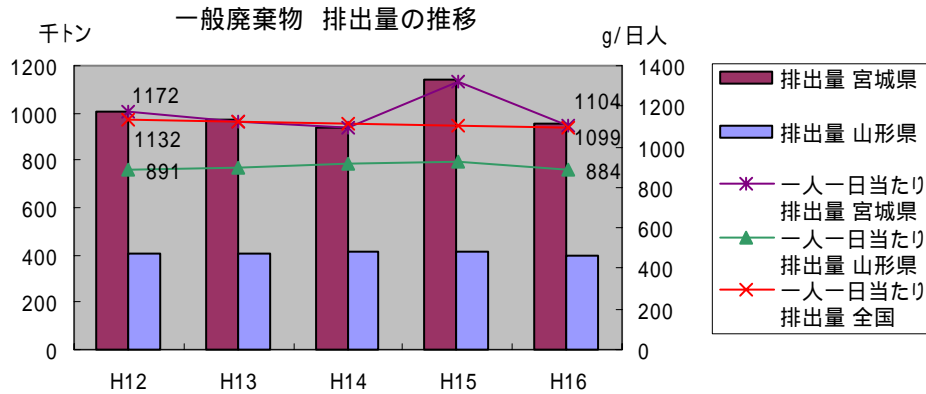
資料：横浜税関「平成17年東北地域の貿易概況」

輸出入額の推移 (山形県)

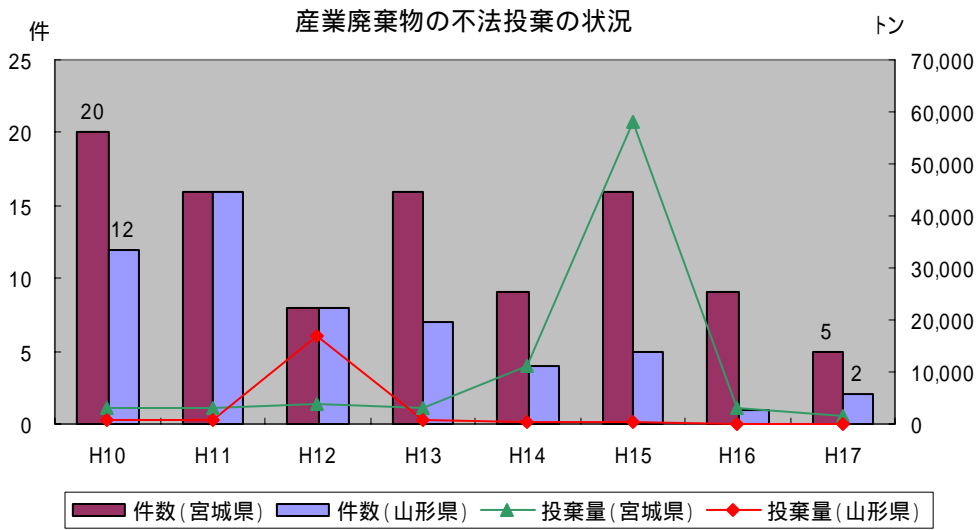


## 7. 生活環境

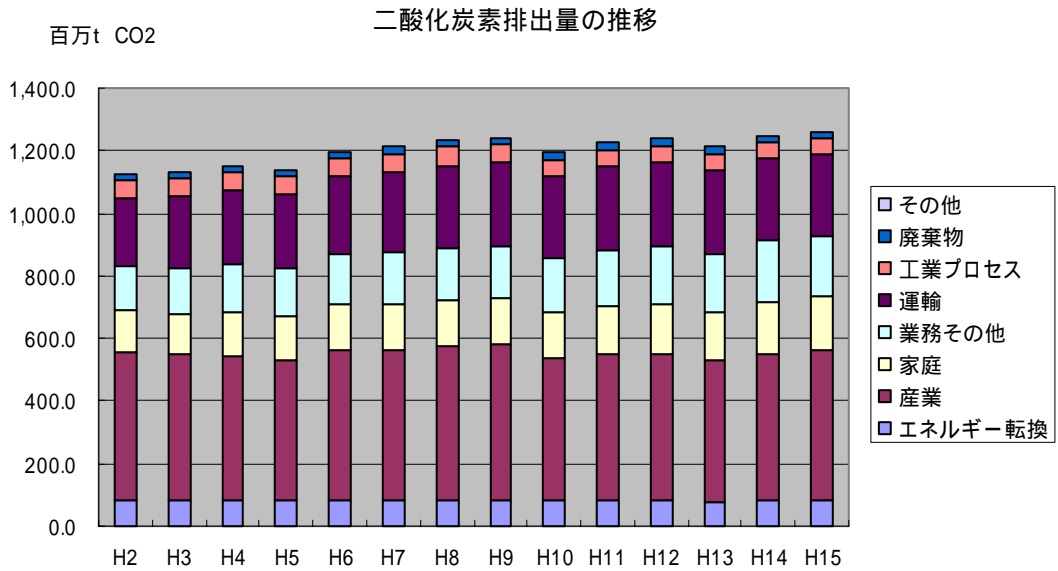
宮城・山形両県の一般廃棄物の排出量は減少傾向にありますが、埋立処分場の残余容量は減少しており、排出量の抑制と資源の再利用に向けた一層の取組が必要となっています。産業廃棄物の不法投棄については、件数・量ともに減少傾向にあり、引き続き不法投棄の防止に向けた取組を進めていく必要があります。



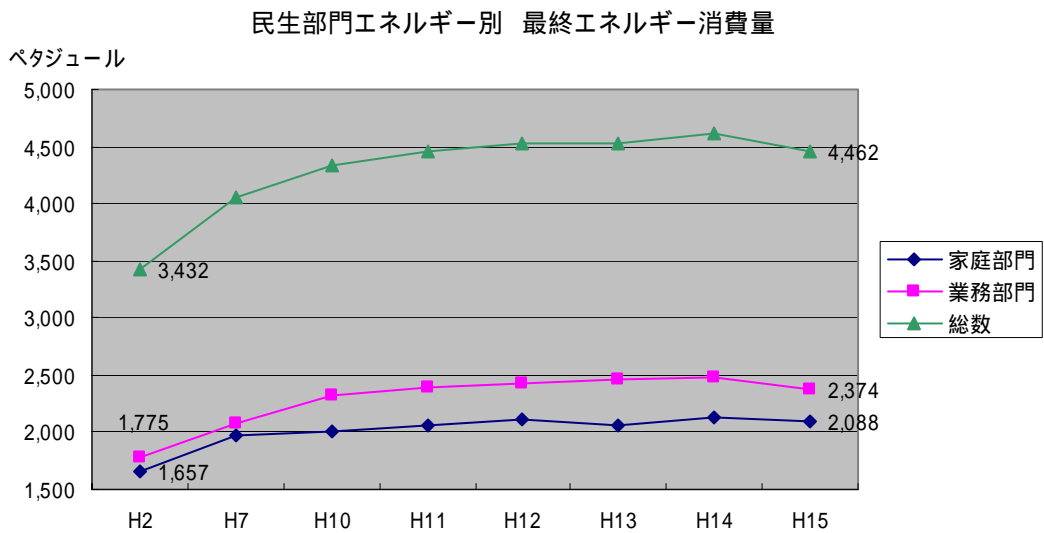
資料：一般廃棄物処理実態調査結果



資料：環境省「環境統計集」



出典：環境省地球環境局地球温暖化対策課資料



出典：第55回 日本統計年鑑

## 8 . 財政状況

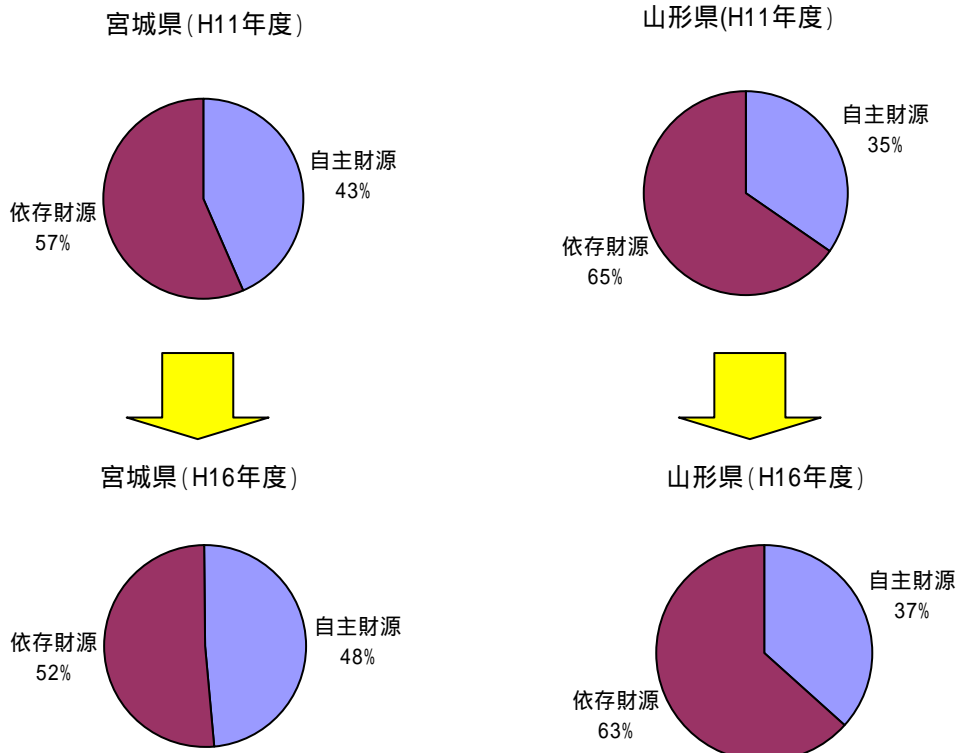
宮城・山形両県の財政に関する主要な数値・指標は下表のとおりであり、歳入が減少する中で、県債の発行や基金の取り崩しなどで収支の均衡を図るなど厳しい財政状況に置かれていることがわかります。

また、両県ともに自主財源比率は増加しているものの、財政力指数は低下し、一般財源に占める経常経費の割合を示す経常収支比率が上昇しており、財政構造が硬直化の傾向にあることを示しています。

	宮城県		山形県	
	H11年度	H16年度	H11年度	H16年度
歳入総額	9,130	8,062	7,352	6,137
うち地方税	2,618	2,491	1,192	1,109
(%)	28.7	30.9	16.2	18.1
基金残高	499	359	657	449
県債残高	12,846	13,551	9,488	10,982

	宮城県		山形県		全都道府県	
	H11年度	H16年度	H11年度	H16年度	H11年度	H16年度
財政力指数	0.52207	0.47026	0.31094	0.282	0.46116	0.41125
経常収支比率(%)	89.2	93.8	85.9	96.2	87.7	92.4
公債費比率(%)	16.9	18.2	20.1	20.4	17.3	18.4
公債費負担比率(%)	17.8	21.3	21.9	26.1	18.5	22.3
起債制限比率(%)	11.9	13.3	14.1	12.8	11.7	12.6

### 財源構成の変化

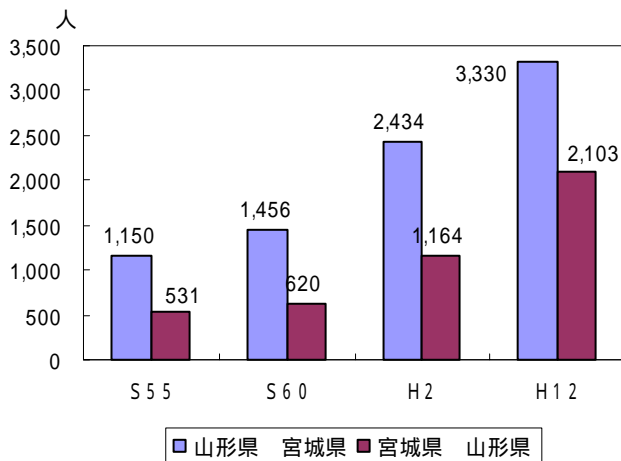


## 9. 交流・連携

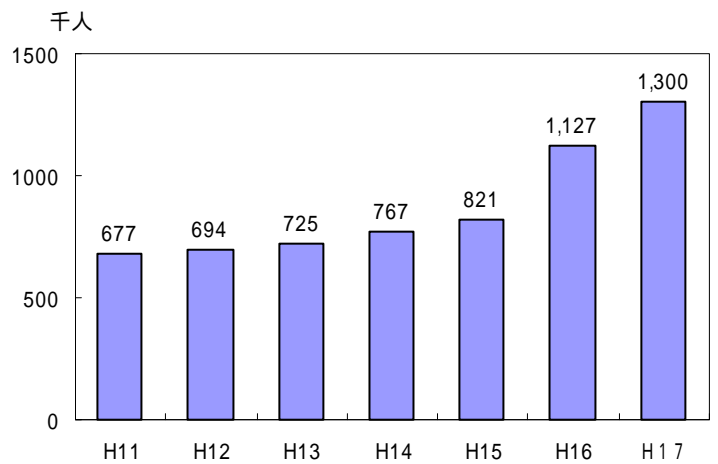
### (1) 人・物の動き

昭和55年からの20年間で、宮城県から山形県への通勤・通学者数は約4倍に、山形県から宮城県への通勤・通学者数は約3倍に増加しており、通勤・通学の足となっている仙台・山形間的高速バスの利用者は平成11年から平成17年の間に約2倍に増加しているほか、山形県民の約6割が県外での買い物先として仙台市を選択しているなど、特に仙台・山形両都市圏を中心として一体的な生活圏が形成されつつあります。また、東北横断自動車道酒田線の整備に伴い、両県間での貨物流動量も増加しています。

宮城・山形両県間の通勤・通学者の推移

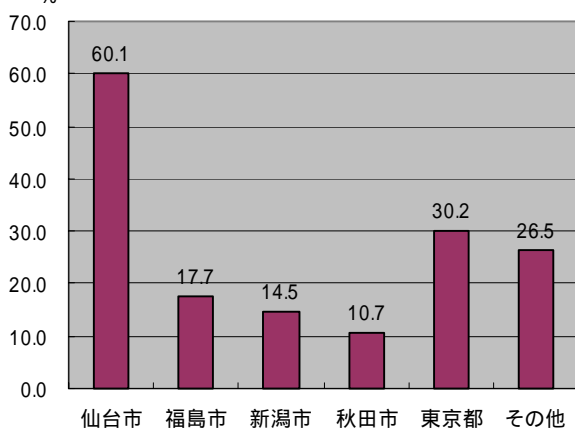


仙台～山形間 高速バス輸送実績

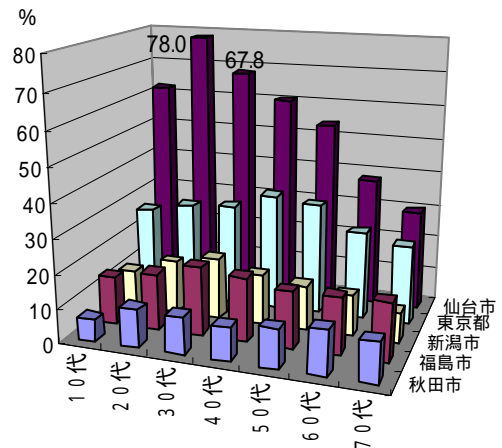


資料：東北運輸局 「管内高速バス輸送実績」

山形県民の県外での買い物先(H16年)

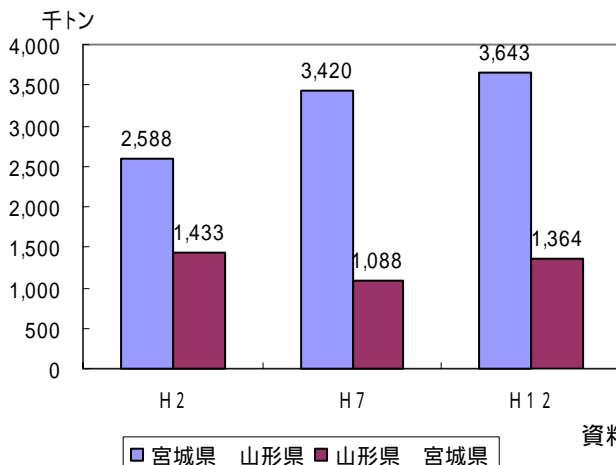


山形県民の県外での買い物先(年代別)



資料：山形県の買物動向

宮城・山形両県間の貨物流動量



資料：国土交通省「平成12年度全国貨物純流動量調査報告書」

(2) これまでの交流・連携の動き

宮城・山形両県間の交流・連携の主な動きは以下のとおりです。住民や県境を接する地域間、産業界、行政などさまざまな主体により多様な交流・連携に取り組まれてきています。

昭和53年	5月	名取市と上山市が姉妹都市を提携	
昭和57年	7月	松山町(現大崎市)と松山町(現酒田市)が友好町を提携	
昭和62年	10月	蔵王連峰のふもとにある6市町村により「蔵王サミット」の初回が開催	
		米沢市桐町(あらまち)通り商店街と仙台市の荒町商店街振興組合が姉妹商店街となる	
平成	元年	7月	中新田町(現加美町)と山形市が歴史的友好都市を提携
平成	2年	6月	「宮城・山形観光推進協議会」が設立
平成	3年	1月	南東北の3県(宮城県,山形県,福島県)と県庁所在市,4つの経済団体が南東北の3つの県都を中心とする広域都市圏の形成を目的とした「南東北中枢広域都市圏構想推進協議会」を設立
平成	3年	7月	東北横断自動車道酒田線の仙台・寒河江間が開通
平成	4年	10月	鳴子町(現大崎市)と遊佐町が兄弟町を提携
平成	6年	6月	南東北地域のマスタープランとなる「南東北中枢広域都市圏構想~南とうほくSUNプラン」策定
平成	8年	2月	宮城・山形両県が「地域連携軸形成可能性調査報告書」をとりまとめ
			仙台市長町のサンカトゥール商店街振興組合と山形市の七日町一番街商店振興組合が姉妹提携
			宮城・山形両県を結ぶ地域連携軸の形成に向け,両県及び両県商工会議所連合会が「宮城・山形地域連携推進会議」を開催
			宮城・山形両県南部を結ぶ国道113号沿線2市2町による広域観光推進組織「国道113号観光推進協議会」が設立
平成	9年		石巻・酒田間の地域高規格道路の建設促進に向け,宮城県石巻・大崎地域,山形県最上・庄内地域14市町村及び商工会議所等が「石巻・酒田間地域連携軸強化促進協議会」を設立
平成	11年	3月	宮城県古川地方県事務所,山形県北村山地方事務所・最上地方事務所による連携推進組織「大崎・北村山・最上地域連携推進会議」が設立
			石巻・古川・新庄・酒田4地区商工会議所青年部の持ち回りによる「みちのくウエストライン少年サッカー大会」の初回が開催
平成	11年	11月	岩沼市と尾花沢市が友好都市を提携

- 平成12年 3月 宮城・山形の交流・連携の推進に向けた常設的な組織として「宮城・山形地域連携推進会議」が設立  
宮城県石巻市と酒田市を結ぶ「みちのくウエストライン」の地域連携と道路網整備を図る「石巻・酒田間地域連携サミット」の初回が開催
- 平成13年 4月 仙台都市総合研究所，荘銀総合研究所，河北新報社，両県行政関係者等による自主的研究会「仙山圏交流研究会」が発足
- 平成14年 7月 宮城県仙台地方振興事務所，山形県村山総合支庁，仙台・村山両地域の全市町村による「仙台・やまがた交流連携促進会議」初会合
- 11月 東北横断自動車道酒田線 笹谷 - 関沢間4車線化が完成
- 平成15年 3月 仙山圏交流研究会が研究成果をまとめた「最終提言・報告」を発表
- 4月 仙台市・上山市の3遊園地が共通フリーパスを発売
- 5月 宮城・山形両県を結ぶ国道47号，国道48号，蔵王エコーラインの周辺にある温泉を紹介する広域観光マップ「スリーラン・ツイン・ホットスプリングス」が完成  
瑞巖寺（宮城県松島町），立石寺（山形市），中尊寺・毛越寺（岩手県平泉町）の連携によるキャンペーン「みちのく古寺巡礼 四寺回廊」スタート
- 8月 仙台・山形両市の合唱愛好家による「仙山コーラスジャンボリー」開催
- 10月 共同産直市「仙山交流味祭」を仙台で開催
- 11月 「宮城・山形・福島緊急広域商談会」を東京で開催  
仙山圏を舞台に県境を越えた交流・連携のあり方を考える「仙山カレッジ（主催：河北新報社）」第1回フォーラム開催
- 平成16年 1月 仙台～山形間的高速バスが1日60往復に増便
- 6月 蔵王連峰を取り巻く宮城・山形両県の温泉を紹介する広域観光マップ「蔵王11湯訪」が完成
- 7月 仙台・山形の広域観光に利用できるJR・バス2日間乗り放題の「仙山まるごとパス」販売開始  
仙台市在住の村山市出身者等による「仙台村山会」が発足
- 9月 「仙山キッズ食材・料理自慢大会」を仙台で開催
- 10月 第2回「仙山交流味祭」を仙台・山形両市で開催  
宮城県古川地方振興事務所・山形県最上総合支庁・秋田県雄勝地域振興局による「東北の『へそ』観光まつり」の初回を仙台市で開催
- 11月 「仙山寿司・そば談義クルージング」をマリゲート塩釜で開催  
宮城・山形両県の体験活動に関するガイドブック「みやぎ・やまがた体験学習のススメ」作成

- 平成17年 4月 東北芸術工科大学（山形市）がコンテンツ産業の大学院「仙台スクール」を仙台市に開設  
宮城・山形両県が職員の人事交流に着手  
宮城・山形両県がソウル事務所を共同化  
広域観光マップ「みちのく義経伝説紀行」作成
- 5月 宮城・山形・福島三県のIT関連企業による共同受注組織「東北ITクラスタ・イニシアティブ」が設立
- 6月 宮城・山形・福島三県による合同就職面接会「南東北UIターンフェア」を東京で開催  
宮城・山形両県が愛知万博で合同ステージ「宮城・山形時空の旅」を開催  
旧羽州街道沿道の市民有志が「羽州街道交流会」を設立
- 8月 「仙山交流あきんど塾」の初回を仙台で開催
- 10月 宮城・山形・岩手三県工業技術センター所長会議の初回を開催  
仙山圏の食材を使った「仙山駅弁」販売開始
- 11月 山形県総合政策審議会が「やまがた総合発展計画」を答申。宮城・山形両県を含めた広域的な圏域づくりを提言
- 12月 宮城・山形両県知事が仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（平成20年度）における共同の取組推進などで合意
- 平成18年 1月 宮城・山形両県議会議員が交流会を開催  
石巻市と河北町が友好都市を提携
- 3月 山形県村山総合支庁が仙山圏の連携指針として「仙山交流ビジョン」を策定
- 4月 高速バスに仙台～上山線が新設  
多賀城市と天童市が友好都市を提携
- 5月 仙台・山形・福島の3市が広域観光における協力に関する協定を締結  
南三陸町と庄内町が友好町を提携
- 7月 仙台・山形・福島の経済同友会が「南東北経済同友会観光推進連絡会議」を設立  
宮城・山形両県地域の将来像に関する基本構想の共同策定で両県知事が合意  
宮城・山形の森林ボランティアが蔵王刈田岳山頂で発の交流会  
宮城・山形・岩手三県による「とうほく自動車産業集積連携会議」が設立  
「宮城県議会・山形県議会交流議員連盟」発足  
宮城・山形・福島三県のIT関連企業による「とうほく組込み産業クラスタ」が設立
- 8月 仙台・山形両市の議員有志が仙山交流に関する懇談会を開催

- 9月 宮城・山形両県が総合防災訓練に職員を相互に派遣  
「おきたまの秋まつり（山形県米沢市）」に宮城県から出店  
宮城・山形・岩手三県合同の自動車関連技術展示商談会をトヨタ  
自動車本社で開催
- 10月 仙台・山形・福島の3市議会が広域観光連携の推進に関する覚書  
に調印  
仙台市の宮町商店街振興組合と山形県西川町が友好条約を締結
- 11月 宮城・山形両県議会議員が韓国・江原道議会議員と仙台市で交流  
宮城県仙南地域と山形県置賜地域との連携・交流を考える「仙南・  
置賜観光塾」が開催
- 12月 宮城・山形両県が「防災上の連携・協力に関する協定」を締結  
「仙南ふるさと味まつり（大河原町）」に山形県置賜地域から出店
- 平成19年 1月 宮城県総合計画審議会が「宮城の将来ビジョン」を答申。宮城・  
山形両県を含めた広域的な圏域づくりを提言
- 2月 山形県がアクセス鉄道「仙台空港線」の運営主体である仙台空港  
鉄道（株）への出資を決定  
宮城・山形両県の女性のネットワークづくりを支援する「宮城・  
山形女性交流会」の第1回目を山形市で開催